

# JFA news

6 NO.458  
2022.  
月情報号



特集

## U-18年代のゲーム環境

育成年代のゲーム環境将来ビジョン  
選手育成におけるリーグ戦の意義  
高円宮杯 JFA U-18サッカーリーグ開幕  
指導者に聞く



# PLAY SHARP



CO PA

PREDATOR



# JFA No.458 news

2022 6月情報号

## CONTENTS

特集

# U-18年代の ゲーム環境

004 育成年代のゲーム環境将来ビジョン

**小野剛** JFA技術委員会副委員長

007 選手育成におけるリーグ戦の意義

**林義規** JFA競技会委員長兼第2種大会部会長

010 高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ開幕

012 指導者に聞く

**長橋康弘** 監督(川崎フロンターレU-18)

**川口修** 監督(静岡学園高校)

【日本代表】

060 AFCフットサルアジアカップクウェート  
2022東地区予選

【連載】

042 日本全国FAコーチ巡り

鹿児島県サッカー協会

「さらに鹿児島県サッカーを盛り上げていけるように」

044 隔月連載 日本サッカータイムスリップ

「FIFAワールドカップへの挑戦(3)」

045 隔月連載 フットサル語り場

前川義信フットサル指導者養成ダイレクター

「まだ先の話ではなく2036年は今」

046 隔月連載 サッカー心育論

中山雅雄

「思考が上達の鍵」

048 いつも心にリスペクト

大住良之

「ある審判員の覚悟と決意」

◎JFAの理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、  
人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

◎JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、  
人々が幸せになれる環境を作り上げる。

サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、  
人々に勇気と希望と感動を与える。

常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには  
世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

◎JFAのバリュー

エンジョイ◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること  
プレーヤーズファースト◎選手にとっての最善を考えること  
フェア◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと  
チャレンジ◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること  
リスペクト◎関わりのあるすべてを大切に思うこと

【特別企画】

049 野々村芳和Jリーグチェアマン(JFA副会長)  
インタビュー

061 JFAユニクロサッカーキッズ20周年対談  
**柳井正** 株式会社ファーストリテイリング代表取締役会長兼社長  
×**川淵三郎** キャプテン JFA相談役

【INTERVIEW】

056 2021-22 Yogyibo WEリーグ  
岡島喜久子チエア

【大会・試合】

017 AFCチャンピオンズリーグ2022グループステージ  
053 2021-22 Yogyibo WEリーグ  
058 天皇杯 JFA 第102回全日本サッカー選手権大会

016 日本サッカーミュージアム  
018 月刊レポート～JFAリリースインフォメーション&活動報告  
026 会議レポート  
032 DATA BOX  
038 蹴球通信  
063 サッカーファミリー広場  
064 次号予告

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。  
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真  
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、©F.LEAGUE、©Walrix



JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス!」に取り組んでいます。これは「地球(earth)の未来(明日)のために私たち(us)が  
つなぐパス」の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時  
代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。

SPRING SUMMER 2022

ALFRED DUNHILL

No.458

ALFRED DUNHILL LTD.



DUNHILL.COM

dunhill

特集 U-18年代のゲーム環境

# 選手にとって 何が最適か を考える

日本サッカー協会（JFA）の技術委員会は現在、育成年代のゲーム環境を改善すべく取り組んでいる。その一環として、今年から高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグを東西各10チームから東西各12チームに拡大した。

技術委員会ではどのようにゲーム環境を改善しようとしているのか。同委員会の小野剛副委員長に改革の背景にある課題や構想の全容を説明してもらうほか、第2種大会部会（競技会委員会）の林義規部会長（JFA副会長）には選手育成におけるリーグ環境の重要性について聞く。

また、プレミアリーグを戦う川崎フロンターレU-18と静岡学園高校の指導者に、リーグ戦を通じた選手の成長や指導者としての思いなどを語ってもらった。





小野剛 JFA技術委員会  
副委員長

育成年代のゲーム環境将来ビジョン

## 小野 剛 JFA技術委員会副委員長 インタビュー

# 世界に肩を並べるための 育成環境の構築へ

日本サッカー協会（JFA）は選手の育成環境を整えるべく、「育成年代のゲーム環境将来ビジョン」の具現化に取り組んでいる。技術委員会の小野剛副委員長にJFAが目指す育成年代のゲーム環境、現状の取り組みなどについて聞いた。

○オンライン取材日：2022年5月20日

### 選手が自ら育つための ゲーム環境が必要

——「育成年代のゲーム環境将来ビジョン」を策定した背景をお聞かせください。

**小野** 少し歴史をさかのぼると、私がユースダイレクターを務めていた2000年頃、「さまざまな垣根を取り払ったリーグ戦を立ち上げよう」という声が上がっていました。当時はノックアウト方式の大会がほとんどで、リーグ戦がないどころかU-18年代では高体連（全国高等学校体育連盟）とクラブユースのチームが対戦する機会がないという、実にもったいない状況でした。なぜなら、少年団やタウンクラブ、中学校、高校、大学、そしてJクラブアカデミーと、それぞれの道に歩んでも情熱のある指導者と巡り会うことができ、プロ選手、代表選手へとつながっている、この幅広いパスウェイこそ、われわれの最大の武器であると感じていたからです。そこで能力や実力に応じてみんなが楽しめるリーグ戦があるべきだろうと。多くの方のご尽力で9地域によるプリンスリーグ、そして各都道府県リーグ（FAリーグ）が立ち上げられました。当初はリーグ戦に関して懐疑的な声が多かったものの、リーグ文化の浸透とともに、ごく自然にプレミアリーグ立ち上げの声が湧き起こりました。そして、2011年にU-18プレミアリーグ（高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ）がスタートし、プリンスリーグ、各FAリーグと、それぞれ能力に応じてサッカーを楽

しみ、実力が伯仲した競争力の高い試合ができる環境が整ってきました。しかし、世界に目を向けたとき、日本サッカーがもう一步踏み出すためにはここで満足して一息つくのではなく、ゲーム環境を含めて育成全体を常に前に進めていかななくてはならない。そうした考えから、将来のビジョンを描き始めました。

——良くなってきたものを、さらにブラッシュアップしていくこと。

**小野** そうですね。日本サッカー100年の歴史をひもとくと、アジアの最後尾からトップにまで成長しました。それを支えてきた選手育成、指導者養成などの結集した“力”は非常に大きいと感じています。しかし、次の100年に向けて、FIFAワールドカップ優勝を本気で目指すのであれば、まだまだやらなければならないことがたくさんあります。

——世界と比較する中で特に課題となっていることは？

**小野** 2018 FIFAワールドカップロシアで、サムライブルー（日本代表）は西野朗監督を中心に素晴らしい戦いを見せてくれました。先発で出ていた選手のほとんどはヨーロッパで数年間プレーしており、メンタル面も含めてインテンシティー（プレの強度）の高いサッカーに適應していました。しかし、その適應に至るまで数年分、他国に比べて選手の平均年齢が高くなり、20代後半から30代前半が多くなっていました。

——主力選手の平均年齢は29.5歳でした。

**小野** 例えばイングランドでは、18年のワールドカップで活躍したジョン・ストーンズやジョーダン・ピックフォードといった選手が当時23〜25歳。脂が乗った27〜29歳で今年、彼らにとつて2回目のワールドカップを迎えることになりました。

日本も、中堅クラスの選手がすでにワールドカップの経験を持ち、そこに勢いのある若手選手と、それを束ねる経験を積んだベテランの選手の融合がなされたとき、ワールドカップに手の届く可能性が高まると思います。そう考えると、今回活躍した選手たちのヨーロッパでの経験とまでいかずとも、それに近いインテンシティーの高いサッカーがユース年代でも経験できれば、若くして国際舞台で活躍することも可能になってくると思います。

育成では「教える・教わる」ことももちろん大事ですが、選手が「自らの力でたくましく育っていく」ことも必要です。そして、選手が自分の力で育つためには、ゲーム環境を整えることが重要なのです。

### 10代の若手選手が 主軸を担う欧州の環境

——ゲーム環境において、世界のトップと言われるヨーロッパの現状をどうご覧になっていますか。

**小野** イングランドの場合、リーグのレベルが高くなったことで他国から選手が流入し、自国の若手選手のプ



FIFAワールドカップを掲げるためには「選手として脂が乗った時期に2回目のワールドカップを経験することが求められる」と小野副委員長は言う

レリーの方がなくなるジレンマを抱えていました。そこから試行錯誤を重ねてホームグロウンの選手を育成していった結果、今では10代でチームの主軸を担う選手が育っています。

世界最高峰と言われるUEFAチャンピオンズリーグでも、多くの10代の選手が主軸として活躍し、中でもアーリング・ハーランド（ポルシア・ドルトムント／ノルウェー代表）は10代ですでに得点王を争っていましたし、マタイス・デ・リフト（オランダ代表）は19歳ながらアヤックスでキャプテンを務めました。

——日本では、10代でプロデビューするケースはまだあまり多くないですね。

**小野** その理由を考えなければなりません。ヨーロッパ各国にも日本と



ワールドカップを掲げるための強化に加えて、誰もが能力に応じてサッカーを楽しめる環境づくりも重要だ。サッカーに携わる全ての人がハッピーになるカレンダーの構築を目指す

同様にU-18の国内リーグがあるのですが、それと並行して欧州サッカー連盟（UEFA）が主催するUEFAユースリーグがUEFAチャンピオンズリーグと同じフォーマットで行われています。20時からトップチームのチャンピオンズリーグの試合があるとすれば、その前の例えば16時にユースリーグの試合が開催されるといった感じです。彼らはもちろん、国内でも高いレベルのリーグを戦いながら、それと並行して他国の強豪クラブとインテンシティーの高い試合をやっている。ですから、U-18の選手がトップチームに合流したときも遜色のないプレーができる。

——Jリーグでも積極的に10代の選手を起用した方が良いのでしょうか。

**小野** あくまでも競争によってポジションを獲得する環境をつくること

が大切です。数年前の統計ですが、UEFAチャンピオンズリーグのベスト8の舞台に立った83%の選手が

17歳の段階ですでにトップチームでプレーしていたとのことです。ローン移籍により下部リーグでプレーすることも含まれますが、厳しい真剣勝負の世界でプレーしながら成長してきたという事です。

少し前までは、若手選手を出場させるだけが怖いといった声がよく聞かれました。それはユース年代とJリーグのインテンシティーの違いを気にしたことだと思われれます。ユース年代においてもさらに高いインテンシティーでの競争の場をつくり出し、その差を埋めることができれば、堂々と試合に送り出すことが可能になるでしょう。

——ゲーム環境の改善を進める上で、カレンダーの再構築を重要なポイントとして挙げています。

**小野** ここまで強化の面を中心に話

してきましたが、本気でワールドカップを取ろうと思うならば、サッカー界全体が幸福感を持つことが重要だと思っています。実際、そういう国しかワールドカップは手にしていません。その一つとして、きちんとオフを取れるように、という狙いがあります。ヨーロッパの場合、シーズン後はしっかりと体を休め、家族と交流したり、翌シーズンへのモチベーションを養ったりしています。カップ戦を含めた実に多くの試合を戦いながらも、オフはしっかり取っている。各大

会によって日本サッカーがつくり上げられてきたことは間違いありませんが、全体像よりも「この時期が空いているから大会を入れよう」とカレンダーがつくられてきた結果、オフが取りづらい状況になっています。

——オフがないと常に疲弊した状態で戦わなければなりません。

**小野** 選手を筆頭に、指導者や審判が増え、疲弊している気がします。一昔前は、「家族との時間を犠牲にしてもサッカーに懸ける」というのが美談とされ、実際に私もそういう中で生きてきた一人です。しかし、今こそそうした風潮にピリオドを打たなければなりませんし、それがわれわれ世代の果たすべき役割だと思っています。家族から応援される選手、指導者、サッカー関係者、そのような環境をつくっていかなくてはワールドカップ制覇の夢はかなわないと思っています。

——カレンダーを再構築する上で、そのほかにどのような問題がありますか。

**小野** 例えば春や秋のコンディションの良い時期のプレミアリーグの試合など、世界と比べても全くひけを取らないレベルにあると感じていますが、一方、夏は猛暑の影響もあって「プレーキをかけながらの試合」になってしまいます。

U-18年代のカレンダーを見ると、春と秋は全国大会の都道府県予選などがあ

府県予選などがあり、時として大差が付く試合もしばしば見受けられ、敗れたチームはせっかくの良い時期に試合が全くなくなってしまう。現在ではまだ夏休みの7〜8月頃にリーグ戦の試合を入れざるを得ない状況も多いですが、季節に応じて試合を配備するという点で改善の余地があります。

——常に良いコンディションで、良いゲームができるように大会を整備していくべきだと。

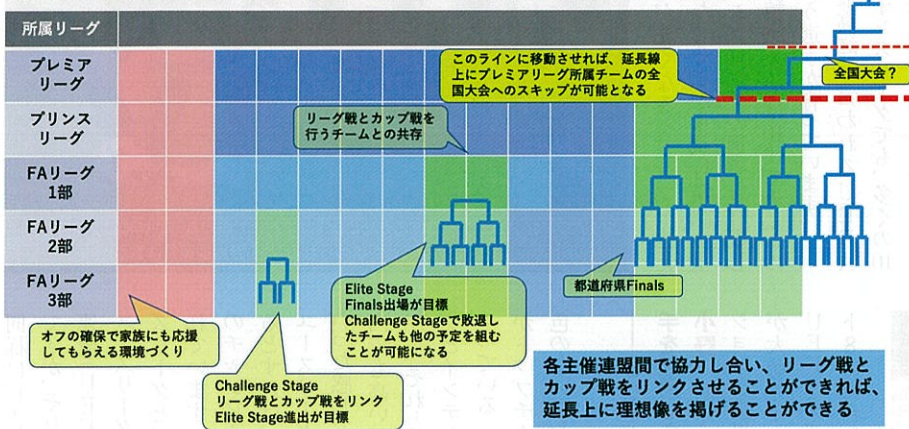
■ U-18年代のカレンダー

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
プレミアリーグ				★★	★	★★	★★	★	★★	★	★	★★
高体連カップ戦	全国大会					都道府県予選		全国大会		都道府県予選		
クラブカップ戦							予選	全国大会		予選		全国大会
気候												



## ■リーグ戦とカップ戦のリンクによるカレンダーの再構築

- ①「リーグ戦」と「連盟のカップ戦」とのリンクによる年間カレンダーの再構築  
 ②カップ戦の分散化による効率的なカレンダーの構築 WIN-WINを目指して



**小野** リーグ戦とカップ戦の融合は重要なポイントです。現状では、カップ戦がある時期はずっとカップ戦を戦い、プレミアリーグ所属のチームも1回戦から出場するところも多々あります。そうすると、地域によっては10点以上の点差がつく試合が生まれることもあります。それならば、プレミアリーグ所属のチームは準々決勝から出場するなど、ステージを分けるのも一つの方法です。

ヨーロッパのクラブが多くの試合から出場するくらいの発想があってもいいのではと思っております。例えば青森県は、プレミアリーグ所属の青森山田高校が25年連続で全国大会に出場していますが、もう1チームが全国大会に行けるとなれば、県予選はますます盛り上がるはず。もちろん多くの議論が必要ですが、今までこうだったからこうではなく、柔軟性を持ってみんなで考えていく必要があると思います。

—— 育成年代でもそうした形を取り入れることが理想なのですね。  
**小野** 一つの可能性と考えています。ステージ分けがされていけば、実力が伯仲した試合がたくさん生

—— 日本サッカーの向上のために何が必要かを考えて改革を図ろうとしているのですね。  
**小野** そうです。みんなが選手を中心にしているんなことを考えていけば、レベルに応じて常に拮抗した試合ができ、もっと選手が成長できる、そういう時代になると思います。もち



今年からEAST・WEST共に12チームで行われている高円宮杯JFA U-18プレミアリーグ。インテンシティーの高い試合が繰り広げられる

ろん現状の課題は山積みですが、「10年後を見据えてやろう」と、同じ夢や理想を描きながら進めれば、互いにリスペクトを持って一つ一つの課題をクリアしていけると思います。

—— 今年からプレミアリーグはチーム数を増加させました。あらためてどのようなことを期待されていますか。  
**小野** プレミアリーグを立ち上げるときも、反対意見がたくさんありました。そんなリーグは必要あるのか、高校3年間の限られた中で昇降格を設ける意味があるのかなど。でも、毎年素晴らしいドラマがここで生まれ、気持ちの入った試合が展開されています。昇降格を懸けたプレーオフで、勝っても負けても一番涙している最上学年の選手たちの姿を見ると、伝統とプライドを懸けた戦いが積み重なり、その価値は確実に高まってきているのを感じます。

—— プレミアリーグを中心に、まずまずの発展が期待されますね。  
**小野** カップ戦、リーグ戦、その双方が充実してきたおかげで、近年は高校を卒業してすぐにトップチームで活

—— 日本代表の躍進は日本の育成の結晶  
 サムライブルーがFIFAワールドカップカタール2022出場を決めたときに、森保一監督と話したのですが、最初に彼から出てきた言葉は「われわれの代表チームは、日本全国で育成のために汗を流してください」と、ぜひお礼を言いたいです」と。今の育成が日本のサッカーを支えているのは間違いありません。将来、ワールドカップに手が届いたときには、それは、この国の育成の集大成として携わっている全員で乾杯したいですね。



小野副委員長は「常に「Next Decade」、次の10年のために打つべき手を考えよう」と伝えている

躍する選手も増えてきています。その点では、ヨーロッパに近づいていると言っているでしょう。チーム関係者、リーグ運営の方の努力によって培われた土壌で、選手たちが自身の才能を開花させてきた結果です。また全国の指導者の皆さんが選手の良さを引き出し続けてくれているからであり、それに対する感謝の気持ちでいっぱいです。



選手育成におけるリーグ戦の意義

林義規 JFA競技会委員長兼第2種大会部会長  
インタビュアー

強度の高い試合を  
一つでも多く

U-18年代最高峰の高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグが、今シーズンから東西計24チームで行われている。従来の20チームから参加数を増やした狙い、今後のプレミアリーグに期待することを日本サッカー協会（JFA）競技会委員会の委員長で第2種大会部会の部会長でもある林義規氏（JFA副会長）に聞いた。

○オンライン取材日：2022年5月23日

リーグ戦の重要性を説き  
カレンダーを調整

——高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ（以下、プレミアリーグ）は、今シーズンから参加数を4チーム増やしています。その狙いを教えてください。

林 プレミアリーグについては、日本サッカー協会のゲーム環境将来ビジョンの一つとして育成部会のワーキンググループで長期にわたって議論してきました。日本は島国ですので、育成年代のチームが毎週のように海外遠征すること

は現実的ではありません。それならば、国内でインテンシティー（プレの強度）の高い試合環境を整えていくしかない、と。プレミアリーグが発足した2011年から、大差がついた試合の数、1位と10位のチームの勝ち点差、得失点差などを検証してきました。総合的に見て、リーグ全体のレベルは着実に上がっています。ですが、選手たちに今以上の成長を促すためには、インテンシティーの高い試合をさらに増やした方がいいという結論に至り、従来の東西各10チームから東西各12チームに増やしました。議論の過程で東西を

各15チームにする案、EASTとWESTを分けずに全国リーグを実施する案もありましたが、実現の可能性を考えて東西各12チームになりました。

——試合数が増えれば、チームの移動費もかさむと思われれます。チームにとって予算的に問題はなかったのでしょうか。

林 移動や宿泊などについては、JFAが50%近い額を負担しています。今のところ、プレミアリーグに出場しているチームから、経



今年から東西計24チームで争われる高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ。U-18年代最高峰のリーグ戦を通して各チームの選手たちがレベルアップを図る



済的な理由で参加できないという声は出ていません。学校によってはさまざまな努力をしています。例えば、熊本県立大津高校はクラウドファンディングで活動資金を募り、OB会からも支援を受けています。外部から予算を集める方法は多岐にわたりますので、今後、全国高等学校体育連盟(高体連)と知恵を出し合いながら進めていくつもりです。高体連のチームとクラブのユースチームが日本一を争う大会を実施しているのはサッカーだけです。すり合わせをしなから改善していくのは当然のこと。プレミアリーグの日程調整もその一つです。

——どのようにして日程の問題を解決されたのでしょうか。

林 プレミアリーグ、各地域のプリンスリーグに参加するチームは、インターハイ予選、高校選手権予選で一部シードされるようになりました。私は3年ほど前から35都道府県に出向き、各地の2種大会部長、2種大会委員長、強豪校の監督たちと話し合いを重ねてきました。プレミアリーグとプリンスリーグは高体連主催の大会ではないため、高体連が主催しているインターハイと高校選手権の予選でシードを与えることに反対もありました。公平性を考えれば確かに正論ですが、それでは何も変わらない。U-18年代の育成環境は良くありません。日本サッカーを発展させるためにもインターハイ、高校選手権に加えて、リーグ戦を根付かせることの必要性を説き、

納得してもらいました。

プレミアリーグは着実に根付いている

——現在、日本のU-18年代において、プレミアリーグはどのようになっていると感じられますか。

林 サッカー関係者たちの認識は徐々に変わってきています。一昔前であれば、大学のスポーツ推薦を受ける基準は、高校選手権やインターハイでベスト8に入ることでした。昨今は、プレミアリーグの出場経験も選考の一つになっています。それだけリーグが認知され、評価していただけるようになったということですね。

——選手や監督たちにとって、U-18年代の真の日本一を決めるプレミアリーグに参加できないことは誇らしいことなのではないでしょうか。

林 Jクラブのアカデミーは、プレミアリーグで戦うこと、良い成績を残すことに最も力を入れています。ただ、高体連のチームにとつては、やはり高校選手権

のステータスがとて高い。強豪校の監督たちと話をしていると、「プレミアリーグでの目標は、まず残留すること」という声をよく耳にします。世間の注目度にも差があります。2019年12月15日、プレミアリーグの東西王者が争うファイナル(当時はチャンピオンシップ)で青森山田高校対名古屋グランパスU-18がしのぎを削った一戦は、観客1万5223人を集めるのが精いっぱいでした。その1カ月後に行われた高校選手権の決勝には、青森山田と静岡学園の試合を見ようと5万6025人が詰めかけました。100回の歴史を誇る高校選手権には、根強いファンがいます。その高校選手権のように歴史を積み重ね、いずれはプレミアリーグのファイナルも盛り上げたい。高校選手権であれば、古くは帝京高校や武南高校、最近では青森山田などと優勝校が認知されています。それと同じように「プレミアリーグの強豪チームといったらここ」と名前が挙がるようにすること。

——継続することが、認知してもらおうことにつながりますね。

林 そのための広報活動、メディアの露出を増やすことにはもちろん力を入れています。会場に足を運んでもらわないことには、認知度アップにはつながりませんから。観客の関心を引きつける試合もたくさんあります。先日(5月7日)、群馬県のアースケア敷島サッカー・ラグビー場で行われた前橋育英と青森山田の試合を観察したときはスタンドが埋まっていました。客席で観戦していて気づいたのは、保護者と一緒に来ている小中学生が多いこと。プレミアリーグが着実に根付いてきていると実感しました。

ハードルはあるが理想を追い続ける

——プレミアリーグは12年目を迎えています。ここまで、どのような成果が上がっていると思われませんか。

林 ノックアウト方式の大会は、極端に言えば1点差で負けても10点差で負けても同じ敗戦ですが、リーグ戦はそうはいきま

林 5、6、10、11月に試合を組み込むことです。今シーズンは、この時期に多くの試合を設けましたが、簡単に決まったわけではありません。以前から試合数を増やしたいと考えていたのですが、5月と6月にはインターハイ(全国高等学校総合体育大会)がありますし、10月と11月は全



プレミアリーグEASTでは、青森山田(白)や市立船橋(青)といった高体連勢も奮闘中。Jクラブのアカデミーに真っ向から挑んでいる

——リーグ戦で試合の運び方を学ぶ機会が増えたことにより、ピッチでの戦い方はどのように変化してきましたか。

**林** データを見ると、開始直後の5分、終了間際の5分、得点(失点)直後の5分という時間帯でスコアが動く傾向にあります。勝負どころで点を取り、しっかり守ることができるようチームが上位を占めるようになってきました。リーグ戦の良いところ

——プレミアリーグ発足当初は、Jクラブのアカデミーがリーグを独占し、高体連チームの入り込む余地がなくなることに懸念されていました。

**林** 正直、私も「高体連枠」をつくるべきか迷いましたが、甘えの構造をつくっては駄目だと思いとどまりました。現在、J1からJ3まで全国各地の58クラブがアカデミーを有していますが、特に地方では高体連のチームが依然として力を持っています。今シーズン、プレミアリーグのチーム数を増やすにあたって参入戦を実施したときも6チーム中4チームが高体連でした。Jクラブのアカデミーと高体連は良い競争をしています。互いに切磋琢磨し、レベルアップしていることは間違いありません。

——青森山田高校が2回、優勝

するなど高体連勢の健闘が光ります。

**林** 高体連のチームの中には、Jクラブのジュニアユースからユースに昇格できなかった選手が数多くいます。反骨心を持った選手たちは強い。プレミアリーグで古巣と戦うときは、選手たちも余計に燃えますよね。中村俊輔選手(現、横浜FC)は横浜マリノスのユースに昇格できなくても桐光学園高校で大きく成長し、高卒でプロ入り。その後、日本代表に選出され、ヨーロッパでも活躍しました。現在、全日本大学選抜で活躍する早稲田大学の安斎颯馬選手は青森山田出身ですが、かつてFC東京U-15深川でプレーしていました。成功例を挙げれば切りがありません。日本の場合、(プロへの)山の登り方はそれぞれで、それがこの国の育成年代のアドバンテージと言えます。

——国内最高峰のリーグ戦に臨む上で、指導者に意識してもらいたいことは何ですか。

**林** クラブや高校独自の考え方がありますので、それぞれのコン

——将来的にどのようにプレミアリーグを発展させていきたいですか。

**林** 高体連の強豪チームが、今まで以上にリーグ戦に力を注げる体制をつくっていくと考えています。インターハイの予選と高校選手権の予選で(プレミアリーグ参加チームの)シード制を充実させ、カレンダーに余裕をもたせることは、その一つの策です。まだ越えるべきハードルはありますが、理想を追い続けます。

せん。得失点差がありますし、状況によって引き分けでもよしとなる試合があります。勝ち点差や得失点差をめぐる駆け引きは、リーグ戦での経験を積まないと身につかないものです。指導者を含め、高校生年代から試合の運び方を学ぶ良い機会になっています。実際、プレミアリーグやプリンスリーグを経験し、ヨーロッパに羽ばたいていった選手たちも出てきています。今の日本代表では、アビスパ福岡のアカデ

ミーで育った富安建洋選手(アーセナル/イングランド)がその一人ですが、彼は中学3年生のときから飛び級でプレミアリーグに出場しています。堂安律選手(PSVアイントホフ/フェン/オランダ)もガンバ大阪ユース時代にプレミアリーグを経験し、ヨーロッパのクラブに移籍した一人です。彼らの成長を促したことが、このリーグの成果の一つだと言えます。

ろは、負けた後にもすぐ試合があること。課題を素早く克服して次の試合につなげることが求められます。M-TIM(試合レポートニング/試合)のサイクルを経て成長しながら次の試合に臨むサイクルができています。

——プレミアリーグ発足当初は、Jクラブのアカデミーがリーグを独占し、高体連チームの入り込む余地がなくなることに懸念されていました。

セプトの下で戦っていかないと。思います。Jリーグが開幕してまだ30年目。ユース年代にリーグ戦が導入されたのは、前身の関東スーパーリーグ時代から数えても20数年です。改善すべき問題は山ほどあります。例えば、受験勉強があつたとしても、年間を通してリーグ戦をやり続けることが大事だと思います。本来、勉強は毎日するもの。試験前日から勉強に精を出すのではなく、日々積み重ねていくものです。私が暁星高校の監督を務めていたときは、テスト前でも部活動を続けていました。

——将来的にどのようにプレミアリーグを発展させていきたいですか。

**林** 高体連の強豪チームが、今まで以上にリーグ戦に力を注げる体制をつくっていくと考えています。インターハイの予選と高校選手権の予選で(プレミアリーグ参加チームの)シード制を充実させ、カレンダーに余裕をもたせることは、その一つの策です。まだ越えるべきハードルはありますが、理想を追い続けます。



# U-18年代最高峰のリーグが開幕！ 初参入の川崎F、鳥栖が 好スタートを切る

高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2022が4月2日に開幕した。今季から4チーム増やし、東西各12チームに拡大してそれぞれ22節で争われる。

**実力が均衡したEAST  
WESTは鳥栖が暫定首位に**

昨季、プレミアリーグEASTと全国高等学校サッカー選手権大会を制した青森山田高校、その黒田剛監督が、「レベルの高い試合を毎週繰り返す中で選手たちが鍛えられることが本当に大きかった」と振り返ったように、高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグは、ユース年代の育成・強化を担う重要な大会となっている。

第8節を終えた時点でEASTの首位に立ったのは今季参入組の川崎フロンターレU-18。初年度ながら「優勝」を目標に掲げるチームは、7勝1分けという抜きん出た成績を収めている。長橋康弘監督は「簡単に勝った試合は一つありません」とした上で、「プレミアリーグは本当に毎試合手強い相手、しかもカラーの異なる相手との戦いになるので選手たちにとっても学びが大きいですし、力が付きます」と話す。また開幕前の時点で「やはり選手たちのモチベーションが練習から違っていた」と、最高峰のリーグを戦う意義を強調してもいた。

暫定順位ながら、勝ち点差3で2位に横浜F・マリノスユ-

ス、3位にFC東京U-18、そして4位には前橋育英高校が入っている。ただ、各チームの監督が「本当に力の差がないリーグ」と口をそろえるように、未勝利のチームは一つもなく、8位から12位の下位グループも勝ち点1差に収まる混戦模様。優勝争いはもちろん、残留争いもかなりタフな戦いになりそうだ。

一方、WESTは、コロナ禍の影響を受けて8試合を終えたチームはなく、最大で3試合の開きがある。その中でサガン鳥栖U-18は、開幕戦で新規参入を果たした履正社高校に3-0で勝利すると、ここまで6勝1敗20得点4失点という数字を残し暫定首位に立っている。「勝ちながら課題を改善できるのが理想。



WESTで首位を走る鳥栖(左)は攻守ともに隙のない強さを見せている



さまざまなスタイルの相手と競うことで選手のレベルアップが期待される。写真は青森山田対市立船橋

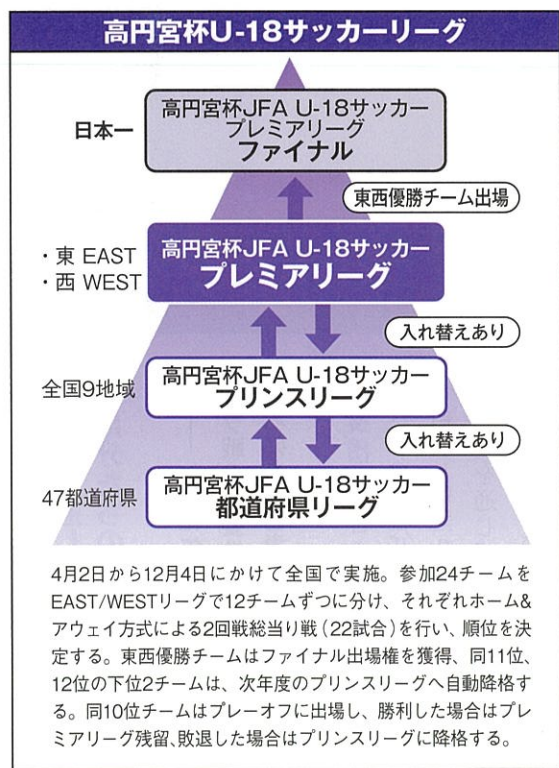
このリーグで出た反省点を次の試合に生かすことを繰り返し、さらに成長しながら戦っていく」と語る田中智宗監督の下で、確かな強さを見せた格好だ。

その鳥栖に唯一の黒星を付けたのが、今季からプレミアリーグ復帰を果たした静岡学園高校（暫定2位）だ。静岡の名門校を率いる川口修監督はかねてより「選手の成長のため、プレミアリーグに戻る必要があるし、そのレベルを意識してトレーニングしていかねばならない」と強調してきたが、その成果をしっかりと見せている。「個人のレベルアップを重視している」という静岡学園にとってプレミアリーグは格好の舞台と言えるそう。

首位と勝ち点3差、2位と同一差の3位にはジュビロ磐田U-18が入った。少し離れた4位にセレッソ大阪U-18が続く。下位では名門のガンバ大阪ユースが勝ち点0の最下位に低迷しているように見えるが、コロナ禍による試合延期の影響が大きいことを思えば、まだまだ順位は激しく変動するだろう。

### 個人的なチームがぶつかり 選手の成長を促す

リーグ戦を戦う中でチームとしての戦い方はもちろん、選手の意識も確実に変わってきた。小中学生から当たり前のようになり、個人としてもリーグ戦を通じて成長しようと高い意識で試合に臨んでいる。



MTM（マッチ・トレーニング・マッチ）のサイクルを利便して個人としてレベルアップしていく意識が選手たちに広く育ってきたのは大きな変化と言えるだろう。横浜FCユースの小野信義監督が「チームごとにスタイルが違う」と語るように、個人的なチームがそれぞれの特色をぶつけ合うことで高め合っている点も、クラブチームと高校部活動チームとの垣根なく争われるこの高円宮杯の特徴だ。小野監督は「例えば、青森山田高校のような自分たちと異なるスタイルの相手と試合をすると、戦う中で多くの学びがあります」と強調する。一方、その青森山

田の黒田監督も「うまさのあるユースと戦う中で、こちらの甘さ、克服すべき課題が見えてくるようになった」と分析する。今季からチーム数が増え、それに伴って試合数も増えたが、各チームはレベルを落とすことなく戦っている。日本サッカー協会の影山雅永ユース育成ダイレクターは「24チームが増えた中で、東西で新規参入チームが躍進しているのは、確実にU-18年代全体の層が厚くなったことの表れ」と、リーグ拡大の手応えを話す。

試合数が増え、さらに全体のレベルも上がっており、これからますます熾烈を極めるだろう。12年目を迎えた育成年代

### ■ EAST

順位	チーム名	勝ち点	試合数	勝	分	負	得点	失点	得失差
1	川崎フロンターレU-18(神奈川県)	22	8	7	1	0	18	6	12
2	横浜F・マリノスユース(神奈川県)	18	8	6	0	2	29	11	18
3	FC東京U-18(東京都)	15	8	5	0	3	21	17	4
4	前橋育英高校(群馬県)	13	7	4	1	2	17	12	5
5	横浜FCユース(神奈川県)	11	8	3	2	3	14	12	2
6	大宮アルディージャU18(埼玉県)	10	8	3	1	4	12	11	1
7	青森山田高校(青森県)	9	8	3	0	5	8	9	-1
8	柏レイソルU-18(千葉県)	6	5	2	0	3	8	13	-5
9	JFAアカデミー福島U-18(静岡県)	6	8	1	3	4	8	17	-9
10	流通経済大学付属柏高校(千葉県)	5	7	1	2	4	6	10	-4
11	桐生第一高校(群馬県)	5	6	1	2	3	8	18	-10
12	市立船橋高校(千葉県)	5	7	1	2	4	4	17	-13

### ■ WEST

順位	チーム名	勝ち点	試合数	勝	分	負	得点	失点	得失差
1	サガン鳥栖U-18(佐賀県)	18	7	6	0	1	20	4	16
2	静岡学園高校(静岡県)	16	7	5	1	1	17	6	11
3	ジュビロ磐田U-18(静岡県)	15	6	5	0	1	16	10	6
4	セレッソ大阪U-18(大阪府)	10	6	3	1	2	19	11	8
5	名古屋グランパスU-18(愛知県)	9	5	3	0	2	10	10	0
6	ヴィッセル神戸U-18(兵庫県)	9	7	3	0	4	13	14	-1
7	清水エスパルスユース(静岡県)	7	7	2	1	4	13	14	-1
8	履正社高校(大阪府)	7	7	2	1	4	15	17	-2
9	東福岡高校(福岡県)	6	4	2	0	2	5	11	-6
10	サンフレッチェ広島FCユース(広島県)	4	7	1	1	5	10	17	-7
11	大津高校(熊本県)	4	5	1	1	3	3	13	-10
12	ガンバ大阪ユース(大阪府)	0	4	0	0	4	3	17	-14

※成績は第8節終了時点

最高峰のリーグ戦。EAST、WESTともにその頂点に立つのはどのチームか。ユース世代の活躍から目が離せない。

指導者に  
聞く

# 長橋 康弘 監督

川崎フロンターレU-18

## 環境が人を育てる

近年、トップチームやサムライブルー（日本代表）に多くの選手を輩出している川崎フロンターレU-18。今季は高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグに初参入し、第8節終了時点でEASTの首位に立っている。育成年代で結果を残し続けているクラブの長橋康弘監督にゲーム環境の重要性について聞いた。

○オンライン取材日：2022年5月25日

年間を通したリーグ戦で自分たちの現在地を知れるところにあると考えていますか。

—— U-18年代において、リーグ戦の重要性はどのようなところにあると考えていますか。

**長橋** コロナ禍の影響でなかなかあった部分もありますが、同じ相手と年に2回対戦できるので、年間を通じて自分たちがどのくらい成長できたのかを検証しながらチームづくりを進めていくことができます。自分たちの現在地をタイムリーに知ることができるので、選手の成長、クラブ、チームとしての成長が非常に分かりやすいという点が挙げられます。

—— ちなみに、ご自身が高校生だった頃は、リーグ戦はあったのでしょうか。

**長橋** あったとは思いますが、今のように年間を通じてやってきた記憶はないですね。高体連のチーム（静岡北高校）で、夏の全国高等学校総合体育大会、冬の全国高等学校サッカー選手権大会という二つの大きな大会に照準を当ててチームは動いていたので、年間を通じてのリーグ戦と

いうのは記憶にありません。——リーグ戦が整備された今のプレー環境はどのようにご覧になっていきますか。

**長橋** もちろん優勝という目標に向かって戦うことになりませんが、リーグの進み方や勝ち点の積み上がり具合によっては優勝の可能性が消滅したり、降格を回避するために戦ったりすることがあります。そのときにどう戦うかも含め、選手たちには若いうちから得ておかなければならない非常に大切な経験をさせていただいていると思っています。

——長橋監督は川崎FでU-10、U-12、U-15、U-18と幅広い年代を指導してきました。年代によってリーグ戦の戦い方や選手が得るものは異なるのでしょうか。

**長橋** ジュニア年代のコーチをしていた頃はとにかく個人の技術を高めることに意識を向けていたので、年間を通してどう戦うかはそれほど気にしていませんでした。カテゴリーが上に行くにつれて順位の目標を立て、チーム戦術の部分もある程度を重視し、自分たちがチームとしてどう変わっていくかの経緯を踏まえながら

リーグ戦を戦っていくことになり  
ます。ジュニア、ジュニアユース、  
ユースとカテゴリーが進むにつれ  
て、個からグループへ、グループ  
からチームへとという段階を踏んで  
変わっていくイメージです。

### 最高峰のリーグ戦で 選手の意識にも変化

——リーグ戦を戦う中で、指導  
者のレベルアップにつながる部  
分も多いですか。

**長橋** 非常に多いですね。特に  
今年は高円宮杯プレミアリーグ  
に初めて参戦しているのですが、  
1試合ごとに大きな刺激を受け  
ています。勝ち点は積み上げら  
れています。簡単な試合は1  
試合もありませんし、実際に学  
べるのがたくさんあります。

リーグ戦では自分たちに足りな  
いこと、逆に成長を実感するこ  
となど明確になりやすいので、す  
ごく勉強になります。これは選  
手も一緒だと思います。

——今、お話にあった通り、プ  
レミアリーグを初めて戦う中で  
プリンスリーグ関東との違いを  
特に強く感じる部分を教えてください。  
——

**長橋** プレミアリーグは日本最  
高峰のリーグですのでもちろん  
違いはあるのですが、プリンス  
リーグ関東もハイレベルなリーグ  
戦が展開されています。強いチー  
ムばかりなので、簡単に勝てるよ  
うな状況ではありませんでした。  
ただ、プレミアリーグで感じたの  
は、どのチームも目指すスタイル  
がすごく明確に出ているという  
ことです。対戦相手のストロング  
ポイントを克服しながら自分た  
ちの良さを出していくという部  
分では、大人のリーグ戦に近い環  
境に身を置いているという印象  
が今のところ強いですね。

——現在、第8節を終了して7  
勝1分けの首位に立っています。  
好成績を残せている要因を教え  
てください。

**長橋** 開幕してみないと見えて  
こない部分、分からない部分、不  
安な部分がたくさんあった中で、  
開幕戦で勝利を収め、自分たち  
の取り組みに自信が持てるよう  
になったことが大きいと思いま  
す。試合中も選手たちは勇気を  
持って自分たちで決断し、自信  
を持って自分たちのサッカーを展  
開できるようにになりました。あ

とは、試合に出していない選手の意  
識も大きく変わってきました。プ  
レミアリーグで1試合でも多く  
プレーしたいという強い気持ち  
がトレーニングからも見受けられま  
す。プレミアリーグを戦うことで  
得られたこれらの影響に、私自  
身も驚いています。

——人間性における選手たちの  
成長も大きいと？

**長橋** そうですね。今年は特に  
今までの違いを感じています。  
プレミアリーグという本場に高  
いレベルの中で戦うためにはど  
うすればいいのか、選手たちが  
自分自身で考えるようになりま  
した。それによってトレーニング  
での時間の使い方が大きく変わ  
りました。トレーニング以外の  
時間で何を考え、どう自身の成  
長に取り組んでいるのか、個々の  
成長を見ていると感ずるところ  
です。一人の人間としてしっかり  
自立していくということは、チー  
ムとして掲げている目標の一つで  
もありません。

**テクニクだけでは  
プロ選手にはなれない**

——これまでトップチームに多  
くの選手を輩出しています。トッ  
プに昇格する選手はU-18の3年  
間でどういう部分が伸びるので  
しょうか。

**長橋** 昇格した選手に共通し  
ているのは、サッカーでプロに  
なりたいという意志が強く、そ  
れが普段の行動から見受けら  
れる点ですね。サッカーのテク  
ニクや素質だけではプロには  
たどり着けないのかなと思いま  
す。彼らの活躍を見て私たち指  
導者も学んでいますし、トップ  
チームに昇格するだけでなく、  
そこからいかに活躍できる選手  
になるかという点では、昇格  
した選手が良いモデルケースに  
なってユースチームの選手たち  
の目標を引き上げてくれている  
と思っています。

——U-18のコーチ時代に三好  
康児選手(現、ロイヤル・アン  
トワールFC)や板倉滉選手(現、  
シャルケ04)を指導しています  
が、彼らのリーグ戦への取り組  
み方について印象に残っている  
ことはありますか。

**長橋** 昇格した選手たち全員に  
言えるのは、自分が成長するた  
めにとことん時間をかけるんで

すよね。練習が終わってからも  
ひたすらボールを触っていて、「も  
うやめておけよ」とこちらが声  
をかけても「まだできるでしょ」  
と続けていました。プロサッカー  
選手になるんだ、という強い覚  
悟を、共通して持っていました。  
自分たちで成長への道筋を描い  
ていましたし、私たちはけがだけ  
はしないようにと祈りながら見  
守っていました。

——プレー環境は選手たちの成  
長にどのような影響を与えると  
思いますか。

**長橋** 環境が本当に大事です。  
環境が人を育てると言っても過  
言ではない、ということをも、プ  
レミアリーグで戦う今年により強  
く感じています。対戦相手のレ  
ベルも違いますし、天然芝のき  
れいなグラウンドで、お客さんも  
入っていたら、そうした緊張  
感の中で試合をするというのは  
今までありませんでした。そこ  
で本気の勝負をすることによっ  
て、短期間で大きく変わる子が  
いるんですね。その姿を見ると、  
環境で選手は本当に成長する  
んだな、というのをあらため  
て感じます。

指導者に  
聞く

# 川口修 監督

静岡学園高校

## プレー環境が選手たちの 成長スピードに与える 影響は大きい

静岡学園高校は2019年度の全国高校サッカー選手権大会で24年ぶりの頂点に立った。個のレベルアップを念頭に置き、選手たちは3年間で大きく成長を遂げている。今季、9年ぶりに戦う高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグでは暫定2位。テクニカルで攻撃的なサッカーを指導する川口修監督に現在のゲーム環境について聞いた。



○オンライン取材日：2022年5月27日

### 格上チームとの対戦で 自分たちの良さを磨く

——静岡学園は9年ぶりに高円宮杯プレミアリーグに復帰しました。昨季まで戦っていたプリンスリーグ東海との違いをどう感じていますか。

川口 プレミアリーグはわれわれよりも格上のチームが多いので、チャレンジャー精神を持って戦わなければなりません。相手に正面から立ち向かい、練習したことをチャレンジして出し切らないとうまく戦えませんし、勝つこともできない。そこがプリンスリーグと全く違うところですね。選手たちの成長度も違います。昨年と今年を比較すると、現時点での成長スピードは昨年の夏と同程度になっています。試合で得られる経験値や課題の数も、プリンスリーグより圧倒的に多いですね。

——現時点で7試合を戦い、5勝1分け1敗と好成績を残しています。その要因を教えてください。

川口 格上のチームや日本代表に選ばれている選手を擁するチームと対峙する時は選手たちのモチ

ベーションも上がるので、それが要因の一つになっているかもしれません。相手チームに年代別代表の選手がいる場合は、その選手をしっかり抑えれば自分たちはもっと成長できるという話を選手としていきますから。

——リーグ戦の重要性はどのようなところにあると考えていますか。

川口 一発勝負のノックアウト方式ではなるべく失点をしないように、という手堅い試合になることが多いのですが、リーグ戦は自分たちの良いところを出しながら戦う試合が増えます。その中でまた課題が出て、次の試合につなげる。ノックアウト方式にも良さがあります。全国的にもリーグ戦で育成年代から選手強化を図れたら、もっとレベルアップできると思っています。

——ご自身も静岡学園高校の出身ですが、高校時代の試合環境はいかがでしたか。

川口 当時、リーグ戦はなかったですね。新人戦から全国高等学校総合体育大会（インターハイ）、全国高校サッカー選手権大会を目指すというのが年間のスケジュール



ルで、全国選手権で勝つことが最大の目標でした。それを考えると、リーグ戦でトライ&エラーを繰り返しながら課題も収穫も得て成長できる点で、今はすごくいい環境ができていると思います。

### リーグ戦は選手を育てる場 指導者としても刺激

——川口監督は高校卒業後にブラジルにサッカー留学され、ポタフオゴに所属していらつしやいましたが、現地での試合スケジュールはどのようなものでしたか。

**川口** チームはジュニオールというU-21のカテゴリーに所属していたのですが、リーグ戦が中心でした。2月に開幕するタッソ・サンパウロという大会があり、リーグ戦を勝ち抜くと最後にノックアウトステージがあるんですね。実際にノックアウトステージの上の方まで勝ち上がりましたが、年間を通してトーナメントはそのノックアウトステージだけで、あとはほぼリーグ戦でした。

——環境面で日本との違いを強く感じた部分はありますか。

**川口** ブラジルでは、週末まで

一緒にやっていた仲間が翌週にはいなくなるということがよくあるんです。「何でいないの?」と聞くと、「あいつはクビになった」と。そういうことが頻繁にありました。それぐらい厳しい環境です。そこから、人生を懸けて取り組んでいる選手ばかりでした。

——指導者としては、主に高校生年代を指導してきました。年間スケジュールではインターハイや高校選手権などのノックアウト方式とリーグ戦方式が混在していますが、戦い方やそれぞの大会が選手にもたらすものについてはどうお考えですか。

**川口** 先ほどもお話しした通り、ノックアウト方式はどうしても手堅い戦い方になります。一方、リーグ戦は選手を育てる場だと思います。もちろん選手たちは勝つために努力しますが、指導者として特に重視しているのは選手をプロへ導くことであり、そのためにはいろいろな側面を伸ばしていかなければなりません。技術やフィジカル、マインドなど全てをレベルアップさせて、試合の中で表現できる選手がプロになれる。それができる環境がリーグ戦だと思っています。

——リーグ戦を戦っていく中で、指導者のレベルアップにつながる部分を教えてください。

**川口** 指導者としても、毎週末が楽しみで仕方がありません。次はこんなチームと対戦できる、早く試合がしたいというワクワク感があるチーム、こだわりのあるチームばかりなので、「このチームはここにこだわっているのか」「ここをストロングポイントにしているのか」というのがよく見えます。勝利だけを求めるのではなく、それぞれが大事にしている部分を伸ばしてプロ選手を育てるという方針が各チームに見て取れますし、刺激を受ける部分ですね。

——井田勝通総監督からリーグ戦の戦い方についてアドバイスを受けることはありますか。

**川口** 明確なアドバイスはありませんが、試合を見ながらいろいろなことをつぶやいているので、私は試合を見ながら耳だけを井田監督の方に向けています(笑)。現場で毎日、選手たちを見ている私とは違い、井田監督には客観的に見えている部分があるのですね。「監督は今こういうことを考

えているのか」とか「こういったことが見えているのか」と参考になります。

### 自分の課題に向き合う マインドが大事

——静岡学園は多くのプロ選手を輩出しています。高卒でプロ入りする選手は高校の3年間でどういった部分が伸びるのでしょうか。

**川口** 間違いなくマインドの部分ですね。うちの選手はみんなうまいんですが、差が出るのは、自分の課題はどこにあり、プロに行くためには何を身につけて何をストロングポイントにするべきかを整理できているか否かです。成長する選手は何も言い訳をせず、足りない部分があれば練習をして、次の試合で良さを出せるように努力します。そういう行動につながるのはいずれマインドだと思っています。

——U-18年代のゲーム環境について、改善してほしいと思う部分はありますか。

**川口** 個人的には、プレミアリーグもプリンスリーグのように2部

制にしてはどうかと思います。今はEASTとWESTに分かれています。たとえば高体連のチームがインターハイを戦っている時期に、EASTとWESTの交流戦がきたらいいですね。静岡学園はWESTに所属していますが、現状ではリーグ戦を制してファイナルに進出しない限りEASTのチームと対戦できないので、交流戦のようなものができたらいいなと思っています。

——プレー環境は選手たちの成長にどのような影響を与えていると思いますか。

**川口** 昨年、インターハイの準決勝で青森山田高校と対戦した時、プレミアリーグのチームと対戦できるということで、私も選手たちも自分たちの良さを出さべく臨んだのですが、何もやらせてもらえませんでした(0-4で敗戦)。実際の強さやワンプレーに対する集中力が全く違って、選手たちはそこで自分たちの足りないものに気づき、急成長していききました。プレミアリーグでは、そうした感覚を毎週体感することができません。プレー環境が選手たちの成長スピードに与える影響は大きいと思います。

# 日本サッカーミュージアム **17+**

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15)  
Tel: 050-2018-1990

- 営業時間 火～金曜日 12:00～17:00(最終入場16:30)  
土・日・祝日 10:00～17:00(最終入場16:30)  
特別営業期間 10:00～17:00(最終入場16:30)
- 休館日 月曜日(祝日の場合は翌火曜日)  
年2回のメンテナンス期間
- 入場料 一般大人:550円、小中学生:300円、幼児:無料  
団体(20名様以上)・障がい者の方:  
大人450円、小中学生200円  
※割引については、入場ゲートスタッフまでお問い合わせください。
- URL [https://www.jfa.jp/football\\_museum/](https://www.jfa.jp/football_museum/)  
※臨時休館をしている場合がございますので、JFA公式ウェブサイトでの最新開館情報をご確認の上ご来館ください。



## 2002 FIFAワールドカップ日本/韓国から20年

FIFAワールドカップカタール2022が開催される今年は、2002 FIFAワールドカップ日本/韓国から20年の節目を迎える年でもある。

2002年5月31日～6月30日の1カ月にわたって日本と韓国で共催されたFIFAワールドカップは、大会史上初の共催、そしてアジアで初の開催となった大会だ。この記念すべき大会で日本はワールドカップ初の勝ち点、初勝利を挙げてグループステージを突破し、初のベスト16進出を果たした。

世界中から「笑顔のワールドカップ」と称賛された大会は大成功を収めて幕を閉じた。その後、各地にトレーニングセンターが建設されるなど多くのレガシー(財産)を築き、日本サッカーの環境は大きく変化していった。

日本サッカーミュージアムも同大会を記念して創設され、2003年12月22日に開館した。

ミュージアム地下2階「ピッチ」の中央には、日本代表が円陣を組んだ姿が再現されているが、これはワールドカップ初勝利を挙げたグループステージ第2戦のロシア戦(2002年6月9日)でのものだ。選手たちが実際に着用したユニフォームが用いられ、日本サッカーミュージアムの中でもひととき存在感を放っている。円陣はあと一人加わって完成する形となっており、その円陣に入って臨場感を味わったり、記念撮影をすることもできる。

また、同大会でキャプテンを務めた宮本恒靖選手が、大会で着用したフェイスガードも展示されている。

当時、宮本選手は、大会直前に行われた練習試合で鼻骨を骨折。本大会には、急きょ手配した特注のフェイスガードを着用して出場した。フェイスガードの元の色はベージュだっ



2002 FIFAワールドカップ日本/韓国 宮本恒靖選手 着用フェイスガード



2002 FIFAワールドカップ日本/韓国 宮本恒靖選手 着用スパイク

たが、日本代表の川俣則幸GKコーチ(当時)から「黒の方が強そう」とアドバイスを受け、宮本選手自身がマジックで着色したという。

宮本選手はグループステージ初戦のベルギー戦で途中出場し、第2戦からラウンド16のトルコ戦までの3試合に先発出場した。大黒柱としてチームをけん引し、日本代表の躍進に貢献した。この黒いフェイスガードを着けた宮本選手の姿がアメリカ映画に出てくる「バットマン」のようだとし、"バットマン"の愛称とともにその活躍も世界に発信された。

今年11月、カタールでFIFAワールドカップが開幕する。日本中がサッカーで染まった年から20年、当時の熱と興奮を呼び起こし、熱い戦いに期待を寄せたい。

### 夏季特別開館のお知らせ

日本サッカーミュージアムは、7月23日(土)から8月21日(日)まで夏季特別開館期間となります。期間中は無休で、毎日10:00から17:00(最終入場は16:30)まで開館いたします。

※8月23日(火)より通常営業に戻ります。新型コロナウイルスの状況などにより、営業時間が急きょ変更になる場合があります。お越しになる前にJFA.jpをご確認ください。

### 日本サッカーミュージアムを支援いただいている企業(五十音順) ※2022年6月1日現在

株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ  
アスカ美装株式会社  
カルテック株式会社  
キリンビール株式会社  
キリンパレージ株式会社  
KDDI株式会社  
広友物産株式会社

株式会社Jリーグ  
株式会社ジエブ  
株式会社シミズオクト  
株式会社ジャミング  
株式会社スケール  
ソニーネットワークコミュニケーションズ株式会社  
株式会社テレビ東京

株式会社電通  
株式会社電通ライブ  
西鉄旅行株式会社  
株式会社野村総合研究所  
びあ株式会社  
ホテル東京ガーデンパレス  
マッシュコーポレーション株式会社

株式会社ムラヤマ  
株式会社モルテン  
ヤマザキビスケット株式会社

## 3クラブが ノックアウトステージ 進出!

アジアのクラブチャンピオンを決めるAFCチャンピオンズリーグ (ACL) 2022は、5月1日にグループステージが終了し、日本から出場した4クラブのうち、浦和レッズ、横浜F・マリノス、ヴィッセル神戸がノックアウトステージへ駒を進めた。川崎フロンターレは無念の敗退となった。



© 2022 AFC



浦和は準優勝した2019年大会以来となる16強進出を果たした

© 2022 AFC

### 16日間で6試合 過酷な戦い

グループステージは東西に分かれて実施され、日本勢が出場する東地区は5グループでそれぞれセントラル方式で行われた。ノックアウトステージに進出できるのは各グループの1位と、2位のうち成績上位の3チームを加えた計8チーム。高温多湿の環境下、4チームのグループでは、中2日で6試合を行うという過酷な戦いとなった。

#### グループF 浦和レッズ

グループステージ第4戦、浦和は同じ勝ち点の大邱FC(韓国)とタイのプリラムで戦い、スコアレスドロー。第5戦ではライオン・シティー・セラーズ(シンガポール)に6:0、第6戦も山東泰山(中国)に5:0

#### グループH 横浜F・マリノス

ベトナムのホーチミンに乗り込んだ横浜FMは、首位でグループステージ突破を果たした。3試合を終えた段階で全北現代モータース(韓国)に勝ち点1差の2位。第4戦のシドニーFC(オーストラリア)戦は、實藤友紀の先制点などで3:0と快勝。全北がホアン・ザライ(ベトナム)と引き分けたことで首位に立った。続くホアン・ザライ戦も2:0で勝利し、最終節で全北と1:1で引き分けてグループ1位が決定。ケヴィン・マスカット監督は「難しいピッチコンディションでも本当によくやってくれた」と選手たちをたたえた。

#### グループI 川崎フロンターレ

第4戦、ジョホールバル(マレーシア)で地元のジョホール・ダルル・タクジムと対戦した川崎FMは、小林悠の2得点などで5:0と大勝し、首位に躍り出た。ところが第5戦で思わぬ落とし穴が待っていた。蔚山現代(韓国)に2点のリードを許し、追撃及ばず2:3と敗れたのだ。最終戦は広州FC(中国)を1:0で破って2位を確保したものの、成績上位の3チームには入れず敗退が決定。「1位にならないと突破は難しい」という鬼木達監督の予測が現実のものとなってしまった。

#### グループJ ヴィッセル神戸

グループJ ヴィッセル神戸は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で上海海港(中国)が棄権したため、3チームでの戦いとなっ

#### ラウンド16で日本勢対決

グループステージ終了後には、ラウンド16の組み合わせも決まった。日本にとって複雑なのは、神戸と横浜FMの対決だろう。浦和はジョホールと対戦することになった。どちらもシングルマッチで、8月18日に開催が予定されている。

■グループステージ対戦結果(日本勢のグループのみ)

順位	グループF	大邱	浦和	ライオン	山東	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	大邱FC(韓国)		1:0 0:0	0:3 2:1	4:0 7:0	13	4	1	1	14	4	10
2	浦和レッズ	0:0 0:1		6:0 4:1	5:0 5:0	13	4	1	1	20	2	18
3	ライオン・シティー・セラーズ(シンガポール)	1:2 3:0	1:4 0:6		3:2 0:0	7	2	1	3	8	14	-6
4	山東泰山(中国)	0:7 0:4	0:5 0:5	0:0 2:3		1	0	1	5	2	24	-22

順位	グループH	横浜FM	全北	ホアン	シドニー	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	横浜F・マリノス		0:1 1:1	2:0 2:1	3:0 1:0	13	4	1	1	9	3	6
2	全北現代モータース(韓国)	1:1 1:0		1:0 1:1	0:0 3:2	12	3	3	0	7	4	3
3	ホアン・ザライ(ベトナム)	1:2 0:2	1:1 0:1		1:0 1:1	5	1	2	3	4	7	-3
4	シドニーFC(オーストラリア)	0:1 0:3	2:3 0:0	1:1 0:1		2	0	2	4	3	9	-6

順位	グループI	ジョホール	川崎FM	蔚山	広州	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	ジョホール・ダルル・タクジム(マレーシア)		0:5 0:0	2:1 2:0	5:0 2:0	13	4	1	1	11	7	4
2	川崎フロンターレ	0:0 5:0		1:1 2:3	1:0 8:0	11	3	2	1	17	4	13
3	蔚山現代(韓国)	1:2 1:2	3:2 1:1		3:0 5:0	10	3	1	2	14	7	7
4	広州FC(中国)	0:2 0:5	0:8 0:1	0:5 0:3		0	0	0	6	0	24	-24

順位	グループJ	神戸	傑志	チェンライ	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	ヴィッセル神戸		2:1 2:2	6:0 0:0	8	2	2	0	10	3	7
2	傑志(香港)	2:2 1:2		1:0 3:2	7	2	1	1	7	6	1
3	チェンライ・ユナイテッド(タイ)	0:0 0:6	2:3 0:1		1	0	1	3	2	10	-8

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

- ラウンド16(東地区) 8月18日(木)・19日(金)
- 準々決勝 8月22日(月)
- 準決勝 8月25日(木)
- 決勝 第1戦 2023年2月19日(日)  
第2戦 2023年2月26日(日)

日本サッカー協会

ボーンレンドとJFA Youth & Development Programme (JYD) サポーター契約を締結

JFAと株式会社ボーンレンドは「こどもの日」の5月5日、「JFA Youth & Development Programme (JYD) サポーター」契約を締結した。

JFAは、本契約の下、同社とキッズ年代を中心としたグラスルーツ事業の推進活動を展開し、子どもたちの健全な心身の発達を支える取り組みを通して、さらなるサッカーの普及や次世代の選手育成の促進を目指す。

【今回の契約における主施策 (予定)】

- ・子どもたちの健全な心身の発達に向けた施設環境の向上
- ・JFAキッズリーダーならびにボーンレンドプレイヤーの養成における人材育成プログラムの知見や経験の共有

●田嶋幸三 JFA会長 コメント

あそび道具の提供からあそび環境の創造、メンテナンスまで「あそび」について総合的に取り組んでいる株式会社ボーンレンド様とキッズ年代を中心としたグラスルーツ事業の活動を推進していくこととなり、とてもうれしく、また心強く感じています。

遊びやスポーツから得られるさまざまな体験は、協調性や他者を思いやる心、挑戦する意欲や失敗を恐れない強い精神力など、豊かな人間性や社会性を育みます。互いの強みを生かし、子どもたちが安心・安全

に、そして思いっきり遊びやスポーツを楽しむ中で、たくさんの気づきや学びを得られるよう取り組んでいく考えです。

●中西弘子 株式会社ボーンレンド代表取締役社長 コメント

JFAが次世代選手育成に関して、子どもの成長発達における「あそび」の意義に共感してくださったことを大変うれしく思っております。今後、当社プレイヤーの、子どもの体遊びを楽しく促進するノウハウをJFA キッズリーダー育成に取り入れること。またJFAキッズリーダーの、スポーツ教育のノウハウを当社プレイヤーの知見に取り入れること。この相互の協力によって、子どもたちが体を動かす楽しさを知る機会を増やすことができると、大変期待をしております。

子どもは夢中で遊ぶうちに、生きる力のすべてを自ら獲得します。生涯にわたりスポーツに親しみ健康に過ごすためにも、子ども時代は楽しく体を動かす体験が大切です。当社はその考えから、子どもが遊びながら多様な経験ができる環境づくりを40年にわたり行ってきました。しかしながら、まだまだ日本には豊かなあそび環境が足りず、特に学齢期の子どもたちの運動不足は深刻です。JFAとの協働により、子どもを健やかに育てる取り組みを一層推進して参ります。

EAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会 マッチスケジュール決定

7月19日(火)から27日(水)に日本で開催されるEAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会(主催:東アジアサッカー連盟)のマッチスケジュールが下記の通り決定した(5月17日発表)。

●マッチスケジュール

7月19日(火)	16:00	女子	日本 対 韓国	茨城/カシマスタジアム
	19:20	男子	日本 対 香港	
7月20日(水)	15:30	女子	中国 対 チャイニーズ・タイペイ	愛知/豊田スタジアム
	19:00	男子	中国 対 韓国	

7月23日(土)	15:30	女子	日本 対 チャイニーズ・タイペイ	茨城/カシマスタジアム
	19:00		中国 対 韓国	
7月24日(日)	16:00	男子	韓国 対 香港	愛知/豊田スタジアム
	19:20		日本 対 中国	
7月26日(火)	16:00	女子	韓国 対 チャイニーズ・タイペイ	茨城/カシマスタジアム
	19:20		日本 対 中国	
7月27日(水)	16:00	男子	中国 対 香港	愛知/豊田スタジアム
	19:20		日本 対 韓国	

U-19日本代表

AFC U20アジアカップウズベキスタン2023予選の組み合わせが決定

アジアサッカー連盟 (AFC)は5月24日、マレーシアのクアラルンプールでAFC U20アジアカップウズベキスタン2023予選(9月10日~18日開催)の組み合わせ抽選会を行った。日本はグループCに入り、イエメン、パレスチナ、ラオス、グアムと同組になった。

【グループステージ組み合わせ】

グループA: サウジアラビア、中国、ミャンマー、モルディブ、ウズベキスタン

グループB: カタール、バーレーン、バングラデシュ、ネパール、ブータン

グループC: 日本、イエメン、パレスチナ、ラオス、グアム

グループD: ヨルダン、チャイニーズ・タイペイ、シリア、トルクメニスタン、北マリアナ諸島

グループE: 韓国、マレーシア、モンゴル、スリランカ

グループF: インドネシア、ベトナム、香港、東ティモール

グループG: タイ、オマーン、フィリピン、アフガニスタン

グループH: オーストラリア、イラク、インド、クウェート

グループI: タジキスタン、カンボジア、レバノン、シンガポール

グループJ: アラブ首長国連邦、イラン、キルギス、ブルネイ・ダルサラーム

※下線チームは各グループのホストチーム

※各グループ1位チームと、各グループ2位チームのうち上位5チームが AFC U20アジアカップウズベキスタン2023の出場権を獲得する

## U-16日本代表

### AFC U17アジアカップバーレーン2023予選の組み合わせが決定

AFCは5月24日、マレーシアのクアラルンプールでAFC U17アジアカップバーレーン2023予選(10月1日～9日開催)の組み合わせ抽選会を行った。日本はグループAに入り、ヨルダン、シリア、フィリピン、トルクメニスタンと同組になった。

【グループステージ組み合わせ】

グループA：日本、ヨルダン、シリア、フィリピン、トルクメニスタン

グループB：インドネシア、マレーシア、パレスチナ、グアム、アラブ首長国連邦

グループC：オマーン、イラク、カタール、レバノン、バーレーン

グループD：インド、サウジアラビア、ミャンマー、モルディブ、クウェート

グループE：イエメン、バングラデシュ、シンガポール、ブータン

グループF：タイ、ベトナム、チャイニーズ・タイペイ、ネパール

グループG：オーストラリア、中国、カンボジア、北マリアナ諸島

グループH：タジキスタン、アフガニスタン、東ティモール、モンゴル

グループI：イラン、香港、キルギス、ラオス

グループJ：韓国、ブルネイ・ダルサラーム、ウズベキスタン、スリランカ

※下線チームは各グループのホストチーム

※グループ1位チームと、グループ2位チームのうち上位5チームがAFC U17アジアカップバーレーン2023の出場権を獲得する

## フットサル日本代表

### AFCフットサルアジアカップクウェート2022の組み合わせが決定

AFCは5月26日、マレーシアのクアラルンプールでAFCフットサルアジアカップクウェート2022の組み合わせ抽選会を行い、日本はグループDに入った。大会は9月27日から10月8日に行われる。

【グループステージ組み合わせ】

グループA：クウェート、イラク、タイ、オマーン

グループB：ウズベキスタン、バーレーン、タジキスタン、トルクメニスタン

グループC：イラン、レバノン、チャイニーズ・タイペイ、インドネシア

グループD：日本、ベトナム、韓国、サウジアラビア

## U-20日本女子代表

### FIFA U-20女子ワールドカップコスタリカ2022の組み合わせが決定

FIFA U-20女子ワールドカップコスタリカ2022(8月10日～28日)の組み合わせ抽選会が5月5日(現地時間)にコスタリカのサンホセで行われ、日本はグループDに入った。組み合わせは下記の通り。

【グループステージ組み合わせ】

グループA：コスタリカ、オーストラリア、スペイン、ブラジル

グループB：ドイツ、コロンビア、ニュージーランド、メキシコ

グループC：フランス、ナイジェリア、カナダ、韓国

グループD：日本、オランダ、ガーナ、アメリカ

【マッチスケジュール】

グループステージ

第1戦 8月11日(木) 日本 対 オランダ

第2戦 8月14日(日) 日本 対 ガーナ

第3戦 8月17日(水) アメリカ 対 日本

※グループDの試合会場は全てAlajuela Morera Soto

ノックアウトステージ

準々決勝 8月21日(日) Alajuela Morera Soto

準決勝 8月25日(木) San José Estadio Nacional

3/4位決定戦 8月28日(日) San José Estadio Nacional

決勝 8月28日(日) San José Estadio Nacional

●池田太 U-20日本女子代表監督 コメント

まずはこのFIFA U-20女子ワールドカップコスタリカ2022の舞台を準備して下さった関係者の皆さまに感謝します。2020年大会は残念ながら中止となってしまいましたが、この若い世代の選手がこのような国際舞台で真剣勝負をすることは非常に重要な経験です。

グループステージで対戦するチームはどれも強豪です。初戦のオランダはヨーロッパの中でも指折りの力を持っているチームです。第2戦のガーナは6大会連続で出場する安定した力を持っているチームで、第3戦のアメリカはこれまで3度の優勝を誇る、説明不要の強さを持ったチームです。ワールドカップになれば簡単な試合など一つもありません。この大きな意味と意義を持った試合をチャレンジャー精神を持って戦い、大会を通してチームとして成長し、トロフィーを目指します。

## サッカーe日本代表

## 2022シーズンのサッカーe日本代表が決定

2022シーズンのサッカーe日本代表は、JFA eスポーツ・サッカー選抜大会2022で優勝した黒豆選手、youxme選手に加え、2021年12月から全4節が行われたアジア・オセアニア予選を勝ち抜いて最終予選への出場権を獲得している2021シーズンe日本代表のWeb Nasri選手、Agu選手、Jay選手の5名で活動することが決定した(5月9日発表)。

e日本代表は、国際サッカー連盟(FIFA)が7月にデンマークのコペンハーゲンで開催するeスポーツ・サッカーの国別対抗戦「FIFAE Nations Cup 2022」の出場権を懸け、6月に最終予選「FIFAE Nations Playoff」を戦う。



左からJay選手、youxme選手、黒豆選手、Agu選手、Web Nasri選手

## 【2022シーズン サッカー e日本代表】

プレーヤーネーム：黒豆(クロマメ)

選手名：森本 貴仁(モリモト タカヒト)

出身地：大阪府

所属：CYCLOPS athlete gaming

主な戦績：(FIFA21シーズン)

EA SPORTS FIFA21 Global Series East Asia Qualifier1 5位

eJ.LEAGUE クラブチャンピオンズカップ ベスト8

eJ.LEAGUE FUTチャンピオンズカップ 3位

(FIFA22シーズン)

FGS Asia North Qualifier1 優勝

FGS Asia North Qualifier2 ベスト17

FGS Asia North Qualifier3 ベスト16

FIFAE culb Series 2022 Online Qualifiers Week3 Division2 準優勝

プレーヤーネーム：youxme(ユミー)

選手名：武笠 秀星(ムカサ シュウセイ)

出身地：東京

所属：無所属

主な戦績：(FIFA22シーズン)

FGS1 ベスト8

FGS2 ベスト8

川崎フロンターレのサポートメンバーとして

東京open大会川崎フロンターレ

FIFAE clubシリーズ2022 div3week1 優勝

FIFAE clubシリーズ2022 div2week2 優勝

FGS TOKYO OPEN 優勝

eJリーグ ベスト16

FGS Team of the season CUP ベスト16(世界大会)

プレーヤーネーム：Agu(アグ)

選手名：中島 奨(ナカシマ ショウ)

出身地：熊本県

所属：Blue United eFC

主な戦績：(FIFA21シーズン)

Weekend League 30連勝

EA SPORTS FIFA 21 Global Series East Asia Qualifier1 Best4

eJリーグ ベスト16(横浜F・マリノス推薦選手)

FIFAE Club World Cup 2021 East Asia online qualifiers Winner

FIFAE Club World Cup 2021 East Asia Winner/Asia Champion

eNations Cup Asia Oceania qualifier Champion

FIFAE Nations Cup 2021 出場(大会中止)(サッカー e日本代表)

(FIFA22シーズン)

CF20連勝

EA SPORTS FIFA 22 Global Series North Asia Qualifier1 Best5

いすば! FIFA大会 優勝

eJリーグ クラブチャンピオンズカップ 2位【横浜F・マリノス推薦選手】

eJリーグ FUTチャンピオンズカップ 2位【横浜F・マリノス推薦選手】

EA SPORTS FIFA 22 Global Series Masters Cup in London 出場

プレーヤーネーム：Jay(ジェイ)

選手名：田野入 潤(タノイリ ジュン)

出身地：東京都

所属：川崎フロンターレ

主な戦績：(FIFA21シーズン)

Weekend League 30-0

East Asia qualifier1 優勝

eJリーグクラブチャンピオンズカップ 優勝

eJリーグFUTチャンピオンズカップwinners 優勝

FIFA 21 FUT Country Tournaments 2021 East Asia 準優勝

East Asia playoff 優勝

FIFAE World Cup 出場(大会中止)

FIFAE Nations Online Qualifiers 2021アジア・オセアニア予選 優勝(サッカー e日本代表)

FIFAE Nations Cup 2021 出場(大会中止)(サッカー e日本代表)

(FIFA22シーズン)

FGS TOKYO OPEN 優勝

eJリーグFUTチャンピオンズカップ 3位

FGS Team of the season CUP ベスト16(世界大会)

プレーヤーネーム：Web Nasri(ウェブナスリ)

選手名：青木 太一(アオキ タイチ)

出身地：神奈川県

所属：鹿島アントラーズ

主な戦績：(FIFA21シーズン)

eJリーグクラブチャンピオンズカップ準優勝

FIFAE Club World Cup Zone2(アジア) Final 3位

FIFA21 Global Series EAST ASIA Qualifier1 3位

FIFAE Nations Cup 2021 出場(大会中止)(サッカー e日本代表)

(FIFA22シーズン)

FGS Qualifiers Season1 北アジア大会 3位

FGS Qualifiers Season2 北アジア大会 1位

FGS Qualifiers Season3 北アジア大会 1位

eJリーグ クラブチャンピオンズカップ ベスト4

eJリーグ FUT CHAMPIONS CUP 優勝

現在地域別シーズンランキング北アジア1位

## 【今後のスケジュール】

6月9日~12日 FIFAE Nations Playoffs(都内近郊)

7月27日~30日 FIFAE Nations Cup(デンマーク・コペンハーゲン)

## 審判員

### FIFAワールドカップカタール2022に山下良美主審が選出

国際サッカー連盟 (FIFA) は5月19日、FIFAワールドカップカタール2022の担当審判員を発表し、日本から山下良美主審が選出された。FIFAワールドカップで女性審判員が選出されたのは史上初めて。山下審判員を含む3人の女性主審と3人の女性副審が選ばれた。

なお、今大会は36人の主審、69人の副審、24人のビデオ審判員 (VMO: video match officials) が選出されている。

#### 【プロフィール】

名前: 山下良美 (やました よしみ / YAMASHITA Yoshimi)

出身地: 東京都

国際審判員登録: 2015年

主な国際大会:

2015年 第28回ユニバーシアード競技大会 (2015/光州)

2016年 FIFA U-17女子ワールドカップヨルダン2016

2017年 第29回ユニバーシアード競技大会 (2017/台北)

2018年 AFC女子アジアカップヨルダン2018

2018年 FIFA U-17女子ワールドカップウルグアイ2018

2019年 FIFA女子ワールドカップフランス2019

2021年 第32回オリンピック競技大会 (2020/東京)

2021年 AFC女子クラブ選手権2021 - パイロットトーナメント

2022年 AFC女子アジアカップ2022

2022年 AFCチャンピオンズリーグ2022

※2021年にJリーグで初めての女性主審を務め (5月16日明治安田生命J3リーグ Y.S.C.C.横浜対テゲバジャーロ宮崎)、2022年もJリーグ担当審判員を務める。

#### ●山下良美主審コメント

FIFAワールドカップに選出されたことを大変光栄に思います。皆さまには感謝の気持ちしかありません。日本人としての誇りと責任を胸に、大会の成功に向け、日々自身にできる最大限の準備をいたします。

## Jリーグ(日本プロサッカーリーグ)

### 理事選任(追加選任)

Jリーグは、4月19日に開催した2022年度第2回社員総会で理事を追加選任した。

#### 【追加選任理事】

役職: 理事 (非常勤)

名前: 反町康治 (そりまち やすはる)

所属: 公益財団法人日本サッカー協会理事、技術委員会委員長

### 2022年Jリーグサポーターティングカンパニー契約

Jリーグは、ショートムービープラットフォーム「TikTok (ティックトック)」とのサポーターティングカンパニー契約を締結することを決定した (4月11日発表)。

#### 【Jリーグサポーターティングカンパニー】

TikTok Japan (契約開始年: 2022年4月1日~)

### 2022明治安田生命Jリーグ海外での放映追加

Jリーグが海外戦略を積極的に推進する中、海外における2022明治安田生命J1リーグの放映に関して、新たにベトナム (VieON)、フィリピン (SPOTV Now Asia) での放映が決定し、タイでは大手スポーツメディア

アのSIAMSPORTに加え、地上デジタル放送局であるPPTV HD 36での放送が決定した。また、インドネシアにおいても、UseeTV (有料放送/配信サービス) での放映が追加となった (4月28日発表)。

### 2022Jリーグシャレン! アウォーズ各賞決定

Jリーグは5月10日、全58クラブのホームタウン・社会連携 (シャレン!) 活動の中から、特に社会に幅広く共有したい活動を表彰する「2022 Jリーグシャレン! アウォーズ」を開催し、各賞の受賞活動を決定した。

Jリーグシャレン! アウォーズは今年で3度目の開催となり、多くの協働者との連携や、取り組む課題や活動に関する発信力など、地域に根差したプロスポーツクラブの持つ価値を遺憾なく発揮している社会連携活動を称える目的で実施しているもの。2022年は2021年に行われた2,000を超える活動のうち、Jリーグ全58クラブ (2022シーズンよりJリーグ入会のいわきFCを含む) からエントリーのあった活動に対して選考し、合計6クラブが受賞した。

一般投票は応援したい活動をTwitterのリツイート機能でそれぞれのアカウントから拡散することで1票が入る方式を採用し、8,000を超える投票があった。一般投票は最終選考の参考に活用された。その他アウォーズの詳細はJリーグ公式サイト内「シャレン! アウォーズ特設ページ」(<https://www.jleague.jp/sharen/awards2022/>)を参照。

#### 【2022 Jリーグシャレン! アウォーズ・各賞】

##### ●ソーシャルチャレンジャー賞

・ゴミで繋ぐ未来へのパス、グルージャひびきゼロ PJ / いわてグルージャ盛岡

# JFAリリースインフォメーション&活動報告 月刊レポート

「スタジアムから出るごみを少しでも削減したい」という思いからスタート。ゴミを堆肥化、堆肥肥料をグルージャ米プロジェクトで活用し、出来たお米を子ども食堂へ活用。地域スポーツを応援する事をきっかけとしたゴミ問題解決と社会連携を目指した循環型のプロジェクト。

●FC琉球県産品&子ども応援プロジェクト/FC琉球

FC琉球の選手やスタッフが、コロナ禍の影響を受ける県産品(農水産品)の流通促進や、同じくコロナ禍の影響を受ける沖縄県内の子ども達の食糧支援や自立支援を行なったプロジェクト。

●パブリック賞

●スタジアムトイレに生理用品の設置と生理への理解/松本山雅FC

子どもたちの生理の貧困・生理に対する知識が浅いという課題に着目し取り組んだ活動。フェムケアに関する講習(Feminine(女性の)とケア(Care)をかけたあわせた用語)を行い、試合の有無に関わらず、スタジアムトイレに生理用品を設置。

●神戸市新型コロナワクチン接種会場の運営協力活動/ヴィッセル神戸

ノエビアスタジアム神戸をワクチン接種会場として提供することを打診し、「産学官」計19者連携、約7カ月間にわたり安心安全な会場運営を実施。累計367,135回、約18万人の市民がノエスタに来場。有事にスタジアムを最大限活用し、試合運営で培ってきたノウハウを接種会場に落とし込んだ。

●メディア賞

●Be supporters! サポーターになろう!/カターレ富山

高齢者・認知症の方など普段は周囲に「支えられる人」が「支える人」となるプロジェクト。誰かを「推す」「応援する」ことで施設にワクワクとキメキメが溢れ、誰も予想しなかった数々の「つながり」と「幸せな物語」が生まれ、高齢者に起きた変化には医学の専門家も注目している。

●サッカーだけじゃない、地域で共創する夜のスタジアム/ガイナース鳥取

試合がない日でも地域のの方々に使っていただけるスタジアムがあってもいい。そんな思いから生まれた新しいスタジアムの活用方法。行政と地域の元気な企業との共創による新たなスタジアムの使い方が「夜宴スタジアム」

【2022 Jリーグチャレン!アウォーズ概要】

●各賞/選考基準:

- ・ソーシャルチャレンジャー賞/その地域にある社会課題の解決に対しチャレンジしていること
- ・パブリック賞/国や自治体が掲げる政策を活用し、地域の課題解決に向けて、多様なステークホルダーと連携し、持続可能な活動となるように取り組んでいること
- ・メディア賞/メディアとして、自身の媒体に取り上げたいと思う活動であること

※受賞した活動に対し、クラブに記念品(楯)を、協働者に表彰状を授与する

●選考: 一般投票(投票期間 2022年3月1日12:00~15日18:00)

選考委員会を実施して決定

## Jリーグ百年構想クラブ審査結果

Jリーグは5月31日に開催した理事会で、おこしやす京都ACの「Jリーグ百年構想クラブ」認定に関する審査を行ったが、普及活動に関して条件が未充足であると判断し、認定には至らなかった。

●Jリーグ百年構想クラブ(13クラブ)(2022年5月1日時点)

ラインメール青森(JFL)、コバルトレ女川(東北1部)、栃木シティフットボールクラブ(関東リーグ1部)、VONDS市原(関東リーグ1部)、南葛SC(関東リーグ1部)、クリアソン新宿(JFL)、東京23FC(関東1部)、ヴィ

アティン三重(JFL)、FC大阪(JFL)、奈良クラブ(JFL)、高知ユナイテッドSC(JFL)、ヴェルスバ大分(JFL)、沖縄SV(九州)

【参考: Jリーグ百年構想クラブ規程】

第2条(百年構想クラブの条件)(1)⑥

普及活動(サッカースクールまたはクリニック)を1年以上継続して実施していること

## 松本山雅FC、徳島ヴォルティスのホームタウン追加

Jリーグは5月31日の開催した理事会で、松本山雅FCと徳島ヴォルティスがホームタウンを追加することを承認した。

松本山雅FCは、従来の松本市、塩尻市、山形村、安曇野市、大町市、池田

町、生坂村、箕輪町、朝日村に加え、新たに高森町を、徳島ヴォルティスは、従来の鳴門市、徳島市、吉野川市、美馬市、小松島市、板野町、松茂町、藍住町、北島町を中心とする全県に加え、新たに阿南市をホームタウンとする。

## Jリーグ公式試合における声出し応援の段階的導入

Jリーグは、Jリーグ公式試合において、効果的な感染症対策を講じながら声を出して応援できる「声出し応援エリア/声出し応援席」の段階的導入にあたり、新たに下記の試合で運営検証を行うことを決定した。

段階的導入にあたっては、政府の基本的対処方針に基づき6月上旬~7月にかけて数試合で運営検証を行い、その後、希望する全てのクラブがガイドラインに基づき声出し応援エリアを導入できるよう進めていく。新たに追加する対象試合では、声出し応援エリアをさらに拡大しても感染対策と両立した運営ができるかを確認するとともに、実際に利用した観客の声も聞きながら、より多くのクラブが声出し応援エリアを設置できるよう具体的なガイドラインの整備を行っていく。

●運営検証試合(2022年5月31日時点)

新規追加

日時	大会・対戦カード	会場
7月2日(土) 14:00キックオフ	2022明治安田生命J2リーグ第24節 ブラウブリッツ秋田vs.レノファ山口FC	ソユースタジアム
7月2日(土) 18:00キックオフ	2022明治安田生命J2リーグ第24節 水戸ホーリーホックvs.横浜FC	ケーズデンキスタジアム水戸
7月2日(土) 19:00キックオフ	2022明治安田生命J2リーグ第24節 モンテディオ山形vs.栃木SC	NDソフトスタジアム山形
7月6日(水) 19:00キックオフ	2022明治安田生命J1リーグ第20節 鹿島アントラーズvs.セレッソ大阪	県立カシマサッカースタジアム
7月6日(水) 19:00キックオフ	2022明治安田生命J1リーグ第20節 FC東京vs.北海道コンサドーレ札幌	味の素スタジアム
7月6日(水) 19:00キックオフ	2022明治安田生命J1リーグ第20節 横浜F・マリノスvs.サンフレッチェ広島	日産スタジアム



既に決定している試合

日時	大会・対戦カード	会場
6月11日(土) 15:00キックオフ	JリーグYBCルヴァンカッププレーオフ ステージ第2戦鹿島アントラーズvs.ア ビスパ福岡	県立カシマサッカースタジ アム
6月12日(日) 18:00キックオフ	明治安田生命J2リーグ第21節 東京ヴェルディ vs.いわてグルージャ盛 岡	味の素スタジアム

●選定理由:

データ取得を優先し、過去にコロナ関連の調査実績のあるスタジアムを中心に調査設計可能なスタジアムを候補会場とした上で、主管クラブの

チケット販売状況や自治体との調整状況、クラブの意向などに鑑み決定  
※各試合のチケット販売等の詳細はホームクラブの公式発表を参照。

●Jリーグ声出し応援ガイドライン:

[https://www.jleague.jp/img/pdf/2022\\_0518\\_22376.pdf](https://www.jleague.jp/img/pdf/2022_0518_22376.pdf)



## WEリーグ(日本女子プロサッカーリーグ)

### スペインプロリーグ「ラ・リーガ」とパートナーシップ協定を締結～なでしこリーグも含めた三者間協定

WEリーグおよび日本女子サッカーリーグ(なでしこリーグ)は、スペインのプロフェッショナルサッカーリーグ「ラ・リーガ」との三者間でパートナーシップ協定を締結した。WEリーグにとって、海外リーグとの協定締結は初となる(4月20日発表)。

同協定は、2018年7月に日本女子サッカーリーグ(なでしこリーグ)とラ・リーガ間で締結されていたが、WEリーグ発足に伴い、三者間協定として新たに締結することとなった。

ラ・リーガは組織内に国際交流の部門を有し、世界各地においてサッカーのさらなる発展に寄与している。今回のWEリーグ、なでしこリーグとの協定締結によって、両国の女子サッカーのさらなる展開に向けて知識や経験を共有し、日本とスペイン間でさまざまな交流を図っていく。

【WEリーグ、なでしこリーグ、ラ・リーガ パートナーシップ三者協定】

署名者 : Liga Nacional De Futbol Professional (ラ・リーガ)  
公益社団法人日本女子プロサッカーリーグ (WEリーグ)  
一般社団法人日本女子サッカーリーグ (なでしこリーグ)

本協定の目的: 3リーグ間におけるサッカー振興に向けた協力

主な協力事項: ・組織、マーケティング、グラスルーツ等の分野に関する知識の交換  
・試合による交流/コーチングプログラム  
・サッカーマネジメントへの女性参入プログラム、男女共同参画

●岡島喜久子 WEリーグチエア コメント

世界有数のリーグであるラ・リーガ、日本女子サッカーの普及・強化を共に支えていくなでしこリーグと三者でパートナーシップ協定を締結できることを大変光栄に思います。WEリーグは「世界の女子サッカー」をビジョンに掲げています。それを実現するためには、各国のリーグが互いに協力し切磋琢磨し続けることが必要です。この協定から第一歩を踏み出し、それぞれが培ってきた良い取り組みを惜しみなく吸収していきたいと考えています。

●岩上和道 なでしこリーグ理事長 コメント

なでしこリーグでは、2018年にスペイン「ラ・リーガ」との連携協定を結びましたが、国内プロリーグであるWEリーグ誕生に伴い、三者間での協定を締結しました。この協定を生かし、WEリーグと共に日本女子サッカーをより一層発展していきたいと思えます。日本女子サッカーのアマチュア最高峰になったなでしこリーグは、今後も海外との連携を意識し、さまざまな取り組みを推進してまいります。

●ベドロ・マラビア ラ・リーガ女子ダイレクター コメント

日本は、女子サッカー界やラ・リーガにおいて大いに参考となる存在です。この協定が、知識の交換や女子サッカーを世界に広めるための素晴らしい機会になると確信しています。

## 2021-2022年度第10回、第11回理事会を開催

WEリーグは4月27日に第10回理事会、5月25日に第11回理事会を開催した。決議事項や報告事項は下記の通り。その他詳細はWEリーグ公式ウェブサイト参照。

【第10回理事会 報告事項】

●JFA ASEAN選手受入支援制度

2022/23シーズンのASEAN選手受入支援制度について報告した。詳細は前号23~24ページ参照。

【第11回理事会 決議事項】

●副理事長の選定

須原清貴理事を副理事長として選定した。今回、副理事長を退任する岩上和道氏が担っていた役割を引き継ぎ、任期は他の役員と同じとすべく、選任後1年以内に終了する事業年度に関する定時社員総会の終結の時まで(2022年9月)とする。

【第11回理事会 報告事項】

●新型コロナウイルス感染症対策対応ガイドライン更新

5月11日にWEリーグ新型コロナウイルス感染症対策対応ガイドラインを更新した。

【WEリーグ新型コロナウイルス感染症対策対応ガイドライン 主な改定ポイント】

- ・濃厚接触疑い者/濃厚接触者に関する判断、症状が出た場合の対応  
陽性判定者との接触履歴、復帰の目安・解除の条件、自主隔離に関する要件等の一部更新
- ・情報開示  
厚労省の通達を踏まえた公表範囲の一部見直し
- ・試合終了後のメディア対応方法  
原則として対面形式の記者会見(Web 会議システムを使用したオンライン配信あり)に変更。ただし、感染状況やメディアの数、スタジアムや諸室の構造等を考慮してWEB方式のみも選択可

## 日本女子サッカーリーグ

## なでしこリーグ公式試合における写真・動画のSNSおよびインターネット上での使用ルール

日本女子サッカーリーグは、なでしこリーグ公式試合の来場者が撮影した写真・動画をSNSおよびインターネット上で使用する際の新たなルールを設けた(5月27日発表)。

なでしこリーグでは観戦ルール&マナーに則り、同リーグの公式試合が行われるスタジアムとその周辺で撮影した写真や動画をインターネット上に投稿することは禁止としていたが、指定の範囲内で投稿してもらうことでなでしこリーグをより多くの人に知ってもらうきっかけになると考え、今回のルールを設けることとなった。

●なでしこリーグ観戦ルール&マナー:

[http://www.nadeshikoleague.jp/news/2022/0318\\_1101.html](http://www.nadeshikoleague.jp/news/2022/0318_1101.html)



【ルール概要(抜粋)】

●本ルールでの「写真・動画」は下記を指す。

写真: 公式試合全ての試合の試合会場で、投稿者本人が撮影した写真

動画: 公式試合全ての試合会場で、投稿者本人が撮影した動画

ただし、以下の二つの場合は除く

(1) 試合開始(前半キックオフ)から試合終了(後半終了)までの間(ハーフタイムは除く)にピッチ上を撮影した映像

(2) 時間を問わず、試合日当日にスタジアム内に設置された大型映像装置において放映された試合の映像(ハイライト映像も含む)を撮影した映像

●一試合において適用されるルール

①リーグが定める本観戦ルール

②各チームが定める観戦ルール

ホームチームの選手を撮影した写真・動画のSNS等への投稿に対しては、ホームチームのルールが適用され、ビジターチームの選手を撮影した写真・動画のSNS等への投稿に対しては、ビジターチームのルールが適用される

③各スタジアムの定める撮影およびSNS等への投稿ルール

●なでしこリーグが許諾すること

写真、動画を撮影者で本人様によりSNSおよびインターネットへ投稿し公開すること

●なでしこリーグが許諾していないこと

・他者の迷惑になるような撮影行為または投稿

・なでしこリーグおよびなでしこリーグチームの役員ならびになでしこリーグチームの選手・監督、審判員、その他なでしこリーグまたはなでしこリーグ関係者を特定し、社会的評価を損なわせる目的での投稿

・他者の肖像権を侵害する、または侵害のおそれがある投稿

・なりすまし投稿

・動画のライブ配信

・営利目的での利用。ただし、YouTube収益プログラムやアフィリエイト広告などコンテンツに付随される広告からの収益が見込まれる投稿については「営利目的での利用」に含まれないものとする

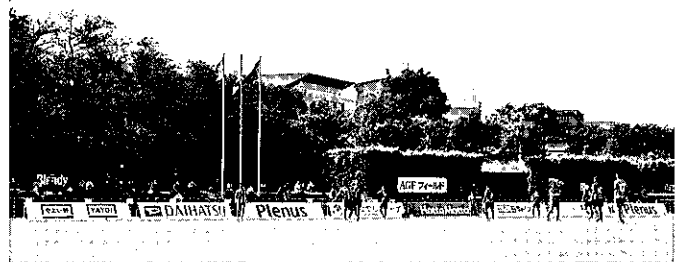
・性的な描写やコラージュなどに加工された画像の投稿など、一般的に不誠実な内容の投稿

・本人やリーグ関係者、一般ユーザーが見て、不快に感じる可能性のある投稿

・コンプライアンス全般に違反する内容の投稿

・本人を中傷する目的の投稿

・その他、許諾していること以外での利用、なでしこリーグまたはなでしこリーグチームに対しての愛のない投稿



## AFCチャンピオンズリーグ

## ラウンド16の組み合わせが決定

AFCチャンピオンズリーグ2022はグループステージを終え、ノックアウトステージのラウンド16に進出するチームが出そろい、AFCから8月18日(木)と19日(金)に行われるラウンド16の組み合わせが右記の通り発表された(5月2日発表)。キックオフ日時、会場等の詳細はJFA公式ウェブサイト参照。

【AFCチャンピオンズリーグ2022 ラウンド16組み合わせ(東地区のみ)】

EAST 1: 大邱FC(韓国) vs 全北現代モータース(韓国)

EAST 2: BGパトゥム・ユナイテッド(タイ) vs 傑志(香港)

EAST 3: ジョホール・ダルル・タクジム(マレーシア) vs 浦和レッズ

EAST 4: ヴィッセル神戸 vs 横浜F・マリノス



# JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

## SAMURAI BLUE



©JFA / アジア2次予選兼アジアカップ中国2023予選 対タジキスタン代表戦 先発メンバー (2021.6.7)

OFFICIAL PARTNER



OFFICIAL SUPPLIER



SUPPORTING COMPANIES





日本サッカー協会（JFA）は2022年5月19日、2022年度第7回理事会を高円宮記念JFA夢フィールドおよびオンラインで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

### 決議事項

- 1 6月開催日本代表戦会場におけるウクライナ避難民支援募金活動… P26
- 2 フットサル強化育成部会(男子/女子)の新設…………… P26
- 3 各種委員会 委員選任…………… P27

### 6月開催日本代表戦会場におけるウクライナ避難民支援募金活動

昨今のウクライナ情勢に鑑み、ウクライナの避難民および本土復興のための支援として、6月の日本代表戦において義援募金活動を実施する。

#### 【対象試合】

#### 1. キリンチャレンジカップ2022

6月2日 札幌ドーム 日本代表 対 パラグアイ代表

6月6日 国立競技場 日本代表 対 ブラジル代表

#### 2. キリンカップサッカー2022

6月10日 ノエビアスタジアム神戸 日本代表 対 ガーナ代表

6月14日 パナソニック スタジアム 吹田 日本代表 対 チリまたはチュニジア代表

※お預かりする義援募金は日本スポーツ協会（JSPO）を通じ特定非営利活動法人国連UNHCR協会へ寄付する予定

### フットサル強化育成部会（男子/女子）の新設

各種委員会組織運営規則第10条に基づき、フットサル委員会に下記の通り「フットサル強化育成部会（男子/女子）」を設置する。

なお、本部会の設置に伴い、従前の「フットサル技術部会」は発展的解消する。

※本件については2022年3月22日開催のフットサル委員会にて承認済み

#### <参考>

#### 【各種委員会組織運営規則】

第10条 各種委員会は、その所管事項に関し、理事会の承認を得て、部会を設置することができる。

#### <フットサル関連会議全体像>

フットサル委員会が下記全体を統括しながら、専門的な協議は部会等で行うべく、段階を追って徐々に整備していく予定。

旧				新			
	フットサル(男子)	フットサル(女子)	ビーチサッカー		フットサル(男子)	フットサル(女子)	ビーチサッカー
強化				強化	フットサル強化育成部会(男子)	フットサル強化育成部会(女子)	
育成	フットサル技術部会			育成			
指導者養成	技術委員会(指導者養成部会)等と連携		ビーチサッカーWG	指導者養成	技術委員会(指導者養成部会)等と連携		ビーチサッカーWG
普及	技術委員会(普及部会)等と連携			普及	技術委員会(普及部会)等と連携		
競技会	フットサル・ビーチサッカー大会部会(競技運営部)			競技会	フットサル・ビーチサッカー大会部会(競技運営部)		

#### ■フットサル強化育成部会（男子）

主管部署：強化育成部

所管事項：(1)フットサル日本代表（男子・U-20）の強化  
(2)フットサルの育成年代の強化・環境整備

#### 2年間で取り組む事項：

新設されたフットサル委員会の委員と日本フットサルトップリーグの代表者で構成される部会。

従来、設置していたフットサル技術部会を発展的解消し、新設するもの。フットサル男子領域に関する施策の議論・検討を行い、強化・発展を推し進める。

#### 1. フットサル日本代表の強化

- ・FIFAフットサルワールドカップ2024を見据えたチーム強化策の検討
- ・各代表カテゴリー（男子・U-20）の強化に向けた強化方針や活動計画の検討
- ・日本フットサルトップリーグ（フリーグ）との協働
- ・最適な代表カレンダーの検討
- ・試合の分析ツールの導入やその検証

#### 2. 育成年代の強化・環境整備

- ・FIFAフットサルワールドカップ2036を見据えた育成年代選手の強化策の検討
- ・育成の強化推進（各都道府県で各年代のリーグ戦）
- ・フットサル版全国トレセンの整備に向けた準備や検証
- ・フットサルの指導者養成に関わる検討・協議
- ・フットサルGKプロジェクトを活用したGKおよびGK指導者の育成
- ・フットサルフィジカルプロジェクトを活用した育成年代のフィジカル強化およびフットサルに特化したフィジカルコーチの育成

左ページ左上へ続く

## ■フットサル強化育成部会(女子)

主管部署：強化育成部

所管事項：(1)フットサル日本代表(女子)の強化

(2)女子フットサル界の環境整備

2年間で取り組む事項：

新設されたフットサル・ビーチサッカー委員会の委員と日本フットサルトップリーグの代表者で構成される部会。

従来、設置していたフットサル技術部会を発展的解消し、新設するもの。

フットサル女子領域に関する施策の議論・検討を行い、強化・発展を推し進める。

### 1. フットサル日本女子代表の強化

- ・第6回アジアインドア&マーシャルアーツゲームズを見据えたチーム強化策の検討

- ・フットサル日本女子代表の強化に向けた強化方針や活動計画の検討

- ・日本フットサルトップリーグ(女子Fリーグ)との協働

- ・最適な代表カレンダーの検討

- ・試合の分析ツールの導入やその検証

### 2. 女子フットサル界の環境整備

- ・フットサル日本女子代表強化に繋がる、アンダーカテゴリー代表設置の検討  
→U-18年代の競技環境の整備

- ・フットサル女子選手の育成・普及施策の検討

- 9地域FA、47FAとの連携も視野に入れる

- ・フットサルの女性指導者養成に関わる検討・協議

- ・フットサルGKプロジェクトを活用したGKおよびGK指導者の育成

- ・フットサルフィジカルプロジェクトを活用した育成年代のフィジカル強化およびフットサルに特化したフィジカルコーチの育成

## 各種委員会委員選任

各種委員会の委員を、下記の通り選任する。 ※下線は新任

<参考>

[定款]

### 第42条(各種委員会)

この法人の事業遂行のため必要があるときは、理事会の決議に基づき、各種委員会(常設委員会、専門委員会等)を置くことができる。

2. 前項の規定による各種委員会の組織及び運営に関する規程は、理事会が定める。

[各種委員会組織運営規則]

### 第4条(組織及び委員)

各種委員会は、それぞれ委員長及び若干名の委員をもって構成する。

2. 各種委員会の委員長及び委員は、本協会役員、地域及び都道府県サッカー協会役員のほか、本協会の事業に関し、知識、経験及び熱意を有する者のうちから、理事会の承認を経て会長が委嘱する。

## ■国際委員会

主管部署：国際部

所管事項：(1)FIFA、AFCおよびEAFFその他外国団体との交渉

(2)アジア協力に関する事項

(3)上記以外の国際関係

2年間で取り組む事項：

1. FIFA、AFC、EAFF、その他国際機関に関わる事項や取り組みを決定していく。

2. 国際関連業務や国際貢献業務の推進に必要な国際情勢の情報収集、人脈構築などに関して国際委員およびその所属組織からご支援いただく。

3. 世界トップ10の組織を目指し、国際貢献を果たしていく。

委員会メンバー：

(役職)	(名前)	(備考)
委員長	<u>宮本恒靖</u>	理事/会長補佐
副委員長	小野剛	技術委員会 副委員長
委員	<u>馬場浩史</u>	Jリーグ理事
委員	小川佳実	審判委員会 副委員長
委員	大井義洋	電通フットボールビジネス局サッカー事業室長
委員	濱口博行	東アジアサッカー連盟 CFO
委員	内山選良	日本国際協力センター 九州支所長
委員	<u>小林広幸</u>	独立行政法人国際協力機構(JICA) 青年海外協力隊事務局長

委員	古屋昌人	国際交流基金企画部 企画部長
委員	梅田邦夫	一般財団法人外国人材共生支援全国協会 副会長
委員	森村國仁	電通スポーツインターナショナル 執行役員 電通スポーツグローバルプレジデント

在外委員

委員	<u>高司裕也</u>	技術委員会ユース育成部会員(在スペイン)
委員	茂木哲也	Emi TRAVEL Paris(フランス) プロモーション部 部長
委員	美濃村洋一	有識者(在ドイツ)
委員	中町公祐	ムトンド・スターズFC選手(在ザンビア)
委員	栗原克志	指導者(在カナダ)
委員	<u>田代有三</u>	Mate FC 指導者(在オーストラリア)

## ■競技委員会

主管部署：競技運営部

所管事項：・各種大会に関する事項と試合の管理

- ・FIFA、AFCおよびEAFFの各種大会ならびにJリーグ等の国内大会の日程調整に関する事項

2年間で取り組む事項：

1. 育成年代リーグや大会の環境の整備と見直し
2. 女子大会の構造改革と育成年代のゲーム環境改善・整備
3. 国体少年女子の実施
4. 各競技会に関する決定事項は各実行委員会および部会が決定し、必要に応じて理事会に付議する。

委員会メンバー：

(役職)	(名前)	(備考)
委員長	林義規	副会長/第2種大会部会長
委員	<u>中野雄二</u>	理事/天皇杯実施委員長
委員	反町康治	理事/技術委員長
委員	<u>佐々木則夫</u>	理事/女子委員長
委員	<u>今井純子</u>	理事/国体実施委員長
委員	植田昌利	東京都サッカー協会 副会長・専務理事/第1種大会部会長
委員	鮑田敏	長野県サッカー協会 常務理事/第3種大会部会長
委員	<u>吉貫雄二</u>	東京都サッカー協会 常務理事/第4種大会部会長
委員	<u>手塚貴子</u>	栃木県サッカー協会 理事/女子大会部会長
委員	宗政潤一郎	理事/シニア大会部会
委員	北澤豪	フットサル委員長
委員	<u>石井秀明</u>	神奈川県サッカー協会常務理事/マッチコミッショナー部会長

次ページ左上へ続く

委員	黒田卓志	Jリーグ フットボール本部
委員	樋口順也	Jリーグ フットボール本部 競技運営部長
委員	上保毅彦	JFL運営部長
委員	野仲賢勝	WEリーグ 専務理事
委員	奥田泰久	なでしこリーグ 専務理事

**■技術委員会**

主管部署：強化育成部、指導普及部

- 所管事項：(1)日本代表チーム (SAMURAI BLUE)の監督候補者の推挙  
 (2)日本代表チーム (SAMURAI BLUE)のスケジュール、強化案、編成案の作成  
 (3)育成年代の日本代表チームの監督候補者の推挙  
 (4)育成年代の日本代表チームのスケジュール、強化案、編成案の作成  
 (5)すべてのカテゴリーの代表活動の評価（課題と成果の抽出）  
 (6)ユース年代の選手育成、強化に関する事項  
 (7)普及活動に関する事項  
 (8)強化方針に基づく技術指導案の作成  
 (9)指導者の養成  
 (10)指導に関するビデオ、書籍等の認定、推薦  
 (11)その他技術指導に関する事項

2年間で取り組む事項：

- ・「代表強化」「ユース育成」「指導者養成」「普及」の体制の推進
- ・Japan's Wayの発信とそのアップデート
- ・SAMURAI BLUEのカタール・ワールドカップでのベスト8以上の成績
- ・パリ五輪2024に向けたU23日本代表の強化
- ・U20/U17日本代表ワールドカップ出場、優勝
- ・その他の日本代表カテゴリーの活動、国際大会への積極的参加
- ・すべての代表活動の評価とそれに伴う今後の強化方針の明確化
- ・指導者養成事業のさらなる向上（S級の見直し、ライセンスの細分化とインストラクターの教育）
- ・普及活動のさらなる向上、推進
- ・Jリーグとのさらなる連携、協力（春秋シーズン制の検証と今後の方向性の検討）

委員会メンバー：

(役職)	(名前)	(備考)
委員長	反町康治	理事、ナショナルチームダイレクター
副委員長	小野剛	FIFA / AFCインストラクター
副委員長	大橋浩司	JFAアカデミーダイレクター
委員	影山雅永	ユース育成ダイレクター
委員	西川誠太	指導者養成ダイレクター
委員	中山雅雄	普及ダイレクター、筑波大学体育系教授
委員	川俣則幸	GKプロジェクトリーダー
委員	菅野淳	フィジカルフィットネスプロジェクトリーダー
委員	内山篤	JFAコーチ（東海チーフ）
委員	山本昌邦	静岡県サッカー協会 副会長
委員	鈴木満	鹿島アントラーズFC 強化アドバイザー
委員	佐久間悟	ヴァンフォーレ甲府 代表取締役社長
委員	塚野真樹	ガイナレ鳥取 代表取締役社長
委員	黒田卓志	Jリーグ フットボール本部本部長
委員	大平正軌	全日本大学サッカー連盟技術委員会、流通経済大学

**■法務委員会**

主管部署：法務管理部

- 所管事項：(1)各種規程・規則の草案  
 (2)各種法務関連政策に関する事項  
 (3)サッカー界における法秩序の維持

(4)選手の資格に関する事項

2年間で取り組む事項：

- 各種規程の改正。各種FIFA施策（代理人制度の変更、プロサッカー選手にかかる各種規則を含む）への制度的対応。懲罰制度や紛争解決に係る仕組みに関する検討。スポーツ団体ガバナンスコードへの対応、他。

委員会メンバー：

(役職)	(名前)	(備考)
委員長	三好豊	理事、弁護士
委員	伊東卓	弁護士
委員	松井秀征	立教大学法学部教授
委員	池上三六	原子力損害賠償・廃炉等支援機構
委員	助川卓矢	Jリーグ法務室長
委員	片桐大	弁護士

**■施設委員会**

主管部署：47都道府県/9地域FA担当部

- 所管事項：(1)競技会の施設関係の指導  
 (2)施設および用具に関する規程基準の研究指導  
 (3)施設に関する情報の収集  
 (4)施設の増加、改善対策  
 (5)ナショナルトレーニングセンター (NTC)に関する事項

2年間で取り組む事項：

- 芝生化の推進
  - ポット苗方式芝生化事業を通じた芝生化の推進、天然芝維持管理も含めた情報発信
- サッカー環境の整備に関する取り組み
  - (1)サッカー場整備を推進する施設整備助成制度の決定、制度の運用（寒冷地への取組、街づくりと一体となった施設のあり方、手軽に使える「広場」の設置等を含む）
  - (2)JFAロングバイル人工芝ピッチ公認制度の更新
- サッカー施設好事例（施設内容、活用状況他）の情報発信

委員会メンバー：

(役職)	(名前)	(備考)
委員長	徳田康	愛知県サッカー協会 専務理事
委員	池田省治	(株)オフィス・ショウ代表取締役社長
委員	桂木聖彦	山形県サッカー協会 会長
委員	眞壁潔	(株)湘南ベルマーレ 代表取締役会長
委員	石井肇	理事/北海道サッカー協会 専務理事
委員	大城亨太	Jリーグ クラブライセンス事務局
委員	矢野喬子	WEリーグ理事

**■社会貢献委員会**

主管部署：総務部

所管事項：社会貢献に関する事項

2年間で取り組む事項：

- JFAの理念である「サッカーを通じて、豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」を念頭に、JFAのさまざまな活動がどのように社会の発展に貢献しているかを振り返り、広く社会に発信する。
- (1)社会貢献活動に関する総括業務
    - ・JFAの社会貢献活動の情報集約・発信
  - (2)社会貢献活動に関する組織内外の連携強化
    - ・国立大学法人東京藝術大学との連携協定に関する活動
    - ・SDGs推進チームを含む事務局内の活動支援
    - ・外部連携制度の企画・検討
  - (3)広報活動

左ページ上へ続く

**委員会メンバー：**

(役職)	(名前)	(備考)
委員長	日比野克彦	参与/東京藝術大学学長
委員	国谷裕子	東京藝術大学理事/慶応義塾大学特任教授
委員	里崎慎	デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー 合同会社
委員	宮城治男	NPO法人ETIC.代表理事
委員	鈴木順	Jリーグ
委員	植田昌利	参与/東京都サッカー協会 副会長兼専務理事
委員	日比野暢子	理事/日本障がい者サッカー連盟 理事
委員	村松邦子	株式会社ウエルネス・システム研究所 代表取締役

**■アスリート委員会**

主管部署：強化育成部

所管事項：(1)競技環境に関する選手視点での現状分析と課題抽出  
(2)課題解決に向けた提案・提言

2年間で取り組む事項：

1. 競技環境に関する選手視点での現状分析と課題抽出
2. 課題解決に向けた提案・提言
3. 上記の理事会および各種委員会等に対する答申および報告

**委員会メンバー：**

(役職)	(名前)	(備考)
委員長	川口能活	JFAナショナルコーチングスタッフ
委員	宮本恒靖	理事
委員	播戸竜二	WEリーグ理事
委員	中村憲剛	川崎フロンターレ Frontale Relations Organizer JFA Growth Strategist, JFAロールモデルコーチ
委員	長谷部誠	プロサッカー選手(アイントラハト・フランクフルト所属) 日本ユニセフ協会 親善大使
委員	高橋秀人	プロサッカー選手(横浜FC所属) 日本プロサッカー選手会 選手会長
委員	近賀ゆかり	プロサッカー選手(サンフレッチェ広島レジーナ所属)
委員	川澄奈穂美	プロサッカー選手(NJ/NYゴッサムFC所属)
委員	岩清水梓	プロサッカー選手(日テレ・東京ヴェルディベレーザ所属)
委員	熊谷紗希	プロサッカー選手(FCバイエルン・ミュンヘン所属)

**■表彰委員会**

主管部署：総務部・47都道府県/9地域FA担当部

所管事項：・JFA表彰制度の検証・見直し  
・JFA特別表彰制度の検討  
・表彰制度にかかわる事項  
・外部各賞選考委員会への推挙  
・理事会への表彰者推挙

2年間で取り組む事項：

- ・JFA表彰制度の検証・見直し
- ・JFA特別表彰の設置検討
- ・外部各賞選考委員会への推挙
- ・理事会への表彰者推挙

**委員会メンバー：**

(役職)	(名前)	(備考)
委員長	植田昌利	参与/殿堂委員/東京都サッカー協会副会長兼専務理事
委員	山岸佐知子	理事/審判委員会副委員長/千葉県サッカー協会理事
委員	佐々木一樹	元参与
委員	武智幸徳	日本経済新聞社 運動部編集委員/殿堂委員
委員	町並美保	永和総合事務所/税理士

**■復興支援委員会**

主管部署：47都道府県/9地域FA担当部

所管事項：日本国内で発生する各種大規模災害における、サッカーを通じた復興支援に関すること

2年間で取り組む事項：

大規模災害は、長期にわたって広範囲に影響を与えることから、事前の備え(DRR=Disaster Risk Reduction)が非常に重要。持続可能な社会の発展(SDGs)の観点からも、災害復興においても誰も取り残さない社会を目指し、より良い復興(Build Back Better)に貢献する。これまでの取り組みを振り返りながら、復興支援だけでなく防災・減災に関する各種活動を促進・支援する。

主な活動：

1. 東日本大震災、熊本地震、熊本豪雨等の国内の大規模災害における、サッカーを通じた復興支援
2. サッカーを通じた全国的な防災・減災(ナショナル・レジリエンス)に関する調査研究・普及・啓発
3. さまざまなパートナーとの連携によるサッカーを通じた防災・減災・復興支援活動の推進

**委員会メンバー：**

(役職)	(名前)	(備考)
委員長	巻誠一郎	元サッカー日本代表、特定非営利活動法人ユアアクション理事長
委員	上田栄治	JFA参与、株式会社Jヴィレッジ副社長
委員	長谷川隆治	日本財団経営企画広報部部長
委員	国崎信江	株式会社危機管理教育研究所代表/危機管理アドバイザー
委員	前原土武	災害NGO結代表
委員	飯沼誠司	ATHLETE SAVE JAPAN 代表理事
委員	鈴木順	Jリーグ
委員	高野純一	日本プロサッカー選手会事務局長
委員	橋本善一郎	理事、福島県サッカー協会専務理事

**■部活動推進委員会**

主管部署：指導普及部

所管事項：運動部活動の推進に関する事項

2年間で取り組む事項：

- 運動部活動の推進に関する事項
- (1)主に3種年代におけるサッカー環境の整備(技術委員会との連携)
  - (2)関係制度等の見直し(登録制度・大会規定等)
  - (3)部活動教員のかかわり方に関する提案(兼職兼業・ワーキングシェア等)
  - (4)好事例の収集・共有・発信(プロモーション)

**委員会メンバー：**

(役職)	(名前)	(備考)
委員長	池田洋二	鳥取県サッカー協会会長
副委員長	影山雅永	技術委員/ユース育成ダイレクター
委員	福島隆志	滋賀県サッカー協会常務理事 前日本中学校体育連盟サッカー競技部長
委員	蔵森紀昭	全国高等学校体育連盟サッカー専門部技術委員長/成城学園
委員	中西順也	佐賀県サッカー協会FAコーチ
委員	鮎田敏	長野県サッカー協会FAコーチ
委員	荒木弘	暁星中学校
委員	石川慎之助	つくばFC代表取締役
委員	久保田淳	株式会社エンパブリック
委員	小野剛	技術委員会副委員長/ゲーム環境プロジェクト
委員	中山雅雄	技術委員/普及ダイレクター

## 報告事項

### JFA Youth & Development Programme (JYD)

- 1 新規パートナーとの契約締結 ..... P30
- 2 女子ユースディベロップメント体制 ..... P30
- 3 天皇杯実施委員会委員の変更 ..... P30
- 4 JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー認定 ..... P30

- 5 JFA・Jリーグ特別指定選手制度 ..... P31
- 6 審判員・審判指導者 海外派遣 ..... P31
- 7 JFAサッカー施設整備助成事業 ..... P31
- 8 JFAロングバイル人工芝ピッチ公認(更新) ..... P31

## JFA Youth & Development Programme (JYD) 新規パートナーとの契約締結

JFA Youth & Development Programme (JYD)において、下記の通り、新規パートナーシップ契約を締結した。

社名 : 株式会社ボーネルンド

設立 : 1981年7月  
 事業内容 : 教育玩具、育児用具、教具・大型遊具などの輸入・開発および販売  
 本社所在地 : 東京都渋谷区神宮前1-3-12 ジブラルタ生命原宿ビル3階  
 契約内容 : JYDサポーター契約

## 女子ユースディベロップメント体制

1月理事会にて報告した「2022年女子ユースディベロップメント体制」(本誌2022年3月号に掲載)について、追加メンバーを右記の通り選任した。

<JFAコーチ女子担当>  
 ●北信越担当: 北川和人(新任)  
 ●東海GK担当: 井嶋正樹(九州GK兼務)

## 天皇杯実施委員会委員の変更

NHKの人事異動に伴い、天皇杯実施委員会委員を右記の通り交代する。

現)代田一貴(NHK視聴者総局事業センター 副部長)  
 新)五十畑与志(NHKメディア総局展開センター チーフプロデューサー)

## JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー認定

下記の団体を「JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー」として新たに認定した。

【JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー】

※( )内は主な活動場所/賛同テーマ・申込み順

認定日: 2022年1月5日

- (1) SC AMIRISA (北海道/女子サッカー)
- (2) arcoiris fc (茨城県/補欠ゼロ・施設の確保)
- (3) ライズサッカー学校千鳥町 (東京都/引退なし・補欠ゼロ・障がい者サッカー・女子サッカー・施設の確保・社会課題への取り組み)
- (4) foot union hiji (大分県/引退なし・補欠ゼロ・障がい者サッカー・女子サッカー)

認定日: 2022年1月17日

- (1) STRADA FC (東京都/補欠ゼロ)

認定日: 2022年2月1日

- (1) 男組 (大阪府/引退なし)
- (2) FC Sol・Tesoro / 一般社団法人 EL SOL (岡山県/引退なし・補欠ゼロ・障がい者サッカー・女子サッカー・施設の確保・社会課題への取り組み)

認定日: 2022年2月15日

- (1) Fantasista 栃木 (栃木県/引退なし・補欠ゼロ・女子サッカー)

認定日: 2022年3月1日

- (1) ダルバサッカースクール (東京都/引退なし・補欠ゼロ・障がい者サッカー・女子サッカー)
- (2) ゲンキフットボールクラブ (神奈川県/社会課題への取り組み)

認定日: 2022年3月15日

- (1) 一般社団法人レオーネ高岡スポーツクラブ (富山県/引退なし・補欠ゼロ・社会課題への取り組み)
- (2) NPO法人スポーツクラブアスリーナ (大阪府/補欠ゼロ)

以上の結果、2021年度(2021年4月~2022年3月)の認定は以下の数で終了した。

- (1) 2021年度認定団体数 : 249団体
- (2) 2020年度からの更新認定団体数: 177団体(183団体中)  
 ※更新は6月21日で完了
- (3) 2021年度の新規認定団体数: 72団体

<テーマ別>

- ①引退なし : 145団体
- ②補欠ゼロ : 178団体
- ③障がい者サッカー : 113団体
- ④女子サッカー : 128団体
- ⑤施設の確保 : 66団体
- ⑥社会課題への取り組み: 113団体

【※1】JFAグラスルーツ推進・賛同パートナー認定  
 日本におけるグラスルーツサッカーの環境改善活動の一環。「JFAグラスルーツ宣言」に賛同し、共に行動していただける団体と仲間になることで、グラスルーツサッカーの環境改善を推進する。



## JFA・Jリーグ特別指定選手制度

(1)選手 : 栗野健翔(あわの けんと)

所属チーム: 仙台大学サッカー部  
受け入れ先: 福島ユナイテッドFC  
所属歴 : S・F・C ジェラーレ  
ベガルタ仙台ジュニアユース  
ベガルタ仙台ユース  
仙台大学サッカー部  
FC Sendai university  
仙台大学サッカー部

認定日 : 2022年4月5日

(2)選手 : 水野颯太(みずの はやた)

所属チーム: 桐蔭横浜大学サッカー部  
受け入れ先: ヴァンフォーレ甲府  
所属歴 : 駒形サッカースポーツ少年団  
常葉学園橋中・高校(中等部)サッカー部

常葉大学附属橋高校サッカー部

桐蔭横浜大学サッカー部

桐蔭横浜大学FC

桐蔭横浜大学サッカー部

認定日 : 2022年4月12日

(3)選手 : 吉田源太郎(よしだ げんたろう)

所属チーム: 四国学院大学サッカー部

受け入れ先: カタママーレ讃岐

所属歴 : EXE90FC Jr

柏田サッカークラブ

四国学院大学香川西高校サッカー部

四国学院大学サッカー部

認定日 : 2022年4月26日

## 審判員・審判指導者・海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣期間	場所
AFCチャンピオンズリーグ2022 グループステージ 西地区 グループC	審判員	佐藤隆治、山内宏志、三原純	4月7日～26日	ジェッダ(サウジアラビア)
AFCチャンピオンズリーグ2022 グループステージ 西地区 グループA、B	審判員	荒木友輔、木村博之、飯田淳平、西橋勲、嵯峨巧	4月7日～26日	リヤド(サウジアラビア)
AFCチャンピオンズリーグ2022 グループステージ 東地区 グループG	審判員	山下良美、坊園真琴、手代木直美	4月15日～30日	バンコク(タイ)
AFCチャンピオンズリーグ2022 グループステージ 西地区 グループA、B	アセッサー	上川徹	4月7日～26日	リヤド(サウジアラビア)

## JFAサッカー施設整備助成事業

「JFAサッカー施設整備助成金 交付要項」に基づき、助成金交付要望のあった下記の案件について、審査し交付を決定した。

【申請概要】

秋田県

- (1)申請者 : 一般社団法人秋田県サッカー協会  
(2)申請区分 : [助成区分2]地区サッカー施設整備助成事業

(3)助成対象事業 : 天然芝新設

(4)施設名 : A-フィールド潟上

(5)計画地 : 秋田県潟上市天王字細谷長根127

(6)総事業費 : 77,242,000円

(7)助成金申請額 : 15,000,000円

(8)完了時期 : 2022年8月31日(予定)

## JFAロングバイル人工芝ピッチ公認(更新)

【更新】

申請者(施設所有者): 東京都

施設名 : 駒沢オリンピック公園総合運動場 補助競技場

(東京都世田谷区駒沢公園1-1)

使用製品: MCCスポーツ株式会社 アストロピッチ DS E-50 XC

公認期間: 2022年5月19日～2025年5月18日

公認番号: 第015号

申請者(施設所有者): 廿日市市

施設名 : 廿日市市サッカー場(三共ディスプレイ グリーンフィールド)

(広島県廿日市市地御前北1-2-1)

使用製品: 積水樹脂株式会社 ドリームターフ PT2040RS+SSL

公認期間: 2022年4月14日～2024年4月13日

公認番号: 第056号

申請者(施設所有者): 学校法人 東京国際大学

施設名 : 東京国際大学坂戸キャンパス第2サッカー場

(埼玉県坂戸市四日市場81-1 東京国際大学キャンパス)

使用製品: MCCスポーツ株式会社 アストロフィールドDD N-60

公認期間: 2022年5月16日～2025年5月15日

公認番号: 第089号

申請者(施設所有者): 学校法人 東京国際大学

施設名 : 東京国際大学坂戸キャンパス第3サッカー場

(埼玉県坂戸市四日市場81-1 東京国際大学キャンパス)

使用製品: MCCスポーツ株式会社 アストロフィールドDD N-60

公認期間: 2022年5月19日～2025年5月18日

公認番号: 第114号

申請者(施設所有者): 那須塩原市

施設名 : 青木サッカー場(栃木県那須塩原市青木101番地)

使用製品: 住友ゴム工業株式会社 ハイブリッドターフ EW-65

公認期間: 2022年4月11日～2025年4月10日

公認番号: 第231号

<特記事項>

- ・使用製品は、JFAロングバイル人工芝公認規程に基づく製品検査(ラボテスト)を完了している。
- ・当該施設は、JFAロングバイル人工芝公認規程に基づく現地検査(フィールドテスト)を実施し、基準を満たしている。

- ① U-21日本代表候補 トレーニングキャンプ
- ② U-19日本代表候補 トレーニングキャンプ
- ③ U-16日本代表 ルーマニア遠征
- ④ U-20日本女子代表候補 トレーニングキャンプ
- ⑤ U-17日本女子代表候補 トレーニングキャンプ
- ⑥ フットサル日本代表 AFCフットサルアジアカップクウェート2022予選

- ⑦ ビーチサッカー日本代表候補 トレーニングキャンプ
- ⑧ 女子U-15 トレーニングキャンプ
- ⑨ JFAエリートプログラム女子U-13 トレーニングキャンプ
- ⑩ 2022ナショナルトレセンU-14 前期

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ/VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

## U-21日本代表候補 トレーニングキャンプ(高円宮記念 JFA 夢フィールド)

### <スタッフ>

○監督: 大岩剛(NCS) ○コーチ: 羽田憲司(NCS) ○GKコーチ: 浜野征哉(NCS) ○フィジカルコーチ: 矢野由治(NCS) ○テクニカルスタッフ: 越智滋之(JFAテクニカルハウス)

### <選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	佐々木雅士	柏レイソル	MF	松村優大※1	鹿島アントラーズ	MF	三戸舜介※4	アルビレックス新潟
	鈴木彩艶	浦和レッズ		本田風智※2	サガン鳥栖		FW	藤尾翔太※1
DF	野澤大志ブランドン	いわてグルージャ盛岡	松岡大起※1	清水エスパルス	細谷真大	柏レイソル		
	成瀬竣平	ファジアーノ岡山	宮城天	川崎フロンターレ	中島大嘉	北海道コンサドーレ札幌		
	西尾隆矢	セレッソ大阪	山田楓喜	京都サンガF.C.	染野唯月※4	鹿島アントラーズ		
	木村誠二	モンテディオ山形	佐藤憲允	明治大学	小堀空※4	栃木SC		
	岡哲平	明治大学	鈴木唯人※1	清水エスパルス	※1: ケガのため不参加			
	加藤聖※5	V・ファーレン長崎	藤田謙瑞チマ※3	横浜F・マリノス	※2: コンディション不良のため不参加			
	バンゲルナガンデ佳史扶	FC東京	櫻井辰徳	徳島ヴォルティス	※3: クラブ事情のため不参加			
	馬場晴也	東京ヴェルディ	成岡輝瑞	清水エスパルス	※4: 追加招集			
	半田陸	モンテディオ山形	松木玖生	FC東京	※5: コンディション調整のため途中離脱			
	畑大雅	湘南ベルマーレ	鎌木都哉※4	柏レイソル	<スケジュール>			
鈴木海音	栃木SC	柴山昌也※4	大宮アルディージャ	5月9日~10日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)				
				11日 練習試合 vs 大学選抜(第一カッターフィールド)				

## U-19日本代表候補 トレーニングキャンプ(高円宮記念 JFA 夢フィールド)

### <スタッフ>

○監督: 冨樫剛一(NCS) ○コーチ: 船越優蔵(NCS) ○ロールモデルコーチ: 内田篤人(JFA) ○GKコーチ: 川口能活(NCS) ○フィジカルコーチ: 菅野淳(FFP) ○テクニカルスタッフ: 佐藤孝次(JFAテクニカルハウス)

### <選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	彼島優	流通経済大学	DF	松田隼風※1	水戸ホーリーホック	MF	福井太智	サガン鳥栖U-18
	木村凌也	日本大学		吉田温紀	名古屋グランパス		FW	横山歩夢
DF	波多野崇史	同志社大学	笠柳翼	V・ファーレン長崎	千葉寛汰	清水エスパルス		
	西久保諒介	ジュビロ磐田	古川隼介	ジュビロ磐田	鈴木章斗	湘南ベルマーレ		
	菊地備太	清水エスパルス	佐野航大	ファジアーノ岡山	※1: 追加招集			
	中野伸哉	サガン鳥栖	屋敷優成	大分トリニータ	<スケジュール>			
	田中隼人	柏レイソル	藤原健介	ジュビロ磐田	4月24日~26日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)			
	石井大生	湘南ベルマーレ	山崎太新	筑波大学	27日 練習試合 vs 関東大学選抜			
	溝口修平	鹿島アントラーズ	安部大晴	V・ファーレン長崎U-18	(高円宮記念JFA夢フィールド)			
	西野颯太	北海道コンサドーレ札幌	荒井悠汰	昌平高校				

## U-16日本代表 ルーマニア遠征

### <スタッフ>

○団長: 反町康治(JFA技術委員長) ○監督: 森山佳郎(NCS) ○コーチ: 廣山望(NCS/JFAアカデミー福島) ○GKコーチ: 高橋範夫(NCS) ○フィジカルコーチ: 村岡誠(NCS) ○テクニカルスタッフ: 酒井清考(JFAテクニカルハウス)

### <選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	<スケジュール>	
GK	後藤亘	FC東京U-18	MF	佐藤龍之介	FC東京U-18	5月2日	集合、トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)
	ピナ・アレクサンドル・オグネツ	名古屋グランパスU-18		中島洋太郎	サンフレッチェ広島ユース		3日
DF	上林大誠	モンテディオ山形ユース	矢田龍之介	清水エスパルスユース	4日	ブカレスト着	
	柴田翔太郎	川崎フロンターレU-18	杉浦駿吾	名古屋グランパスU-18	5日	トレーニング	
	松本遥輝	鹿島アントラーズユース	高橋友矢	横浜FCユース	5日	トレーニング	
	田所利旺	川崎フロンターレU-18	磯崎麻玖	大宮アルディージャU18	5日	U-16 Six Nations Tournament	
	本多康太郎	湘南ベルマーレU-18	道藤豊	ロアッソ熊本ユース	6日	第1戦 vs U-16ノルウェー代表(Stadionul Colentina)	
	永野修都	FC東京U-18	徳田蒼	鹿島アントラーズユース	6日	トレーニング	
	山田佳	前橋育英高校	名和田我空	神村学園高等学校	7日	第2戦 vs U-16カタル代表(Stadionul Clinceni)	
	小杉啓太	湘南ベルマーレU-18	山口豪太	FC LAVIDA	8日	トレーニング	
	MF	山本丈博	東京ヴェルディユース			9日	第3戦 vs U-16サウジアラビア代表(Stadionul Colentina)
						10日	トレーニング
				11日	国際親善試合 vs U-16ルーマニア代表(Butefa Football Center)		
				12日	ブカレスト発		
				12日	羽田着、解散		

■U-16 Six Nations Tournament

- 第1戦 U-16日本代表 1-2 U-16ノルウェー代表  
 得点=徳田誉
- 第2戦 U-16日本代表 6-0 U-16カタール代表  
 得点=名和田我空、道脇豊(2点)、杉浦駿吾(2点)、徳田誉
- 第3戦 U-16日本代表 3-0 U-16サウジアラビア代表  
 得点=徳田誉、名和田我空、磯崎麻玖

■国際親善試合

- U-16日本代表 2-3 U-16ルーマニア代表  
 得点=磯崎麻玖(2点)

U-20日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(Jヴィレッジ)

<スタッフ>

○監督: 池田太(NCS) ○コーチ: 宮本ともみ(NCS) ○GKコーチ: 西入俊浩(NCS) ○フィジカルコーチ: 大塚慶輔(NCS)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	石田心葉	早稲田大学	MF	吉田莉胡	ちふれASエルフェン猪玉
	福田史織	三菱重工浦和レッズレディース		岩崎心南	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	大塚朱羽※1	イーストネシー州立大学 (USA)		天野紗	INAC神戸レオネッサ
	野田にな	日テレ・東京ヴェルディベレーザ		大山愛笑	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
DF	西野朱音	マイナビ仙台レディース	FW	島田芽依	三菱重工浦和レッズレディース
	長江伊吹	INAC神戸レオネッサ		柳瀬楓菜	サンフレッチェ広島レジーナ
	岩井蘭	フロリダ州立大学 (USA)		山本柚月	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	田畑晴菜	セレッソ大阪堺レディース		西尾葉音	三菱重工浦和レッズレディース
	杉澤海星	大宮アルディージャ VENTUS		藤野あおば	日テレ・東京ヴェルディベレーザ
	竹重杏歌理	INAC神戸レオネッサ		土方麻椰	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	石川瑠音	三菱重工浦和レッズレディース		浜野まいか	INAC神戸レオネッサ
	小山史乃観	セレッソ大阪堺レディース		松窪真心	JFAアカデミー福島
MF	森田美紗希	日体大SMG横浜	USA: アメリカ		
	中尾萌々	メンフィス大学 (USA)	※1: 体調不良のため不参加		

<スケジュール>

- 5月23日 集合、トレーニング (Jヴィレッジ・ピッチ3)  
 24日 トレーニング (Jヴィレッジ・ピッチ4)  
 トレーニング (Jヴィレッジ・ピッチ3)  
 トレーニング (Jヴィレッジ・ピッチ4)  
 25日 練習試合 vs 東日本国際大学附属昌平高校 (Jヴィレッジ・ピッチ3)  
 26日 トレーニング (Jヴィレッジ・ピッチ4)、解散

U-17日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(静岡)

<スタッフ>

○団長: 能仲太司(JFA女子委員会副委員長) ○監督: 狩野倫久(NCS/SAGAWA SHIGA FC) ○コーチ: 有町紗央里(NCS/マイナビ仙台レディース) ○GKコーチ: 井嶋正樹(NCS)  
 ○フィジカルコーチ: 山田庸(びわこ成蹊スポーツ大学) ○テクニカルスタッフ: 寺口謙介(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	古橋綾乃	スフィーダ世田谷FCユース	MF	今野真帆	三菱重工浦和レッズレディースユース
	ウルフ・ジェシカ結衣	日テレ・東京ヴェルディメニーナ		竹内優未	三菱重工浦和レッズレディースユース
	名和咲香	セレッソ大阪堺ガールズ		松永未夢	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
DF	大矢さくら	ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ	FW	藤崎智子	三菱重工浦和レッズレディースユース
	橘さやみ	セレッソ大阪堺ガールズ		木下日菜子	セレッソ大阪堺ガールズ
	中谷莉奈	セレッソ大阪堺レディース		橘城美春	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	岡村来佳	三菱重工浦和レッズレディースユース		梶井美和子	INAC神戸レオンチーナ
	中嶋琉七	ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ		橘渡百花	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	白垣うの	セレッソ大阪堺レディース		辻澤亜唯	藤枝順心高校
	清水優風	三菱重工浦和レッズレディースユース		前原菜乃※1	三菱重工浦和レッズレディースユース
	谷川萌々子	JFAアカデミー福島		板村真央	JFAアカデミー福島
MF	久保田真生	藤枝順心高校	高岡澤※2	藤枝順心高校	
	丸井優奈	セレッソ大阪堺ガールズ	※1: ケガのため離脱		
	柴田瞳	ノジマステラ神奈川相模原ドゥーエ	※2: 追加招集		

<スケジュール>

- 5月14日 集合  
 15日 集合検査  
 練習試合 (御前崎NEXTAフィールド)  
 トレーニング (御前崎NEXTAフィールド)  
 練習試合 (御前崎NEXTAフィールド)  
 トレーニング (御前崎NEXTAフィールド)  
 トレーニング (御前崎NEXTAフィールド)  
 17日 トレーニング (御前崎NEXTAフィールド)  
 18日 トレーニング (御前崎NEXTAフィールド)  
 練習試合 (磐田スポーツ交流の里ゆめりあ球技場)  
 19日 トレーニング (御前崎NEXTAフィールド)  
 解散

フットサル日本代表 AFCフットサルアジアカップクウェート2022予選

<スタッフ>

○団長: 小西鉄平(JFAフットサルテクニカルダイレクター) ○監督: 木暮賢一郎(NCS) ○コーチ: 高橋健介(NCS)、須賀雄大(NCS) ○GKコーチ: 内山慶太郎(NCS)  
 ○フィジカルコーチ: 馬場源徳(NCS)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	高見政顕	シュライカー大阪	FP	PIVO	本石猛裕
	黒本ギレルメ	立川アスレティックFC		ALA	原田快
FP	ALA	内田隼太	ブレラFS (ESP)	PIVO	毛利元亮
	FIXO	齋藤日向※1	シュライカー大阪	FIXO	上村充哉
	FIXO	オリベira・アルトワール	名古屋オーシャンズ	ALA	加藤未濠実※2
	ALA	吉川智貴	名古屋オーシャンズ	ESP: スペイン	
	ALA	金澤空	立川アスレティックFC	*初招集	
	ALA	堤優大	Y.S.C.C.横浜	※1: ケガのため離脱	
	PIVO	平田トアントニオマサリ	名古屋オーシャンズ	※2: 追加招集	
ALA	クレバウジ・ヴィニシウス	ベスカドーラ町田			

<スケジュール>

- 5月8日 集合、成田発、クアラルンプール着  
 9日~11日 トレーニング  
 12日 練習試合 vs チャイニーズ・タイペイ (非公開)  
 13日 練習試合 vs Selangor FC (非公開)  
 14日~17日 トレーニング  
 AFCフットサルアジアカップクウェート2022予選  
 vs フットサル香港代表 (シャーアラム/ Kompleks Sukan Shah Alam)  
 vs フットサルモンゴル代表 (シャーアラム/ Kompleks Sukan Shah Alam)  
 vs フットサル韓国代表 (シャーアラム/ Kompleks Sukan Shah Alam)  
 vs フットサルチャイニーズ・タイペイ代表 (シャーアラム/ Kompleks Sukan Shah Alam)  
 クアラルンプール発  
 成田着、解散

■グループステージ

順位	グループA	日本	韓国	タイ	香港	モンゴル	得点	失点	差	
1	日本	9 0 0	7 0 1	11 0 2	15 0 0	12 4 0	0	42	3	39
2	韓国	0 0 9	4 0 2	1 1 1	6 0 0	7 2 1	1	11	12	-1
3	タイ	1 0 7	2 0 4	4 0 2	6 0 1	6 2 0	2	13	14	-1
4	香港	2 0 11	1 1 1	2 0 4	1 1 1	2 0 2	2	6	17	-11
5	モンゴル	0 0 15	0 0 6	1 0 6	1 1 1	1 0 1	3	2	28	-26

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

グループステージ第1戦

フットサル 日本代表 **11** (前半5-1 後半6-1) **2** フットサル 香港代表

●2022年5月18日 17:00 ●Panasonic Sports Complex ●試合時間:40分(プレイングタイム) ●審判員:[主審]ALI HAFIZI(IRN) [第2審判]MURTAZOEV BEHRUZ(TJK) [第3審判]HASAN MOHAMMED AL-GBURI(IRQ) [タイムキーパー]WAHYU WICAKSONO(IDN) ●マッチコミッショナー:VO HUY THE(VIE) ●観衆:50人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名	
高見政顕	△	1	GK	GK	1	○	LI YAT LONG AARON	
黒本ギレルメ	○	2	GK	GK	2	△	WONG TSZ HO	
内田隼太	△	3	FP	FP	3	○	LEE HO YIN	
加藤未渚実	△	4	FP	FP	4	△	CHOW KA LOK LEO	
オリベイラ・アルトゥール	○	5	FP	FP	5	△	CHU WING CHO	
吉川智貴	△	6	FP	FP	6	△	LEUNG SIN FUNG	
金澤空	○	7	FP	FP	7	○	CHOW KA WA	
堤優太	△	8	FP	FP	8	○	LEE HO WO	
平田ネットアトニオマサノリ	○	9	FP	FP	9	△	WONG WAI KWOK	
クレバウジ・ヴィニシウス	○	10	FP	FP	10	△	LIU YIK SHING	
本石猛裕	△	11	FP	FP	11	△	YUEN SAI KIT	
原田快	△	12	FP	FP	13	△	CHAU YUI WANG	
毛利元亮	△	13	FP	FP	14	○	TSANG TSZ HIN	
上村充哉	△	14	FP					
木暮賢一郎			監督				監督	CHOI IP FAI

得点 [日本]2'28'30'クレバウジ・ヴィニシウス(1-1)(8-1)(9-1)、3'金澤空(2-1)、6'内田隼太(3-1)、12'24'上村充哉(4-1)(6-1)、20'吉川智貴(5-1)、28'オリベイラ・アルトゥール(7-1)、31'堤優太(10-1)、40'毛利元亮(11-2)  
[香港]1'LEE HO WO(0-1)、37'CHOW KA LOK LEO(10-2)

警告 [日本]30'オリベイラ・アルトゥール [香港]36'CHOW KA WA

○:先発、△:交代出場

グループステージ第2戦

フットサル 日本代表 **15** (前半6-0 後半9-0) **0** フットサル モンゴル代表

●2022年5月19日 17:00 ●Panasonic Sports Complex ●試合時間:40分(プレイングタイム) ●審判員:[主審]MURTAZOEV BEHRUZ(TJK) [第2審判]ALI HAFIZI(IRN) [第3審判]HASAN MOHAMMED AL-GBURI(IRQ) [タイムキーパー]GELAREH NAZEMIDEYLAMI(IRN) ●マッチコミッショナー:ALIM ARIFOV(UZB) ●観衆:0人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名	
高見政顕	△	1	GK	GK	1	○	CHANTSAL MANDAKH	
黒本ギレルメ	○	2	GK	FW	2	○	ERDENE-UNRAKH BATTOGTOKH	
内田隼太	△	3	FP	FW	3	△	ERDENEBAT BAT-ORGIL	
加藤未渚実	△	4	FP	FW	4	○	AMGALANBAT BATBAATAR	
オリベイラ・アルトゥール	○	5	FP	FW	5	△	UUGANBAYAR ERDENEBAT	
吉川智貴	△	6	FP	FW	6	△	ALTANSUKH YALALT	
金澤空	○	7	FP	FW	7	△	ANKHBAYAR TUMURBAATAR	
堤優太	△	8	FP	FW	8	△	GANZORIG ERDENE-ÖCHIR	
平田ネットアトニオマサノリ	○	9	FP	FW	9	○	YESUKHEI OYUNBILEG	
クレバウジ・ヴィニシウス	○	10	FP	FW	10	△	ALTANTULGA PAGAMSUREN	
本石猛裕	△	11	FP	FW	11	△	PUREVDORJ ERDENEBAT	
原田快	△	12	FP	FW	12	△	ENKHBILEG BATSUKH	
毛利元亮	△	13	FP	FW	13	○	AMARSAIKHAN TEMUULEN	
上村充哉	△	14	FP	GK	14	△	NARMANDAKH BATTULGA	
木暮賢一郎			監督				監督	ERDENE-ÖCHIR SANDAGDORJ

得点 [日本]4'吉川智貴(1-0)、6'加藤未渚実(2-0)、8'33'35'本石猛裕(3-0)(11-0)(14-0)、11'金澤空(4-0)、12'オリベイラ・アルトゥール(5-0)、14'26'毛利元亮(5-0)(9-0)、24'35'オウンゴール(7-0)(13-0)、24'40'原田快(8-0)(15-0)、30'クレバウジ・ヴィニシウス(10-0)、35'上村充哉(12-0)

○:先発、△:交代出場

グループステージ第3戦

フットサル 日本代表 **9** (前半5-0 後半4-0) **0** フットサル 韓国代表

●2022年5月20日 20:30 ●Panasonic Sports Complex ●試合時間:40分(プレイングタイム) ●審判員:[主審]PORNNARONG GRAIROD(THA) [第2審判]HASAN MOHAMMED AL-GBURI(IRQ) [第3審判]MURTAZOEV BEHRUZ(TJK) [タイムキーパー]HAWKAR AHMED(IRQ) ●マッチコミッショナー:ALIM ARIFOV(UZB) ●観衆:100人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名	
高見政顕		1	GK	GK	1	○	SEO JUNGWOO	
黒本ギレルメ	○	2	GK	GK	2	△	LEE WOO JIN	
内田隼太	△	3	FP	FW	3	△	AHN KWANGSU	
加藤未渚実	△	4	FP	FW	4	○	KIM YUNYOUNG	
オリベイラ・アルトゥール	○	5	FP	FW	5	△	YOO SEUNG MU	
吉川智貴	○	6	FP	FW	6	△	LEE JINHYUK	
金澤空	△	7	FP	FW	7	△	KIM MINKUK	
堤優太	△	8	FP	FW	8	△	KANG JUKWANG	
平田ネットアトニオマサノリ	○	9	FP	FW	9	△	PARK JEONGJIN	
クレバウジ・ヴィニシウス	○	10	FP	FW	10	○	SHIN JONGHOON	
本石猛裕	△	11	FP	FW	11	△	CHUN JIN WOO	
原田快	△	12	FP	FW	12	△	LEE AHN	
毛利元亮	△	13	FP	FW	13	○	EOM TAEYOUN	
上村充哉	△	14	FP	FW	14	○	HWANG UN	
木暮賢一郎			監督				監督	LEE SANG JIN

得点 [日本]5'オウンゴール(1-0)、7'上村充哉(2-0)、8'オリベイラ・アルトゥール(3-0)、12'21'金澤空(4-0)(6-0)、19'黒本ギレルメ(5-0)、32'平田ネットアトニオマサノリ(7-0)、39'内田隼太(8-0)、40'加藤未渚実(9-0)

警告 [韓国]8'SHIN JONGHOON、11'PARK JEONGJIN

○:先発、△:交代出場

グループステージ第4戦

フットサル 日本代表 **7** (前半2-1 後半5-0) **1** フットサル タイ代表

●2022年5月21日 20:30 ●Panasonic Sports Complex ●試合時間:40分(プレイングタイム) ●審判員:[主審]HAWKAR AHMED(IRQ) [第2審判]MURTAZOEV BEHRUZ(TJK) [第3審判]WAHYU WICAKSONO(IDN) [タイムキーパー]HASAN MOHAMMED AL-GBURI(IRQ) ●マッチコミッショナー:VO HUY THE(VIE) ●観衆:100人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名	
高見政顕	△	1	GK	GK	1	○	CHIANG HSIN WEI	
黒本ギレルメ	○	2	GK	FW	2	△	HOU PEI-HUNG	
内田隼太	△	3	FP	FW	3	△	LIU JU-MING	
加藤未渚実	○	4	FP	FW	4	△	HSIEH CHIN-CHENG	
オリベイラ・アルトゥール	△	5	FP	FW	5	○	WANG KUN-WEI	
吉川智貴	○	6	FP	FW	6	△	CHEN CHING-HSIUAN	
金澤空	○	7	FP	FW	7	△	TANG WEI TAI	
堤優太	△	8	FP	FW	8	△	HUANG WEI-LUN	
平田ネットアトニオマサノリ	○	9	FP	FW	9	○	LIN, CHIH-HUNG	
クレバウジ・ヴィニシウス	△	10	FP	FW	10	○	CHI SHENG-FA	
本石猛裕	△	11	FP	FW	11	△	HE CHIA-CHEN	
原田快	△	12	FP	GK	12	△	CHEN WEI-CHUN	
毛利元亮	△	13	FP	FW	13	△	LIN PANG-KO	
上村充哉	△	14	FP	FW	14	○	CHU CHIA-WEI	
木暮賢一郎			監督				監督	JOSE ADIL AMARANTE

得点 [日本]6'16'22'内田隼太(1-1)(2-1)(3-1)、24'クレバウジ・ヴィニシウス(4-1)、29'オリベイラ・アルトゥール(5-1)、33'平田ネットアトニオマサノリ(6-1)、37'高見政顕(7-1) [タイ]2'CHI SHENG-FA(0-1)

○:先発、△:交代出場

## ビーチサッカー日本代表候補 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

### <スタッフ>

○選手兼監督:茂栞羅オズ(NCS/東京ヴェルディ BS) ○コーチ:田畑輝樹(NCS/ヴィアティン三重BS) ○GKコーチ:荒井洋介(ロコスポート湘南) ○フィジカルコーチ:田中章博(FFP)

### <選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	宜野産寛也	ソーマブライア沖縄	FP	上原大明*	ヴィアティン三重BS
	河合雄介	東京ヴェルディ BS		木船祐樹	アヴェルダージ熊本BS
	榎枝賢謙	東京ヴェルディ BS		伊藤龍之介	ラソアペーゴ北九州
FP	山内悠誠	東京ヴェルディ BS		齋藤凱也	ソーマブライア沖縄
	茂栞羅オズ	東京ヴェルディ BS		田中颯	東京ヴェルディ BS
	盛礼良レオナルド	ヴィアティン三重BS		山口優輝*	ヴィアティン三重BS
	赤熊卓弥	ラソアペーゴ北九州		見山龍之介※2	東京ヴェルディ BS
	上里琢文※1	東京ヴェルディ BS			

\*: 初召集  
※1: ケガのため難脱  
※2: 追加召集

<スケジュール>  
5月16日 集合、トレーニング(ピッチ・カリオカ)  
17日 トレーニング(ピッチ・カリオカ)  
18日 トレーニング(トロピカルビーチ、ピッチ・カリオカ)  
19日 練習試合(ピッチ・カリオカ)、ビーチクリーン活動(暮張の浜)、解散

## 女子U-15 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

### <スタッフ>

○監督:加藤賢二(JC/JFAアカデミー堺) ○コーチ:白井貞義(JC) ○GKコーチ:西入俊浩(JC) ○フィジカルコーチ:大塚慶輔(JFA)

### <選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	永井愛理	日テレ・東京ヴェルディメニーナ	FP	小林愛梨	北海道リラ・コンサドーレ	FP	辨愛花	JFAアカデミー福島
	福田真央	JFAアカデミー福島		牧口優花	セレッソ大阪堺ガールズU-15		春風虹天	神村学園中等部
	宮越杏純	松本山雅FCレディースU-15		金月夏萌	INAC神戸テゾーロ		津田愛乃音	朝日インテック・NGUラブリッジ名古屋スターチス
FP	中平伶純	INAC神戸テゾーロ		白井利依	ディオッサ出雲FCユース		伊藤里保	RESCGIRLS U-15※JFAアカデミー堺
	古田麻子	セレッソ大阪堺ガールズU-15		明詩音梨	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール		大野羽愛	高知学園高知中学校
	登坂夢愛	アルビレックス新潟レディースU-15		岩城恋音美	栃木サッカークラブレディースU-15			
	原ひばり	JFAアカデミー福島		菊地花奈	北海道コンサドーレ旭川U-15			
	本多桃華	日テレ・東京ヴェルディメニーナ		高鹿沙紀	八戸FOOTBALLCLUBジュニアユース			
	伊勢はな	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース		辻あみる	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース			

<スケジュール>  
4月18日~21日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)

## JFAエリートプログラム女子U-13 トレーニングキャンプ(高円宮記念JFA夢フィールド)

### <スタッフ>

○監督:白井貞義(JC) ○コーチ:三輪由衣(JC/帝塚山学院大学)、横道玲香(JC/広島経済大学)、佐野佑樹(JC)、西村陽介(JC/医療法人両宮病院)  
○GKコーチ:監物政希(JC/JFAアカデミー今治)、唐島和義(JC) ○フィジカルコーチ:大塚慶輔(NCS)

### <選手>

Pos	名前	所属	Pos	名前	所属	Pos	名前	所属
GK	山本由弥	ASハリマアルビオンユース	FP	西村絵衣瑠	セレッソ大阪堺ガールズU-15	FP	宮崎叶帆	富山レディースサッカークラブ
	林香利奈	京都精華学園中学校		井上寧々	横須賀シーガルズBES		西ひまり	JFAアカデミー福島
	宮村一花	神村学園中等部		岩井舞香	RESCGIRLS U-15※JFAアカデミー堺		鍋谷心愛	北海道リラ・コンサドーレ
	小原梨音	FC.ZONE		小久保まい	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15		野本心菜	SATOなでしこU-15
	伊達優芽	RESCGIRLS U-15		緒方咲季	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール		榎並光理	富田中学校
	国塚瑠香	横須賀シーガルズBES		西出愛悠	大陸大学フィオーレ		小田切響子	朝日インテック・ラブリッジ名古屋スターチス
FP	中島采音	福山ローザレディース		酒井千結	INAC神戸テゾーロ		松下遥龍	JFAアカデミー福島
	鈴木璃子	INAC神戸テゾーロ		佐々木樹璃	愛媛FCレディースMIKAN		大長栞花	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	保美羽	マイナビ仙台レディースジュニアユース		高橋心花	JFAアカデミー福島		眞崎玲愛	三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース
	加藤琉梨	朝日インテック・ラブリッジ名古屋スターチス		中嶋彩夏	神村学園中等部		松谷侘奈	F.C.コマレディースアザレア※JFAアカデミー今治
	中光優	ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール		四本帆夏	セレッソ大阪堺ガールズU-15		日高美空	神村学園中等部
	大田ありす	INAC神戸テゾーロ		武島杏菜	レノファ山口FC U-15		北島景子	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	壺谷沙南	いわきFCGirls U-15		中島莉空	朝日インテック・ラブリッジ名古屋スターチス※JFAアカデミー堺		嵐穂穂	武生フットボールクラブ※JFAアカデミー堺
	田村胡桃	セレッソ大阪堺ガールズU-15		加藤麻夏	FIBRAFootballClub U-15		栗田七海	日テレ・東京ヴェルディメニーナ
	池田柚葉	セレッソ大阪堺ガールズU-15		金子ここの	サンフレッチェ広島レジーナジュニアユース			
	角谷瑠菜	ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15		秋元優花	五戸スポーツクラブ			

<スケジュール>  
5月12日~15日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド)

## 2022ナショナルトレセンU-14 前期

概要: 個の育成の充実を図るトレセンの役割は高いレベルの指導・環境と選手同士の刺激による活動から得たものを自チームに還元していくことや指導者へのJFAの発信機会として重要度を増している。  
そこで、選手育成・強化の観点から、より多くの選手に質の高いトレーニング機会を与えることを目的に今年度は感染予防の観点から2箇所に分散して開催する。

目的: 日本サッカーの強化・発展のため、優秀な選手の発掘・育成を図る  
全国の選手・指導者の交流を図る  
選手・指導者のレベルアップを図る  
トレセン(トレーニングセンター)制度の充実・発展を図る

主催: 公益財団法人日本サッカー協会

協賛: JFA Youth & Development Official Partner: トヨタ自動車株式会社、ニチバン株式会社、株式会社モルテン

指導: 公益財団法人日本サッカー協会 技術委員会  
(技術委員・ナショナルコーチングスタッフ・JFAコーチ)  
地域トレセンU-14 指導スタッフ

期間: 2022年5月19日(木)~5月22日(日) 3泊4日

参加地域/開催場所

【東日本】参加地域: 北海道・東北・関東/Jヴィレッジ  
【中日本】参加地域: 北信越・東海・関西/J-GREEN堺・DREAM CAMP  
【西日本】参加地域: 中国・四国・九州/大分スポーツ公園 サッカーラグビー場

選手参加資格

③日常的にトレセンで活動している者

①本協会加盟登録選手(外国籍選手でもその選手の参加が他の選手にプラスと考えられる場合、参加を承認する)

※その他、スケジュール等の詳細についてはJFA公式ウェブサイト参照

②2008(平成20)年1月1日以降出生の者

<コーチ>

地域	役職	名前	所属
北海道	コーチ	田部学	札幌大谷大学サッカー部
北海道	コーチ	中野拓也	岩見沢市立明成中学校サッカー部
東北	コーチ	日野亮太(宮城県)	宮城県トレセン
関東	コーチ	大澤謙也(東京都)	玉川学園中等部
北信越	コーチ	不野亮二(石川県)	FC.TON
北信越	コーチ	卞太暉(新潟県)	アルビレックス新潟U-15

地域	役職	名前	所属
東海	コーチ	高田樹宜(岐阜県)	大垣市立西中学校
関西	コーチ	安本真哉(大阪府)	ガンバ大阪JrY
中国	コーチ	行友健太郎(山口県)	ブラシア山口FC
中国	コーチ	齋藤正紀(島根県)	吉賀町立六日市中学校
四国	コーチ	津崎浩平(徳島県)	上板中学校サッカー部
九州	コーチ	北岡英行(福岡県)	福岡県トレセンU15

<選手>

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
北海道	GK	江利山昊空	北海道	稚内市立稚内南中学校サッカー部
北海道	FP	中奎斗	北海道	札幌ジュニアU-15
北海道	FP	河村虎之介	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道	FP	猪谷梗大	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道	FP	佐々木瑛汰	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道	FP	徳差優利	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道	FP	白髭瑛仁	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道	FP	多田蒼生	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
東北	GK	佐藤陸斗	山形県	モンテディオ山形ジュニアユース村山
東北	FP	菊地大翼	福島県	JFAアカデミー福島U-15EAST
東北	FP	横尾潤	宮城県	仙台FC
東北	FP	和久井博斗	山形県	ながいユナイテッドFC
東北	FP	末永悠晴	福島県	JFAアカデミー福島U-15EAST
東北	FP	宇南山新太	福島県	会津サントスFCジュニアユース
東北	FP	近藤優成	岩手県	遠野市立遠野中学校
東北	FP	中村快生	山形県	ながいユナイテッドFC
東北	FP	加藤遙真	青森県	Desenvolver
東北	FP	永澤柊太	秋田県	ブラウブリッツ秋田ジュニアユース
関東	GK	山岸克斗	神奈川	横浜FCジュニアユース
関東	GK	新堀恵太	東京都	FC東京U15むさし
関東	FP	今井宏亮	東京都	東京ヴェルディジュニアユース
関東	FP	三浦春人	茨城県	鹿島アントラーズジュニアユース
関東	FP	正木裕翔	茨城県	鹿島アントラーズノルテジュニアユース
関東	FP	阿出川琥吾	千葉県	柏レイソル
関東	FP	カマラ・シェック・セザール	埼玉県	FC LAVIDA
関東	FP	飯島碧大	埼玉県	FC LAVIDA
関東	FP	毛利貴大	神奈川県	湘南ベルマーレU-15
関東	FP	田中遥大	東京都	FC東京U-15深川
関東	FP	吉沢奏	埼玉県	浦和レッズジュニアユース
関東	FP	友松祐貴	東京都	FC東京U-15深川
関東	FP	中上遥登	埼玉県	浦和レッズジュニアユース
関東	FP	小川直澄	埼玉県	浦和レッズジュニアユース
関東	FP	田中陽瑛	神奈川県	横浜F・マリノスジュニアユース
関東	FP	加茂結斗	千葉県	柏レイソル
関東	FP	高原由翔	神奈川県	横浜FCジュニアユース
関東	FP	斎藤敬太	千葉県	ジェフユナイテッド市原・千葉U-15
北信越	GK	松浦大翔	新潟県	アルビレックス新潟
北信越	FP	加藤孝一朗	長野県	松本山雅FC
北信越	FP	谷奥瑠成	福井県	坂井フェニックス丸岡JY
北信越	FP	大谷新	福井県	坂井フェニックス丸岡JY
北信越	FP	小林椋人	新潟県	グランセナ新潟FCジュニアユース
北信越	FP	黒田和希	富山県	カタール富山
北信越	FP	室屋吉彦	石川県	ツエーゲン金沢
北信越	FP	神田晟仁	新潟県	アルビレックス新潟
北信越	FP	清水優咲	長野県	松本山雅FC
東海	GK	内田康楠	静岡県	清水エスパルスジュニアユース
東海	FP	大場創雅	静岡県	ジュビロ磐田U-15
東海	FP	平岩煌麻	静岡県	ジュビロ磐田U-15
東海	FP	中條遼人	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	増田奏萌	静岡県	清水エスパルスジュニアユース
東海	FP	神谷輝一	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	半田怜也	静岡県	清水エスパルスジュニアユース
東海	FP	大見咲新	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	伊藤心音	静岡県	ジュビロ磐田U-15

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
東海	FP	清水惺羽	静岡県	清水エスパルスジュニアユース
東海	FP	石田翔琉	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	浦川慶	愛知県	AS.ランジャシューU15
関西	GK	麻生太郎	京都府	京都サンガF.C.U-15
関西	GK	吉川怜汰	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	瀬口大翔	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	川端彪英	京都府	京都サンガF.C.U-15
関西	FP	山下翔音	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	前田凱吏	兵庫県	ヴィッセル神戸伊丹U-15
関西	FP	塩尻哲平	大阪府	セレッソ大阪西U-15
関西	FP	森岡悠大	大阪府	エルセレユナイテッド
関西	FP	手嶋蒼介	大阪府	セレッソ大阪U-15
関西	FP	上本佳生	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	安井司	大阪府	ガンバ大阪JrY
関西	FP	児玉一成	京都府	京都サンガF.C.U-15
関西	FP	中瀬望聖	大阪府	セレッソ大阪U-15
関西	FP	坂口佑樹	兵庫県	神戸フットボールクラブ
関西	FP	丸岡海太	大阪府	ガンバ大阪JrY
中国	GK	山田真叶	広島県	サンフレッチェ広島
中国	FP	山内修平	岡山県	ファジアーノ岡山
中国	FP	岡田龍斗	広島県	サンフレッチェ広島
中国	FP	梶浦瑛太	山口県	レノファ山口
中国	FP	川崎教史	広島県	サンフレッチェ広島
中国	FP	信重亮二郎	広島県	サンフレッチェ広島
中国	FP	岡朔太郎	広島県	シーガル広島
中国	FP	小田翔太郎	山口県	レノファ山口
中国	FP	越智亮介	広島県	サンフレッチェ広島
中国	FP	榎諒次	岡山県	ファジアーノ岡山
四国	GK	山田徠斗	愛媛県	愛媛FC U-15
四国	FP	大坂嵐	徳島県	徳島ヴォルティスジュニアユース
四国	FP	渡部有夢	愛媛県	FC今治U-15
四国	FP	矢野泰聖	愛媛県	愛媛FC U-15
四国	FP	国本泰成	香川県	カマタマーレ讃岐U-15
四国	FP	朝日奈英心	徳島県	徳島ヴォルティスジュニアユース
四国	FP	加集啓太	徳島県	ブルミエール徳島SC
四国	FP	田中寛祐	香川県	カマタマーレ讃岐U-15
四国	FP	藤澤瑠人	徳島県	那賀川中学校
九州	GK	寺田健太郎	大分県	スマイスセレンソンスポーツU15
九州	GK	久富一寛	佐賀県	サガン鳥栖U-15唐津
九州	FP	山下昊良	福岡県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	原田蓮太郎	佐賀県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	野口蓮斗	熊本県	ソレッシン熊本
九州	FP	坂口昊太郎	佐賀県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	末吉琉人	沖縄県	casa okinawa U-15
九州	FP	増村凌久	熊本県	ロアッソ熊本
九州	FP	伏原俐空	鹿児島県	神村学園中等部サッカー部
九州	FP	梶谷陸人	鹿児島県	神村学園中等部サッカー部
九州	FP	前田千颯	宮崎県	日章学園中学校サッカー部
九州	FP	大野廉門	佐賀県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	竹嵩翼	福岡県	アビスパ福岡
九州	FP	岩本伊織	熊本県	ブレイス熊本
九州	FP	花城瑛汰	鹿児島県	神村学園中等部サッカー部
九州	FP	奥田敦斗	鹿児島県	神村学園中等部サッカー部
九州	FP	米湊勇弥	佐賀県	サガン鳥栖U-15

# サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。  
障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。  
彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていききっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。  
私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカー7団体は、日本サッカー協会と連携し、サッカー界の発展のために取り組みます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

## 日本アンブティサッカー協会

アンブティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトスタンドクラッチで体を支えながらプレーします。

## 日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

## 日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

## 日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。

## 日本CPサッカー協会

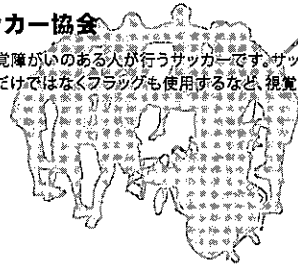
CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral(脳からの)Palsy(麻痺)の頭文字をとり、そう呼ばれています。

## 日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

## 日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

公式ユニフォームサプライヤー



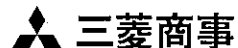
パートナー



支援団体



日本サッカー後援会





## JFL便り

奈良クラブ

<https://naraclub.jp/>



## 新拠点を軸にサッカークラブが描くまちづくり

奈良クラブ 広報・営業担当 木田 奈都子

奈良クラブは日本フットボールリーグ（JFL）8年目となるシーズンを迎えた今年、クラブスローガンを「共創」に、ビジョンを「サッカーを通じて、奈良の未来を共に創る」と改めスタートしました。

「共創」は2016年に「みんなで創りあげるクラブ」をイメージして、当時の選手たちが考案した言葉です。当時の思いを踏襲しつつ、奈良の地域の一員として、サッカー、スポーツを通じて、市民、県民の皆さまとより良い奈良を共に創っていくことを目標に日々活動しています。

2023年1月にはトップチームの練習場・クラブハウスやユースの寮・合宿所を完備した新拠点が誕生する予定で、クラブはJリーグ昇格に向けニューチャプターに入ろうとモチベーションを高めています。この新拠点のコンセプトは、①奈良クラブが考える地域貢献を実現する場所とする、②地域交流の拠点、3世代の社交場とする、③産官学金連携でのスポーツリズムを活用した地方創生事例として広げていく、の三つです。

具体的には、子どもから高齢者までの地域の人々に向けたイベントやスポーツ教室の実施、地産の農産物などの販売、寮・食堂を利用し、地域の皆さまがサッカーのみならずいつでも気軽に立ち寄れる「社交場」となること。そのほかジュニアの大会を招致し、県外から訪れた選手や観戦者による地域観光の活性化や災害時の避難場所、食料備蓄の場所としての役割も果たし、地域住民の皆さまの生活に溶け込んでいけたらと思っています。

トップチームは、「サッカーサービス バルセロナ社」との提携によってスペインから招聘したフリアン監督体制2シーズン目です。トップからアカデミーまで一貫した指導メソッドの下、この新拠点では下部カテゴリーにて県内外からの選手（中学生・高校生）を受け入れる予定で、トップチームの選手が利用するクラブハウスと食堂などを共有することにより、プロで活躍している選手との交流を促進し、育成年代の選手たちのマインドセット、プロ意識醸成を促すことも目指しています。

これらプロジェクトに加え、今シーズンより県内すべての市町村で地域住民の皆さまと交流を図りながら、全力でまちづくり・まちおこしに寄与していく「39市町村応援プロジェクト」を始動させました。地元の農業や基幹産業である林業、名産品のPRや、昨今の新型コロナウイルス禍での貧困問題に向き合うなど、選手自ら考案した企画も多く、クラブから地域に働きかけ、地域の皆さまと「まちづくり」を進めていけたらと考えています。



39市町村応援プロジェクトでは奈良クラブ農園を開園

## JFL便り

FC大阪

<https://fc-osaka.com/>



## 社会の成長と発展の原動力に

FC大阪 広報室 室長 奥村 忠功

FC大阪は「Challenging for the J-League」をチームビジョンに掲げ、大阪から3番目のJリーグ入りを目指しているサッカークラブです。大阪府東大阪市をホームタウンとして、2020年2月にJリーグ百年構想クラブに承認され、昨年9月にはクラブ事務所を東大阪市内へ完全移転。さらなる地元密着を進めています。

日本フットボールリーグ（JFL）には2015年から参戦し、今年で8年目のシーズンを迎えました。6月19日（日）には、クラブとして初めて、またサッカーの試合としては23年ぶりに東大阪市内花園ラグビー場 第1グラウンドで試合を開催し、ホームタウン東大阪市でのチームの認知も着実に進んできています。今年こそJ3昇格を果たし、長年応援し続けてくださっているファン・サポーターの皆さま、支援してくださっているパートナーの皆さま、ホームタウンの皆さま、そしてFC大阪に関わる皆さまに喜んでいただけるよう、クラブ・チーム一丸となって戦ってまいります。

FC大阪は「大阪を世界へ」「社会課題解決への取り組み」「地域力向上に向けて」の三つをクラブミッションに掲げ、地域の皆さまとさまざまな取り組みを行っています。現在は、大阪府をはじめ、ホームタウンである東大阪市のほか、守口市、富田林市、阪南市、門真市、太子町、熊取町、千早赤阪村と包括連携協定を締結し、スポーツを通じたまちづくりや、地域の魅力や情報の発信といったさまざまな分野で連携を進めています。

また、「OSAKA KOUMIN Action Platform」での公民連携の取り組みや、「Well-Being OSAKA Lab」「OSAKAゼロカーボンファウンデーション」などSDGsに関する取り組み、2025年に開催される「大阪・関西万博」の共創パートナーとしても活動しています。

このように、FC大阪はサッカークラブの枠にとどまらず、地域に貢献するためにさまざまな物事をつなぐコンテンツとしての役割や、地域発展の新たな取り組みをクリエイティブする結節点・発信地の役割を担っていくことを目指し、さらに活動を広げ、社会の成長と発展の原動力となるように引き続き努力してまいります。



今シーズンもチーム一丸となり、Jリーグ参入を目指し戦っている



## なでしこリーグ便り

吉備国際大学Charme岡山高梁  
<https://www.charmefc.jp/>



### シャルムスタジアム

吉備国際大学Charme岡山高梁 GKコーチ 西端 優輝

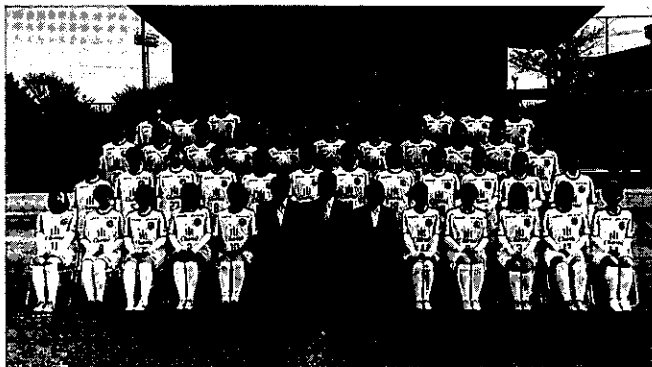
吉備国際大学Charme岡山高梁は、その名の通り岡山県高梁市をホームタウンとするチームです。高梁市は岡山県の中西部に位置し、人口約28,500人の市です。そんな備前松山藩の城下町である高梁市の神原スポーツ公園の中に、われらがホームスタジアムの「シャルムスタジアム」があります。

なでしこリーグでは一定の基準を満たすスタジアムを持つことが条件としてあります。しかし、それに合ったスタジアムが高梁市にはなかったため、2013年の1部昇格の際に、津山、笠岡、シティライトスタジアムといった別の市にある競技場に約1時間30分かけて移動し、活動していました。そんな中、市長をはじめとしたシャルム関係者の方から高梁市で試合をしてほしいという声が上がリ、署名運動が始まりました。そして多くの方のご尽力により、2018年に神原スポーツ公園多目的グラウンドが改修され、現在の形が完成しました。

その時に市民の方に募集して決まった愛称が「シャルムスタジアム」です。スタジアムの愛称にCharme(シャルム)のチーム名が入ることはとてもありがたく、光栄です。さらに、シャルムスタジアムでは支えてくださる企業のバナーが毎試合、掲示されます。私はクラブに勤める以前から対戦チームとして何度もシャルムスタジアムを訪れていますが、その時から多くの企業バナーと選手バナーが掲示されていることに驚いていました。愛称を「シャルムスタジアム」にしたいと応募してくださった市民の方、応援して下さる企業の方の支えにより、日々活動できていることに感謝の思いでいっぱいです。

私は実際にCharmeの一員として戦っていますが、毎試合スタジアムを見るたびに、素晴らしい環境でサッカーをさせていただいていること、Charmeに関わっている多くの方の思いや努力が表現された場所であると実感しています。だからこそ、選手には全力を出させてあげたい、このスタジアムで勝ちたいという思いがとても強いです。

試合ではアカデミーの選手もボールパーソンなどのお手伝いをしてきています。他にも、試合の日スクールをこのシャルムスタジアムで行うこともあります。そうした育成年代の選手たちが試合を見て、Charmeの選手としてこのシャルムスタジアムで活躍したいと思えるよう、これからも精いっぱい、良い結果が出せるように尽力していきます。



今シーズンもひたむきなプレーを見せ、シャルムスタジアムで共に喜びを分かち合いたい

## なでしこリーグ便り

スフィーダ世田谷FC  
<http://www.sfida.or.jp/>



### スフィーダ世田谷FCの取り組みは 地方創生に寄与できるか

特定非営利活動法人スフィーダ 理事長 稲田 能彦

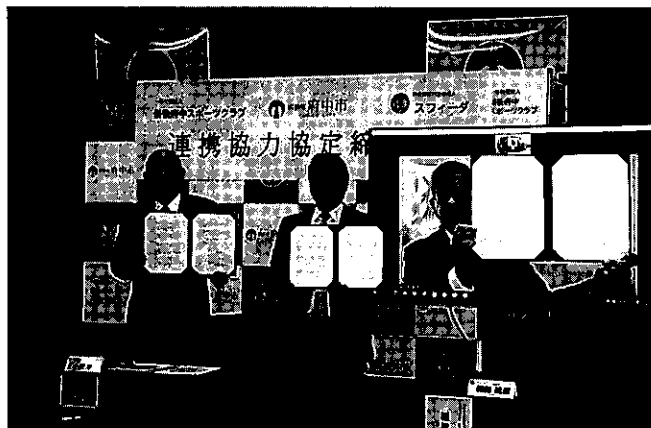
スフィーダ世田谷FCの特徴は、小学校を卒業してサッカーを続けたいという中学1年生の女子たちが集まった、どこにでもあるまちクラブからスタートし、現在は、トップチームがアマチュアの最高峰である「なでしこリーグ1部」に所属している、女性にこだわった市民クラブであるということです。

トップチームを核として、アカデミーは小学生のスクールから中学生のジュニアユース、高校生のユースまで整備。ママさんチームを合わせると総勢180人ほどが活動しており、まさに生涯にわたって女性がサッカーに関わることでできるクラブになっています。このような一貫したものがあれば「夢は地元で叶えられる」が可能になります。

また、老若男女が世代・性別を超えてプレーできるウォーキングサッカーの活動やパラスポーツとしてのブラインドサッカーチーム活動など、地域の健康づくりや多様性に対応した活動も展開しています。

今年2月、このモデルを踏まえて、広島県府中市、一般社団法人備後府中スポーツクラブと共に三者連携協定を締結しました。これにより新たに「スフィーダ備後府中FC」が設立され、女子サッカーをはじめとするスポーツを通じての、地域のにぎわいづくりや市民の健康増進、子どもの健全育成など、広島県府中市(備後地域)のまちづくりに関して取り組むことになりました。地域の少女たちがその夢を地域のクラブで叶えられるということで、地域課題である少子化や人口減少・流出、昨今盛んに叫ばれているSDGs目的達成への対応が期待されています。

このような取り組みを通じて、スフィーダ世田谷FCの一貫したスタイルが今後の女子サッカーの普及、ひいては地方創生の切り札になるのではと、引き続き活動していくつもりです。



2022年2月に広島県府中市、一般社団法人備後府中スポーツクラブとの連携協力に関する協定を締結



## 日本ビーチサッカー連盟便り

日本ビーチサッカー連盟  
<http://jbsf.or.jp/>



### ビーチサッカーとの出会い

AwaraHanks 森 向日葵

私のビーチサッカーとの出会いは、2019年に福井県で開催されたJFAビーチサッカー巡回クリニックです。小学生の頃からサッカーをやってきましたが、砂の上ではボールが全く転がらず、ドリブルもパスもできず、まともに走ることも難しく感じました。そして、初めて見るビーチサッカー日本代表選手のオーバーヘッドキックやボールを落とさずにゴールまで運ぶ技術に感銘を受け、自然とチャレンジする私がいきました。しかし、地元にはビーチサッカーができる環境がなかったため、ビーチサッカーへの思いも、プレーする機会もなくなってしまいました。

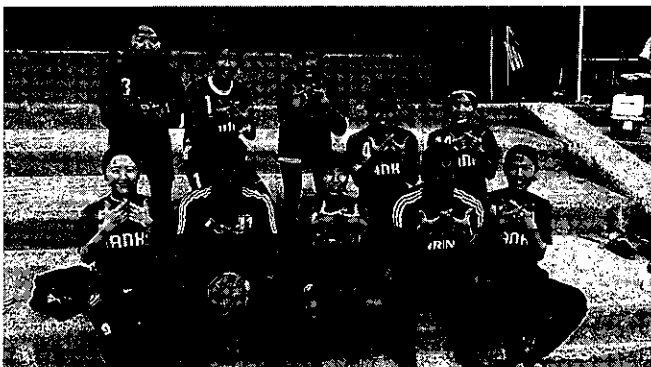
2年後、同じ北信越のビーチサッカーチームのマリシアータ長野と合流して、女子ビーチサッカー Thetisツアー（JBSF後援事業）へ参加する機会を得ました。ビーチサッカーとの突然の再会で、忘れていたビーチサッカーへの熱い思いがよみがえりました。

初めてビーチピッチに入った時の試合の雰囲気は、今でも覚えています。サッカーやフットサルとはルールも雰囲気も違い、最初は戸惑うこともたくさんありましたが、やっていくうちに不安なども忘れ、大会が終わるころには行ってよかった、楽しかったという、ビーチサッカーの難しさより楽しさの方が圧倒的に勝っていました。

そして今年4月には、高円宮記念JFA夢フィールドのピッチ・カリオカで行われたクリニックや女子選抜チーム対抗戦にも参加させていただきました。全国から集った選手たちの個々の能力の高さなどに驚きながらも、とても良い経験をすることができました。全国から集った選手たちの個々の能力の高さなどに驚きながらも、とても良い経験をすることができました。

私は今、フットサルとビーチサッカーを並行してプレーしています。環境の違いなどはありますが、浮いたボールの処理などの技術や、フィジカルなど、フットサルにもビーチサッカーにも共通したスキルを磨き、どちらか一つではなく共にenjoyしていきたいです。

福井ではビーチサッカーを気軽にできる環境がありません。まだまだビーチサッカーって何？どうやってやるの？と思う人がいる中で、私たちが楽しむことにより、こんなスポーツもあると発信したい。そして地元の福井にも必ずビーチサッカーを根付かせ、私個人としてもレベルアップすることで、私をビーチサッカーに出会わせてくれた皆さんや、快く両立させてくれているHanksのみんなに恩返ししたいと思います。



ビーチサッカーとの出会い、そしてビーチサッカーに携わる方たちとの出会いに感謝を込めて

## 日本フットサル連盟便り

日本フットサル連盟  
<http://www.jff-futsal.or.jp/>



### 北海道発=女子フットサルの未来を考える

一般社団法人北海道フットサル連盟 女子委員長 荃津 都

女子フットサルに特化した活動を始めて16年になりますが、当初から懸念されていたのは女子サッカーとの関係でした。北海道のサッカーチームは外で活動できる時期が限られているため、女子サッカーチームも同様に冬期間の練習として室内サッカーもしくはフットサルを取り入れています。しかし、大会は行われていてもフットサルを競技として捉えていないのが現状でした。

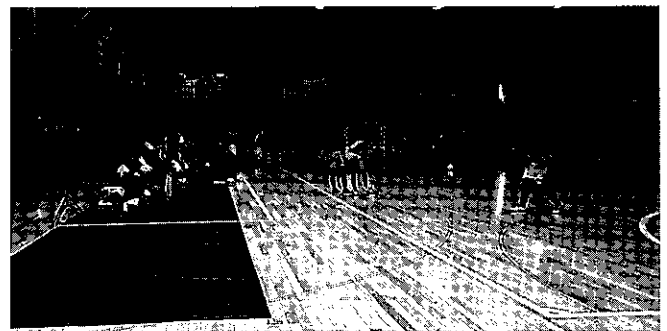
その状況下、16年前に1年を通じてフットサルを楽しむ初心者対象の「女子フットサルリーグ」が開催され、今に至ります。現在のリーグ戦活動としては、北海道女子フットサルリーグ1部(8チーム)・2部(6チーム)を筆頭に、北海道U-15女子フットサルリーグ、カレッジフットサル華リーグ(大学リーグ)、札幌フットサル連盟では、冬期間にエンジョイチームや女子サッカーチームを対象とした札幌フットサルリーグ女子の部を開催していますが、コロナ禍で予定通りの大会が行われず、歯がゆい状況が続いています。

昨年度からサッカーカレンダーを考慮し、JFA U-15女子サッカーリーグ北海道が終了する10月末より北海道U-15女子フットサルリーグを行うことで、1年を通じてU-15年代がしっかり活動できるよう動き出しました。今年度はU-18女子リーグの可能性についても検討していきたいと考えています。

3月に行った女子委員会では、次の3つについて札幌近郊を中心に活動計画を検討し、女子フットサルの未来に向けた指針を構想中です。

1. 女子普及活動について。エンジョイフットサル活動の充実として、初心者や(少年団の母等含)フットサルやサッカー OG選手が活動できる1DAY大会およびリーグ戦を検討。初心者でもフットサルを楽しめる環境づくりとチーム状況やレベルを考えながらのカテゴリーの策定。また、選手を引退する要因に結婚・出産等がありますが、子どもを連れて試合中には預けられる環境も必要と考え、専門の保育士等を大会で用意できるかなども検討する。
2. 女子育成活動(少女~大学生年代)については、1DAY大会・リーグ戦の開催等年代を考えながらのフットサルとしての取り組みや、大学生はサークルを中心とした審判講習会や運営も関わりながら、指導者の少ないチームが多いことから実技講習会も行える環境をつくる。
3. サッカーから離れたU-13年代や初心者に向けてのクリニック活動を技術委員会に協力をいただき、技術力の底上げを目指す。

現在、フットサルチームの大半が札幌近郊に集中しています。今後は広い北海道の各地区のフットサル連盟と連携し、女子フットサルの現状を掌握しながら女子フットサルの未来を考えていきたいと思えます。



北海道U-15女子フットサルリーグ試合前の様子

## 日本クラブユースサッカー連盟便り

日本クラブユースサッカー連盟  
<https://www.jcy.jp/>



### 四国クラブユースサッカー連盟について

四国クラブユースサッカー連盟 理事長 木岡 正興

四国は4県(香川県、愛媛県、徳島県、高知県)で加盟クラブが、U-18が4クラブ、U-15が35クラブ、U-18女子が5クラブと、まだまだ他と比べて少ない地域です。

しかしながら、各県まで2~3時間ほどでの移動が可能という利便性を生かし、U-15では現在、2月開催の四国クラブユースサッカー新人大会(U-15)、5月に行われている日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会四国大会はそれぞれの県では予選を開催しておらず、全て四国予選からの開催となっています。そのため四国全域での交流が可能となり、さまざまなチームから刺激を受けることで四国全体の底上げとレベルアップを図っています。

2022年の日本クラブユースサッカー選手権大会四国大会も、5月14日に開幕したU-18は4チームによるリーグ方式で行われ、徳島ヴォルティスユースが優勝。今年7月から8月に群馬県で開催される第46回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会への出場権を獲得しました。また、U-15は5月7日に予選リーグが開幕し、その後のノックアウト方式で7月10日に優勝チームが決定します。

新型コロナウイルス感染拡大も予断を許さない状況ですが、感染拡大防止対策を講じながら、各会場で熱戦が繰り広げられています。

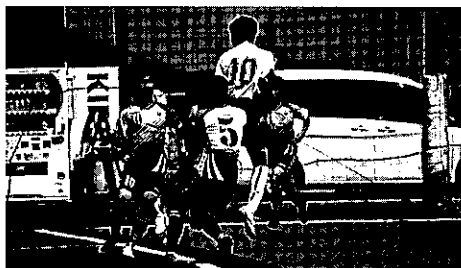
U-15では一昨年のコロナ禍での大会の減少に伴い、急ぎよ中学3年生を主体とした大会を11月に開催した経緯から、今年度からはこれを公式大会として創設しました。

これは、今まで冬季の大会がU-15年代になく公式戦が終了していく時期に大会を開き、高校生年代に向けてモチベーションを保つことを目的としています。選手が受験勉強などで一時的にサッカーから離れてしまうことを防ぎ、少しでも目標を持って練習に取り組めるようになればよいと考えています。

コンパクトな連盟ですが、その分まともにも良く、今後もさまざまな活動を企画、運営し、四国全体のレベルアップにつなげていきたいと思っています。



写真は今年開催された第37回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会四国大会、予選リーグでの試合の様相



## 日本障がい者サッカー連盟便り

一般社団法人日本ろう者サッカー協会  
<https://jdfa.jp/>



### 第24回夏季デフリンピック競技大会(ブラジル)

一般社団法人日本ろう者サッカー協会 専務理事 浜津 哲也

第24回夏季デフリンピックが5月1日~15日にブラジル(カシアス・ド・スル)で開催され、デフサッカー女子日本代表が参加しました。コロナ禍の影響もあり、参加国は日本、ブラジル、アメリカ、ポーランド、ケニアの5カ国。この5カ国で総当たりの予選リーグを戦い、上位2チームで決勝、3位と4位チームで3位決定戦が行われました。

日本の大事な初戦はケニア戦でした。事前の情報が全くなく、展開の読めない中での試合となりました。開始早々からケニアゴールに襲いかかり前半3分で杉本七海が先制点を奪うと、そこからは怒涛のゴールラッシュとなりました。前半を終えて7-0と大きくリードし、勢い止まらず結果は12-0と大勝で幸先の良いスタートを切りました。

続く2戦目はヨーロッパの強豪国ポーランドと対戦。この試合でも杉本が先制ゴールを奪いましたが、ポーランドに1点を返され、試合は一進一退の攻防が繰り広げられました。結果は2-5と惜しくも敗戦となりました。

3戦目の相手は、これまでの全ての大会で優勝しているアメリカとの一戦になりました。今大会でも優勝候補の筆頭に挙げられているアメリカに対し、日本は序盤から堅い守りで失点を許しません。前半を0-0で終え、作戦通りの試合運びができました。後半も出だしは守備を固めて我慢の展開となりましたが、途中スイッチを入れ替え攻撃に転じます。アメリカも慌てる様子を見せ、日本の戦術がはまった試合展開となりました。しかし、アメリカも王者の意地を見せて日本ゴールに迫ります。日本は残り時間わずかかのところでミドルシュートを決められ、0-1で試合終了となりました。

悔しい敗戦となりましたが、日本が世界と戦えることを証明できた試合でもありました。

迎えた予選リーグ最終戦はブラジル戦で、これまでの戦績は五角でした。しかし、ここで日本代表にアクシデントが発生しました。日本代表選手団の中でコロナ陽性者が出て、全種目の棄権が決定しました。志半ばでの棄権となり、悔しさやもどかしさもありましたが、選手たちから応援いただいた方々へのメッセージの中には「これからの人生の糧にしていきたい」と力強い言葉がありました。

今後のデフサッカー女子日本代表の活躍にぜひご期待ください。



第24回夏季デフリンピック予選リーグ3戦目・アメリカ戦での集合写真

さらに鹿児島県サッカーを  
盛り上げていけるように

各都道府県サッカー協会(FA)で配置が進む技術担当専任者「FAコーチ」。その活動にスポットを当てた連載企画第6回は、鹿児島県サッカー協会の大久保毅FAコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日:2022年5月25日

種別の垣根を越えた  
つながりが強固

—鹿児島県サッカー協会でのご自身のこれまでの活動、またFAコーチに就任された経緯を教えてください。

**大久保** 15年以上前に鹿児島県内のタウンクラブで指導していたときから、C級やD級などの指導者養成に携わってきました。2008年からV・ファーレン長崎で指導することになって少し離れたのですが、10年に鹿児島県に戻り、その後鹿児島ユナイテッドFCのトップチーム監督を経て、アカデミーに所属することになって再びインストラクターとして指導者養成に関わりました。その後、当時の日本サッカー協会(JFA)で技術委員長などを務めていた山口隆文さんからお話をいただき、16年

から18年まで鹿児島U・18の監督とアカデミーダイレクターを兼任しながら、鹿児島県FAで技術担当専任者を務めました。「FAコーチ」という名称で全国的に配置される前から先行して活動していたことになりました。最初は所属チームの活動に割く時間が長かったのですが、1、2年が経過して仕事の比重が変わっていき、19年からは専任のFAコーチとなりました。

—あらためて専任で活動するメリットをどのように感じられていますか。

**大久保** 指導者養成であれば、関わる皆さんが仕事をしながらインストラクターをされているため、どうしてもコース数の確保が難しかったり、開催する時間帯が合わなかったりしましたが、私が専任となり、受講者のニーズに合ったコースを開催できるようになりました。鹿児島県ならではかもしれませんが、指導者養成やトレセン活動で離島に足を運びやすくなったのもメリットだと思います。

—FAコーチとして活動される中で、鹿児島県サッカーの強みに感じられる部分は？

**大久保** オープンマインドな人が

多いので、種別の垣根を越えたつながりは強固だと思います。私がFAコーチになる前から月に一度は各種別の技術委員長やユースダイレクターが集まってミーティングをしていますし、トレセンも各種別が連携できています。課題としては指導者などFAに関わる女性の数を増やし、会議体などにも参加しやすい環境にしていかなければなりません。

—鹿児島県FAとして目指していることを教えてください。

**大久保** まずは、キッズからシニアまで、また女子も含めてサッカーを楽しむ人たちが、スポーツを通じて幸せになれる環境をつくりたいというのが大きな目標です。

—その中で、強化の面では県内のJクラブはもちろん、国民体育大会(国体)の少年男子チームを含めたトレセン活動をもっと充実させて、世界や日本代表で活躍できる選手を輩出していきたい。近年は「強い鹿児島を復活させる」をテーマに掲げています。今までは遠藤保仁選手(ジュビロ磐田)や大迫勇也選手(ヴィッセル神戸)など日本代表として活躍する鹿児島出身の選手も多かったのですが、だんだん減ってきているので数を増やしていきたい。その一環として、2020年に予定されていた鹿児島国体に向けて、少年男子のターゲットエイジに対してさまざまな施策を講じてきました。それが、世代別代表に選ばれている神村学園高等部の福田師王選手や大迫勇選手などです。今後もそうした活動を積み重ねていき、彼らに続く選手を増やしていきたいですね。

大事なのは  
各現場に足を運ぶこと

—FAコーチとして選手育成から指導者養成までさまざまな仕事があると思います。

**大久保** トレセンや指導者養成、トレセンスタッフへの指導、そして女子や部活動へのアプローチ、暴力・暴言の根絶、普及やキッズの取り組みなど仕事は多岐にわたります。そこで技術委員長とも相談して優先順位をつけて活動しています。

—現在メインとなるのは、指導者養成です。私がFAコーチに就く前は、C級コーチ養成講習会は年に1〜2コースほど、もっと開催してほしいという声もありました。今では年間5〜6コースを開催しています。先ほど離島の話をしていましたが、そこでの要望も多かったのですが、奄美大島や喜界島などでC級



鹿児島県FAで活動する大久保FAコーチ

講習会を開催しました。小さい島になると受講者は10人ほどですが、実技では地元の高校生を交えて取り組んでいます。B級コーチ養成講習会のFAコースは17年からスタートし、B級取得者も増えました。それに伴い、トレセンにレベルの高い指導者を配置できるようになったのは成果だと思っています。

——多くの指導者を養成し、選手育成につなげる良い流れができている印象です。

**大久保** JFAが進めるトレセン認定制度の基準を満たすための働き掛けも続けてきました。そこには高いレベルの指導者ライセンスを持つ人が必要になるので、やは

り指導者養成が鍵となります。トレセン認定制度については、男子の県トレセンは全ての年代で、また地区トレセンもほぼ全て認定されました。県全体でトレセン活動が活発に行われていることで、将来有望な選手の情報共有なども図れています。

また以前、鹿児島県FAのユースダイレクターが指導者研修でベリーグーに行った際、早生まれの選手を見落とさない取り組みがあったと聞き、同様の活動も始めました。県トレセンに選ばれていない9月生まれ以降の中学生を集め、月に一度活動しています。

——暴力・暴言の根絶にも力を入れていると聞きました。

**大久保** 鹿児島県FAのビジョンの一つとして、フェアプレーやリスペクトの精神を持つことを掲げています。まず指導者養成コースが増えたことにより、暴力・暴言の根絶に関して発信する機会が増えていることは良いことだと考えています。

以前からマッチ・ウェルフェアオフィサーを養成していますが、試合だけでなくチームでの暴力・暴言を根絶しなければなりません。現在はチームに1人はクラブ・ウェルフェアオフィサーを配置できるよ

うに講習会を開催し、全種別の全チームに参加を呼び掛けています。今後は保護者へのアプローチも考えていきたいと思っています。

暴力・暴言はだいぶ減っていますが、スポーツの世界から完全になくなるのはまだ時間がかかります。指導者に暴言の認識はなくても、受け取る側はそうじゃないこともある。根気よく伝えていきます。

——課題として挙げている女子の取り組みについてはいかがでしょうか。

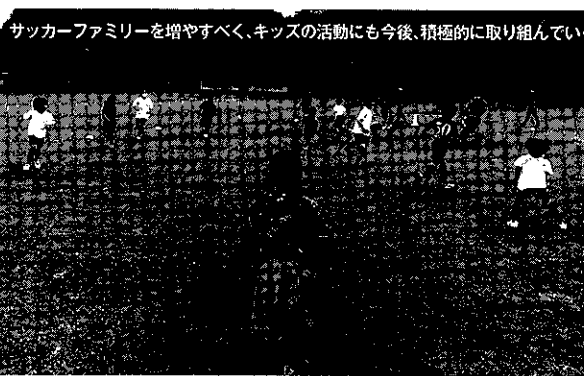
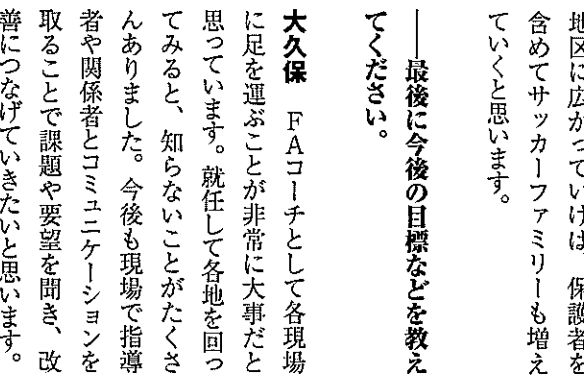
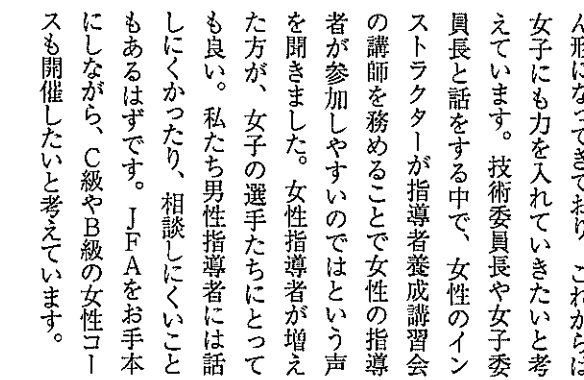
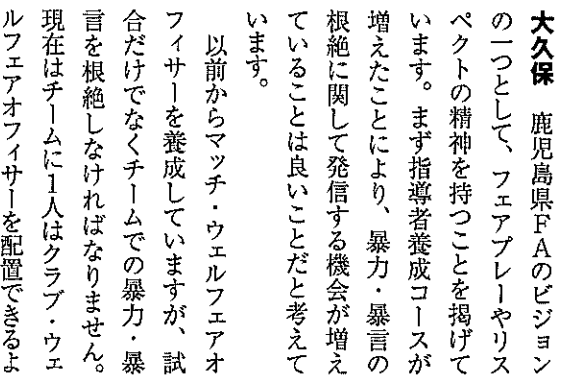
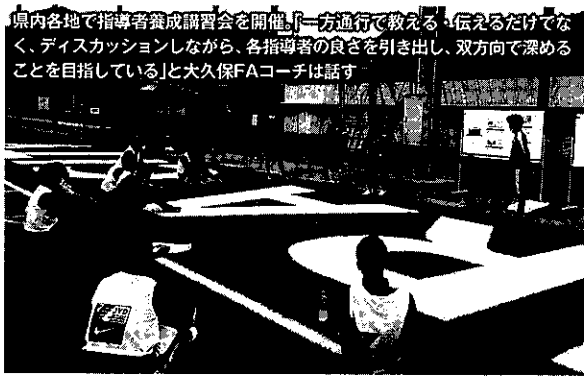
**大久保** これまで男子の優先順位が高かったのですが、男子のトレセンが整備されるなど近年はだんだん形になってきており、これからは女子にも力を入れていきたいと考えています。技術委員長や女子委員長と話をすることで、女性のインストラクターが指導者養成講習会の講師を務めることで女性の指導者が参加しやすいのではという声を聞きました。女性指導者が増えた方が、女子の選手たちにとって良い。私たち男性指導者には話しくかつたり、相談しにくいこともあるはずですが、JFAをお手本にしながら、C級やB級の女性コースも開催したいと考えています。

——キッズや普及に関してもお聞かせください。

**大久保** 先日のFAコーチ研修会でキッズインストラクターの資格を取得しました。まずはキッズリーグを養成することによって、キッズ年代との関わり方を伝えるとともに、スモールサイドゲームを浸透させていきたいと考えています。理想は、地域単位でキッズリーガー養成講習会を開催し、講習会を受けた翌日に、規模は小さくても構わないのでサッカーフェスティバルを企画する。そこで、前日の講習会で勉強したことを実践する場をつくっていききたいと考えています。まだチームに入っていない子どもも交えたオープンな取り組みが各地区に広がっていけば、保護者を含めてサッカーファミリーも増えていくと思います。

——最後に今後の目標などを教えてください。

**大久保** FAコーチとして各現場に足を運ぶことが非常に大事だと思っています。就任して各地を回ってみると、知らないことがたくさんありました。今後も現場で指導者や関係者とコミュニケーションを取ることで課題や要望を聞き、改善につなげていきたいと思っています。



そして、鹿児島県から日本代表として世界で活躍する選手を育てていきたいですね。FIFAワールドカップで鹿児島出身の選手が一人でも多くピッチに立つ、また各カテゴリーの日本代表に選手を送り出す環境を、みんなで一緒につくりたいと思います。そのためにも、地元Jクラブが強くなることも大事です。トレセン活動や指導者養成もますます充実させていきたい。そして女子やキッズ・普及の活性化、暴力・暴言の根絶にもしっかりと取り組みたいと思います。サッカー熱はもともとある土地柄ですので、さらに鹿児島県サッカーを盛り上げていけるように頑張っていきます。

隔月連載

# 日本サッカー タイムスリップ

1921年に誕生した日本サッカー協会(JFA)は、2021年9月に創立100周年を迎えた。

本連載では、JFA各種事業や日本サッカーの歩みを振り返っていく。

第23回は引き続きFIFAワールドカップをテーマにお届けする。

※本連載は隔月での連載になります

自国開催となった2002年ワールドカップ。グループステージ初戦のベルギー戦で2点目を挙げた稲本潤一(中央)は続くロシア戦でも得点し、日本にワールドカップ初勝利をもたらした



日本代表へと選手の融合はスムーズにできた。特にトルシエ監督は「フラットスリー」と自ら称した独特の戦術をチームづくりの土台としたため、そこに適合する選手を自ら選ぶことができた。

99年ワールドユース(ナイジェリア)では準優勝の快挙を遂げ、シドニーオリンピック出場も果たして本大会ではベスト8入り、そして2000年に日本代表が臨んだAFCアジアカップ(レバノン)では、中田英寿(ASローマ/イタリア)ら海外でプレーする選手たちをほとんど招集しない中、全試合で主導権を握り、圧倒的な強さで優勝を果たした。

こうした実績を積み上げることと、トルシエは3年目以降の契約も更新して本大会に臨むことになる。01年に韓国と共同で開催したFIFAコンフェデレーションズカップでも日本代表は決勝に進み、フランスに敗れたものの、準優勝の結果に本大会への期待は大きく膨らんだ。

迎えた02年の本大会では、ベルギーとの初戦で接戦を展開して2-2で引き分け、日本はワールドカップで初の勝ち点1をつかんだ。続くロシア戦は稲本潤一のゴールで1-0と初勝利を挙げ

## 「開催国として臨みグループステージを突破」 FIFAワールドカップへの挑戦(3)

文 国吉好弘(サッカージャーナリスト)

悲願のワールドカップ初出場を果たした1998年のフランス大会を終え、続く2002年大会は日本と韓国での共同開催が決まっており、日本は予選を戦うことなく本大会の出場権を獲得していた。フランス大会では3戦全敗に終わったもののアジア予選を突破した岡田武史監督の留任は検討されたが、本人が退く意思を固めていたため、日本サッカー協会(JFA)は後任を探さなければならなかった。

当初はJリーグの名古屋グラ

トルシエは、日本ではほとんど知られていないが、フランス大会

では南アフリカを率いるなど、フリカを中心に手腕を発揮し、代表チームでも実績を残していた。JFAは本大会を見据え、そこに加わってこるであろう2000年のシドニーオリンピックを目指すU-23日本代表の指揮も任せ

た。さらに99年のFIFAワールドユース選手権(現、FIFA U-20ワールドカップ)への出場を決めていたU-20日本代表も、前任の清雲栄純監督が辞任したことからトルシエ監督が3世代の代表チームを指揮することになった。

ステージはタイトながら、それぞれ同じコンセプトでチームづくりが進められ、若い世代から

横浜国際総合競技場で行われた決勝はブラジルとドイツの初対戦となり、ロナウドの活躍などでブラジルが5度目の優勝を飾って終了。大会は全日程を通じて総計270万5197人、1試合平均4万2269人の観客を集め、日本対ロシアの66.1%を筆頭に高いテレビ視聴率を記録して成功裏に終わった。日本代表の好成績とともに日本全体にワールドカップへの認識を大きく高めた大会だった。

# フットサル 語り場



日本サッカー協会(JFA)は、フットサル日本代表が2036年までにFIFAフットサルワールドカップで世界一になることを目標に掲げている。

本連載では、フットサルの代表強化、選手育成、指導者養成、普及をそれぞれ統括するダイレクターおよび各カテゴリーの代表監督が登場し、リレー形式で情報をお届けする。

**前川義信** JFAフットサル指導者養成ダイレクター

## まだ先の話ではなく 2036年は今

### 求めるは双方向の コミュニケーション

日本サッカー協会(JFA)フットサル委員会は代表強化、選手育成、指導者養成、普及の4部門にそれぞれダイレクターを配置しました。指導者は代表強化、選手育成、普及の全てに関与しますので、その養成は極めて重要になります。

日本のフットサル指導者ライセンス制度は2008年にスタートし、現在、フットサルC級からA級、フットサルGKコーチライセンスを設けています。今後はフットサルS級ライセンスを導入してピラミッドの頂点を引き上げるとともに、フットサルの指導経験がなくてもライセンスを取得できる体制を整える、それが私の役割の一つです。

現在は、フットサルの指導教本のカリキュラムをリニューアルしようと準備しています。日本が世界と互角に戦えるようになるために、また、日本でフットサルが広く認識されて、多くの人に親んでもらえるようになるために、まずは2023年を目処に全てのライセンスの教本を改定することにしていきます。現在、小西鉄平、小森隆弘両ダイレクター、木暮賢一郎フットサル日本代表監督らも加わり、活発に意見交換しています。

私は「指導者の養成」にあたるインストラクターを統括し、彼らを養成する役割も担っています。ここで重要なのが、この先、世界のトレンドとなるであろう戦い方や傾向を予測し、それを指導者に伝えるインストラクターを育てること。5年先、10年先を見越して指導者養成講習会の内容を考えることが不可欠です。私自身がインストラクターを務めることもあります。そのときは、選手ときちんと向き合い、主体的に行動し、試合での的確な指示を出せる指導者を育てることを意識しています。

インストラクターと指導者に求めるのは、双方向のコミュニケーションを図ることです。受講者の皆さんは、チームに戻ると自己フィードバックをする時間がなかなか持てません。練習を映像で撮っていれば、自分の考えた練習がうまくいったかどうかを振り返ることはできますが、選手がその練習をどう感じたか、何を学んだかは選手と話さなければ分かりません。

指導者養成講習会でも一方的にノウハウを伝えるのではなく、講義や実技で何を学んだか、何が大事だと感じたのか

を、インストラクターと指導者が双方向にやり取りすることが重要です。これが自然とできるようになれば、受講者(指導者)がチームに戻ったとき、選手のファシリテーター役になって意見を求めるようになり、疑問も解消されるはずですよ。



インストラクターと指導者が双方向のやり取りをすることが、その後の指導者と選手たちとのコミュニケーションにつながる



前川義信  
JFAフットサル指導者  
養成ダイレクター

### あらゆる知見を基に 歩むべき道を探る

世界のフットサルは、戦術もプレーする選手も急ピッチで進化しています。監督の指導法も発展しているため、常にアンテナを張ってその情報をアップデートし、自分たちに必要なものを取捨選択するための「耳」と「目」が必要です。

幸い、われわれには心強い仲間がたくさんいます。現在フットサルスペイン代表を率いるフェデ・ビダル監督もその一人。2007年に木暮監督(当時は選手)を介して出会って以来、本当に多くのことを教わってきました。そのほか、海外視察のときは訪問先のチームの指導者から、世界最先端のフットサルは何か、それがこの先どう変わっていくかの知見をもらい、自分たちが歩むべき道を探っています。

私たちは、2036年のFIFAフットサルワールドカップで優勝したい。その目標に近づくには、現時点で10歳前後の子どもをどのように育てていくかがキーファクターになります。優秀な指導者を一人でも多く輩出する必要があるのは言うまでもありませんし、指導者養成のためのカリキュラム改定も早急に実現すべき項目の一つです。36年はまだまだ先の話ではなく、今取り組まなければそこにコミットできないと肝に銘じながら、今後の活動に臨みます。

## 思考が上達の鍵

歩いている途中で息苦しくなり、マスクを外すことが多くなりました。気温や湿度の上昇で、季節が変わってきたと感じます。同時に「待てよ、自分の体が衰えてきているのか」といった思いも頭をよぎりました。

当たり前だと思っていることを少し疑ってみることは大切です。同じような環境で経験を積み重ねていると、物事の判断が偏ってきます。心理学で「認知的バイアス」と言われる現象です。例えば「確認バイアス」は、自分にとって都合の良い情報ばかりを無意識に集めてしまう傾向のことをいいます。ある選手の評価を自分の中で決めてしまおうと、その評価に沿った情報だけに注意が向いてしまい、結果、一度決めた評価が自分にとって間違いのないものになるのです。良い評価であればいいのですが、悪い評価の場合は少し問題があります。指導者からの評価がなかなか変わらないことに不満を感じる選手は多くいるからです。

できないことをできるようにするために、そして、より正確に、より早くできるようになるために選手は練習をします。しかし、練習に集まってくる子どもたちにはそれぞれ個性があり、状態(レベル)もさまざまです。それは指導者の皆さんも十分に理解しているはずですが、それにもかかわらず、選手の今の状態を見て、彼らの能力を安易に評価し、「上手」「下手」や「才能あり、

なし」といった単純なレッテルを貼ってはいないでしょうか。正直、私自身は最初の印象である程度の見分けをしてしまっているように思います。だからこそ、できるだけ多様な観点を持って選手を観察するように心掛けています。選手の相対的評価が変わることにはある意味、健全であり、指導者の観察に偏りがなくことの表れです。

人は複雑な問題を解決する際、「経験則」「経験則的推測」「直感的判断」「常識」によって、より素早く判断したり、意思決定したりする傾向があります。「ヒューリスティクス」と呼ばれる思考法です。その対義語が「アルゴリズム(論理的思考)」です。

サッカー選手がゲーム中に行う判断や意思決定は、時間の制約があるため多くの場合がヒューリスティクスです。心理学者の石井辰典氏は「スポーツ選手はある場面でどんなプレーが良い結果につながったかについての精緻に構造化された記憶を有しているの」で、瞬時に質の良いプレーを選択、実行できる」といった仮説を検証する実験を行っています。その結果、最初の選択が2、3番目になされた選択よりも評価が高く、実験は仮説を支持したと報告しています。スポーツの場面で起こる問題を全てアルゴリズムで解決することはできないのです。

スポーツの指導者もゲーム中は常に瞬時の判断、意思決定が求められます。ですから、選手と同様にヒュー



隔月連載

# サッカー心育論 Vol.74

～指導者は何を考えるべきか～

中山 雅雄 (JFA技術委員会普及部会部会長/JFA普及ダイレクター/JFAキッズプロジェクトメンバー/筑波大学体育系教授)

リストイクスは有効な思考法だと思えます。選手交代の判断、戦術的な指示は指導者の重要な決断場面です。注意すべきは、そこには一定の偏りを含んでいることです。その自覚なしに、単に経験や勘に頼ってはいけません。常に自分の決断を振り返り、できるだけアルゴリズムで決断の正しさを評価した上で記憶し、整理する必要があります。

こうして考えると、サッカーを感覚だけでやっているのは上達しないことが分かります。技能が自動化され、余計なエネルギーを使わず、適切な判断をしながらプレーできるようにすることを目指す上で、多くの思考が必要となります。練習でも、選手には思考しながらプレーする機会が必要です。しかし、パスやドリブルなどのドリル練習で、反復することが目的になってはいないでしょうか。

4対2や5対3などのボールポゼッションでは、テンポ良くパスを回し、ボールを奪われなければ良い、とじていませんか。プレーの質や判断の質を意識しない練習が多くなっているのでしょうか。

ウォーミングアップから練習、そして最後のゲームまで、流れるように進む練習を見ることもあります。無駄がないなと感心することばかりです。ただ、指導者としてはその状況に満足してはいけません。もう少し課題の難度を上げて、選手たちが困る状況をつくる必要があります。練習の流れが悪くなり、無駄な時間を使っているように見えるかもしれませんが、この時間がブ

レーの質を高める鍵になるはずですが。何事においてもバランスです。適度なストレスは、選手にそれを乗り越えるためのチャンスを与えてくれます。その成功が自信につながります。もし失敗しても、重大なダメージを受けるほどのストレスでなければ大丈夫です。むしろ、チャレンジ精神を駆り立てるかもしれません。心理的ストレスの原因を解決しようとする行動が、チームや選手を成長させることを示唆する研究報告もあります。

FIFAワールドカップまで半年です。ドイツ、スペインとの戦いは楽しみです。これから多くのメディアでいろいろな観点からサムライブルーに関する情報が報道されると思います。数値やグラフを使って多様なデータを示したり、さまざまな人のコメントを紹介する記事は、サムライブルーやワールドカップへの関心を高めてくれます。ただ、少しへそ曲がりかも知れませんが、私自身は例示されるデータやコメントをヒューリスティクスに頼らず、少しだけ論理的に読み解きながら見識を広げていきたいと思っています。

引用文献  
石井辰典・夏原隆之・木橋日由男「スポーツにおけるTake The Firstヒューリスティックの有効性」サッカーにおけるパス選択場面を用いた検討」日本心理学会第79回大会(2019年9月)  
Takayuki NATSUHARA, Yuda ICHIKAWA, Masao NAKAYAMA, Characteristics of Psychological Stress Processes and Collective Efficacy in Response to Athlete-Athlete Relationship Stressors in Youth Soccer Players, Football Science 19, pp.28-37, 2022年





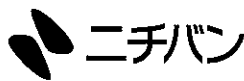
日本サッカーの発展のため、  
さらなる普及や次世代選手育成の促進を。

JFA Youth & Development Programme



OFFICIAL PARTNER

TOYOTA



molten®  
For the real game

TECHNICAL PARTNER

GREENPROJECT PARTNER

PHILIPS

東亜道路工業

FUJITA  
Daiwa House Group

JYD SUPPORTER

Deloitte.  
デロイト トーマツ

日本総研  
The Japan Research Institute, Limited

The Pokémon Company

あそびと教育



ボーンランド

JYD



サッカーという競技にはさまざまな驚きがあります。しかし女性の審判員である山下良美主審(36)がFIFAワールドカップカタール2022(11月21日〜12月18日)の審判員に選ばれたというニュース(5月19日)は、おそらく「10年に一度」クラスの驚きでした。

欧州では、UEFAチャンピオンズリーグやワールドカップ予選で堂々たるレフェリングを見せたフランスのステファニー・フラッパルト主審(彼女も今回のワールドカップに選ばれました)を筆頭にトップクラスの男性の試合で多くの女性審判員が活躍しています。

昨年2月にカタールで開催されたFIFAクラブワールドカップでは、エディナ・アウベス・バチスタ(ブラジル)主審と共に、ネウザ・バッキ(ブラジル)、マリアナ・テアルメイダ(アルゼンチン)の南米トリオが5位決定戦を担当して、女性審判員にも国際サッカー連盟(FIFA)主催の男性のトップクラスの大会を担当する十分な能力があることを実証し、今回のワールドカップの審判団に女性が入る可能性があることは予想されたことでした。それでも山下主審の選出は大きな驚きでした。

山下主審は大学生のときに

いつも心に

連載 Vol.110

大住良之  
(サッカージャーナリスト)

リスペクト

RESPECT  
大切に思うこと

## ある審判員の覚悟と決意

先輩に誘われて審判員の道に入り、2012年に「女子1級」、15年に国際審判員となりました。「女子1級」は日本独自の制度で、女子のトップクラスの主審を担当できる能力の認定です。そこからさらに高いレベルのフィジカルテストを突破し、19年には「1級」に認定されました。

日本で初めて女性で1級になったのは04年の大岩真由美さん、続いて09年の山岸佐知子さん(マチュア)のJFLで活動しました。山下主審は3人目でした。

山下主審は、FIFA U17女子ワールドカップ(18年)、FIFA女子ワールドカップ(19年)、東京オリンピック(21年)など、女性の世界的な大会で活躍しています。その一方で、19年にはアジアのクラブ大会の一つである「AFCカップ」で主審を務め、21年にはJリーグ(J3)、22年に「AFCチャンピオンズリーグ(ACL)」と、男性のプロトップレベルでの経験を積んできました。中でも今年4月に行われたACLのメルボルン・シテイ(オーストラリア)対全南ドラゴンズ(韓国)という重要な試合での審判ぶりは高く評価されました。

その一方で、日本国内では、こ

れまで担当した最高レベルの男性の試合がJ3であることも事実です。今後J2やJ1、そして天皇杯など、より高いレベルの試合でどんなレフェリングを見せるのか、みんなが注目しています。

何より大変なのは、今回のワールドカップに指名された日本人審判員が山下主審ただひとりだということです。これは大きなプレッシャーになるはず。

しかしFIFAによる発表の翌日、5月20日に行われたオンラインの緊急会見で山下主審の言葉を聞き、私は心から安心しました。選ばれたことの喜びを素直に語りながらも、すべての状況を理解し、大きな責任を負ったことに対する覚悟と強い決意が感じられたからです。

「最初は本当に驚きましたが、そこから幸せな気持ちとか、感謝の気持ちなどがどんどん湧き上がってきました」

「日本でも世界でも、さまざまな女性審判員が信頼を積み重ねてきたことがあるから、この機会が与えられたと思います。その信頼を壊してはいけないという責任は、本当に重く感じています」



FIFAワールドカップカタール2022の審判員に選出された山下良美主審(中央)。感謝と決意、覚悟を持ってワールドカップに臨む(写真は2021明治安田生命J3リーグより)

「私ができることは自分自身のベストを尽くすこと。ベストを尽くすことが私の責任だと思っています」

自分を審判の世界に引き込み、一から指導してくれた先輩をはじめとした多くの人々に対する感謝、そして日本と世界の

審判仲間に対する思い……。それはまさに「リスペクト」の精神に裏打ちされた言葉でした。

山下主審は他に仕事を持っていません。しかし審判に対する姿勢と努力、そして審判員としての意識と能力は、完全な「プロフェッショナル」のものなのです。

「特別企画」

野々村芳和Jリーグチエアマインインタビュー



# 熱量のある試合をもつ

選手時代は、ジェフユナイテッド市原、コンサドーレ札幌（共に当時）でキャプテンを務めた。引退後は、サッカースクールを展開する会社の社長に就任。その後、北海道コンサドーレ札幌の経営者としてリーダーシップを発揮した。今年、第6代Jリーグチエアマインに就任した野々村芳和氏（日本サッカー協会副会長）に展望を聞いた。

取材日：2022年5月23日

**地域の選手たちには  
憧れの存在であってほしい**

——Jリーグのチエアマインに就任されてから、およそ2カ月が経過しました。毎週のようにJリーグの試合会場へ視察に出向く中で、感じられていることを教えてください。

**野々村** これまであまり見えなかったものが見えてきました。北海道コンサドーレ札幌の社長として会場に行くときは、とにかくチームが勝つことに集中していましたから。もちろん、プレッシャーもあればストレスもありましたが、昨シーズンまでは自分たち以外の

ことに目を向けることがなかった。今は立場や状況、自分の意識も全く異なります。

——これまであまり見えなかったものとは何でしょうか。

**野々村** スタジアム周辺の雰囲気を含めて、全てです。スタジアムグルメを買いに行けば、ファン・サポーターと接する機会があります。話し掛けていただくこともあり、いろいろな話を聞くことができます。以前はファン・サポーターが感じていることを想像するだけでしたが、実際にコミュニケーションを取ることで、私が思っ

いたことの「答え合わせ」ができる。これは大きなプラスです。

最近、「声を出して応援したい」という声をよく聞きますし、コロナ禍前のように「ビッグフラッグの持ち込みを許可してほしい」という意見を受けることもあります。全ての要望に応えられるわけでは

ありませんが、現場の空気を肌で感じていきます。答え合わせができるのは、スタジアム周辺に限られません。試合が開催されるホームタウンでも大勢の人たちと話をすることがあります。地元メディアにあいさつに行けば、地域でのクラブの立ち位置、見え方、存在感がだいたに分かりますし、知事や市長を表

# と増やす



敬訪問すれば、そのクラブが置かれている現状や可能性を知ることできます。

——答え合わせをして、想像と違ったことはありませんか。

**野々村** 大きな違いはあまりありませんでしたが、私自身、選手として、社長として、主にJ1の舞台を見てきたので、J2やJ3で戦う成長途上のクラブの実情は詳しく把握していませんでした。例えば、い

わきFCのホーム開幕戦をJヴィレッジスタジアムで視察した時、入場者数は2743人と決して多くはなかったのですが、5000人規模の会場の半分以上が埋まり、熱量があつて「作品」としてはとても良かったのです。

——J3ではACC長野パルセイロ対松本山雅FCの「信州ダービー」にも足を運ばれたと聞きました。

**野々村** あの「作品」も素晴らしかった。ピッチで必死に戦う選手たちの気持ちがスタンドにいる私

たちにもひしひしと伝わってきた。以前から思っていたことですが、選手たちは、熱気あふれるスタジアムの中でプレーすればおのずと成長します。素晴らしい雰囲気をつくり出すファン・サポーターの皆さんには感謝しています。

実は信州ダービーの1カ月前に長野県を訪れて、メディア回りをしていたんです。県内のテレビ局を全て訪ね、クラブと一緒にプロモーションをしていました。その上で信州ダービーが盛り上がったことは、Jリーグとしても良かった。欲を言えば、長野県内のもっと多くの人たちに見てほしかったですね。さまざまな事情があるのは承知の上で言いますが、ローカルの地上波でも放送できるといいですよ。やはり、クラブの選手たちには、ホームタウンで地域の皆さんから憧れられる存在であってほしい。プロモーションはそれぞれの地域に合ったやり方があるので、Jリーグとしてもサポートしていきたいと思っています。



長野と松本による「信州ダービー」には1万3000人以上の観衆が詰めかけた。試合はスコアレスに終わったが、ピッチでの白熱した攻防により、スタジアムは熱気に包まれた

——地域でのプロモーション活動について、今考えて

いるイメージを教えてください。

**野々村** 5月に東京、静岡、福岡で打ったCMでは日本代表の選手をメインに起用したのですが、夏休みは地域限定のCMを流す予定です。その地域のクラブで活躍している選手を起用するなど、工夫したいと思っています。華やかなプロモーションが必ずしも全58クラブの集客に効果があるかといえば、そうではないので。札幌の社長を務めていた経験から、しっかりとカスタマイズしなければ地域の人々には響かないということをよく理解しているつもりですし、Jリーグとしてもそこに費用を掛けてサポートしていきたいです。

——野々村チェアマンは選手時代を含め、長年Jリーグに関わっています。チェアマンとして全国各地のスタジアムを訪れる中、最も変化を感じるころはどこでしょうか。

**野々村** 開幕から30年の歳月を経て、Jリーグそのものがどのような存在になりたいかを表現できるようになってきました。Jリーグは着実に成長しています。1993年に開幕した当初、一大ムーブメントを巻き起こして世の中に広く認

知されましたが、今はそれとはまた違います。当時は有名選手を追いかけるようなファンが多かったと思いますが、Jリーグが目指したのは、地域に根差すこと。クラブの周りにおいて幸せだと思える人たちをどれだけつくれるかどうかです。30年前に比べると、コアなサポーターが明らかに増えています。とはいえ、エンターテインメントとしては改善の余地があります。露出は以前に比べると減ってきていますし、限られた人しかJリーグの試合を観ることができない状況がいいのかどうか、しっかりと考えていく必要があります。

### アジア戦略を継続し いかに存在感を発揮するか

——札幌の社長時代、Jリーグに要望を出されたことはありますか。

**野々村** 当時、クラブとしてアジア戦略を進めたいと思っていたので、一つ提案したことがあります。Jリーグの提携国(タイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジア、シンガポール、インドネシア、マレーシア、カ

タール)の選手は外国籍選手の扱いではなく、日本人と同様にしてほしいというお願いです。Jリーグ

もアジア戦略を進めていたので、こちらの提案を受け入れてもらいました。

——Jリーグは現在も継続してアジア戦略を進めています。

**野々村** 必要な戦略です。コロナ禍の影響で、思うように進んでいない部分はありますが、力を入れていくべき分野であることに変わりはない。Jリーグ、ひいてはアジアサッカーの成長を考えても大事なプロジェクトです。例えば、札幌がタイ代表のチャナティップ選手(現川崎フロンターレ)を獲得して以来、タイ人選手が数人Jリーグでプレーしました。それにより、タイでのJリーグの認知度が上がり、人気も高まっています。現在はイギリスのプレミアリーグに次いで関心度の高いリーグになっていると聞いています。アジア戦略を継続してきたからこそ、今があると思っています。

——Jリーグでタイ人選手がプレーしていることが大きいのでしょうか。

**野々村** Jリーグに関心を持ってもらう入り口としては大きいと思いますが、これからはそれ以外の方

法でJリーグの価値を高めていく  
必要があります。先ほども少し触  
れたイングランドのプレミアリー  
グは、タイ人の選手がプレーしてい  
なくても、(タイで)一番の人気を  
誇っています。これはJリーグが  
プレミアリーグと同じ土俵に立っ  
て競うという意味ではありません  
よ。近い将来、Jリーグがアジアで、  
どういうプレゼンス(存在感)を発  
揮していくかが大事なのです。

### 前向きに変化できるよう みんなで考えていく

——今後のJリーグにおいて、コ  
ロナ禍の出口戦略も重要になってき  
ます。声出し応援の段階的な導入  
はその二つだと思えます。

**野々村** 声を出しての応援は、J  
リーグが絶対に取り戻さなければ  
ならないことであって、コロナ禍の  
出口戦略としての動きとは捉えて  
いません。現在、Jリーグは、最良  
の「作品」を提供しているとは言  
えません。ヨーロッパをはじめ、世  
界各地でサッカーのあるべき本来  
の姿が戻ってきている一方で、日本  
はまだそうではありません。日  
本政府のコロナ政策に準じて、J  
リーグとして努力をしていかなけ

ればなりません。サッカーには発  
信力があると思っています。サッ  
カー界から発信して次のステップ  
に進んでいく姿勢を表現したい半  
面、それによって日本におけるサッ  
カーの価値を落とすようなことが  
あってはならないので、状況やバラ  
ンスを考えながら進めていくつも  
りです。

——2023年からAFCチャン  
ピオンズリーグ(ACL)のシーズ  
ンが変更になり、秋の開幕になりま  
す。Jリーグでも長年、秋春制への  
シーズン見直し案が議論されてき  
ました。

**野々村** ACLのシーズンが正式  
に変更になったので、Jリーグも  
検討しなければならぬでしょ  
う。あらためて議論をスタートす  
るきっかけになります。個人的に  
はACLのシーズン変更如何にか  
かわらず、考えた方がいいと思っ  
ていました。今後、どのような形で話  
がまとまるかは別にして、日本サッ  
カーにとって議論することはプラ  
スになるはずですよ。ACLやヨー  
ロッパのシーズンにただ合わせる  
のではなく、例えば、これまで12月、  
1月、2月にサッカーの試合を観  
戦することができなかった地域で

も楽しめるようになるなど、日本  
サッカーにとってプラスになるよ  
うな議論をした方がいいと考えて  
います。

——日本の寒冷地で冬もサッカー観  
戦を楽しめるようにする手段とし  
てどのような手立てがありますか。

**野々村** まずプレーできる環境を  
少しでも増やしていくこと。今ま  
では想像できなかったことがサッ  
カーの力によってできるようにな  
れば面白い。何も変えないまま  
シーズンだけを変えるのではなく、  
環境の変化がほしいですね。観  
客席にしても、寒いからできないの  
であれば、暖かい環境で観戦できる  
工夫をすればいい。どの業界でも、  
現状が当たり前だからと思考停止  
に陥ることは好ましくない。前向  
きに变化できるようにみんなで考  
えていきたいです。

——チエアマン就任にあたって、役  
員選考委員会から「フットボールに  
基軸を置いて進めていくべきだと  
答申をもらった」と話されています  
。最後に今後、Jリーグが目指す  
方向性を教えてください。

**野々村** サッカーに限らず、プロス

ポーツの世界は基本的に勝ったと  
ころが上がり、負けたところが落  
ちていきます。サッカーは競争の  
世界ですので、熱量のある試合を  
もっと増やしていきたい。そのた  
めにも、試合のレベルがどのよう  
に上がったかをより数値化できれば  
と考えています。一つの「作品」が

良くなれば、サッカーそのもののレ  
ベルも上がります。「作品」とい  
うのは、ピッチだけの話ではありませ  
ん。スタジアム全体の雰囲気を含  
めてのことです。Jリーグが力を  
入れて取り組んできた社会連携活  
動も、これまで以上にサッカーを  
ベースにしていきたいです。



サッカーの試合において、選手を後押しし、熱狂を生むファン・サポーターの存在は欠かせない。ピッチだけではなく、スタンド、スタジアムを含む「作品」づくりが重要なと野々村チエアマンは言う

# 世界をつなぐ旅が、 ここからはじまる。

AL RIHLA  
アル・リフラ



FIFA WORLD CUP  
Qatar 2022

# INAC KOBE LEONES



WE LEAGUE

2021-22 WE LEAGUE 賞金 ¥20,000,000 CHAMPIONS

WE LEAGUE

# CHAMPIONS



## 2021-22 Yogibo WEリーグ WEリーグ初代王者は INAC神戸レオネッサ

11クラブが参入して誕生した日本初の女子プロサッカーリーグ「WEリーグ」。2021-22 Yogibo WEリーグは昨年9月12日に開幕し、各地で熱戦を繰り広げながら5月22日に最終節を迎えた。開幕から8連勝と好スタートを切ったINAC神戸レオネッサが初代王者に輝いた。

高い守備力で好発進  
―神戸が首位を死守

2021-22 Yogibo WE

リーグは、昨年9月12日に開幕した。第1号ゴールが生まれたのは同日10時にキックオフとなったINAC神戸レオネッサと大宮アルディージャVENTUSとの開幕戦だった。―神戸は、2012シーズン以来9年ぶりに指揮を執った星川敬監督の下、浜野まいかや成宮唯、GK山下杏也加ら新加入選手を先発に起用。4分、その成宮のループシュートがポストに当たってはね返ったところを高瀬愛実が押し込んで先制ゴールを挙げた。―神戸は5-0で白星スタートを切り、勝利を重ねていく。特に第9節まで無失点を維持した守備力は、今シーズンの―神戸の強さを支えた一つの要因



「Women Empowerment Trophy (ウーマンエンパワメントトロフィー)」と名付けられた優勝トロフィー

神戸の守備力の高さは失点9にも見て取れる。GK山下杏也加を中心に堅守を維持した



だった。2020年のプレナスなでしこリーグ1部で優勝した三菱重工浦和レッズレディースとの第8節でも、相手に多くのシュートを打たれながらも最後までゴールを割らせなかった。リーグ折り返しとなる第10節のマイナビ仙台レディース戦で初めて失点したが、成宮のゴールで1-1と引き分け、無敗を守ったまま前半戦を終えた。リーグの中断期間に行われた皇后杯JFA第43回全日本女子サッカー選手権大会では4回戦敗退となった―神戸だが、再開したリーグ戦では無敗を守った。5月4日に行われた延期分の第11節・サンフレッチェ広島レジー

ナ戦で初黒星を喫するも、次節のノジマステラ神奈川相模原には3-0と快勝し、2試合を残してWEリーグ優勝を決めた。

初代王者の座に導いた星川監督は「プレッシャーもあったが、優勝を経験している選手の力は大きかった」とベテラン勢をねぎらった。キャプテンの中島依美も「一戦一戦、良い準備をして戦ってきたことが優勝という結果につながってうれしい」と、プレーの質を高めながら戦い抜けたプロリーグ1年目を振り返った。

### 1 神戸と浦和が国立で対決 それぞれの意地が激突

準優勝となったのは浦和だった。浦和は、日テレ・東京ヴェルディベレーザとの開幕戦のゴールを皮切りに3試合連続ゴールを決めた菅澤優衣香が攻撃をけん引。第6節から3連敗を喫した際は4位にまで順位を落としたが、中断期間に行われた第43回皇后杯で初優勝を飾ったことで勢いを取り戻し、安藤梢、猶本光、塩越柚歩らの、要所で得点を決める高い決定力を武器に準優勝へと近づいた。

WEリーグ初の国立競技場開



1 神戸の田中美南(左)は12得点で得点ランキング2位と攻撃をけん引し、新加入の成宮唯(右)は攻守にチームを支えた

催となった5月14日の第21節では、すでに優勝を決めていた1神戸と対戦。一進一退の攻防の末、背番号10を背負うベテランの安藤が決勝ゴールを決めて浦和が1-0で勝利を収めた。また、この試合はWEリーグ最多となる1万2330人の観客動員数を記録。安藤は「1万人以上の方が来てくれたので、浦和のサッカーを皆さんに披露したい思いだった」と、観客の存在が高いモチベーションにつながったことを明かした。菅澤はシーズンを通してコンスタントに得点を重ね、最終節でも2得点を挙げて計14得点でWEリーグ初代得点王に輝いた。

国内リーグ優勝最多17回を誇



14得点で得点ランキングトップに立った浦和の菅澤優衣香(中央左)。スピードを武器に他チームの脅威となった清家貴子(同・右)も存在感を示した

る東京NBは、セレッソ大阪堺レディースから北村菜々美が新加入し、GMを務めていた竹本一彦監督が現場に復帰。2位をキープした時期もあったが、主力である小林里歌子の負傷離脱や遠藤純の海外移籍などもあり、上位チームとの対戦で苦しんだ。それでも、出産を経て復帰した岩清水梓や、海外で研さんを積んで新加入した宇津木瑠美がリーグ後半にチームを支える活躍を見せる。藤野あおばをはじめとした若手選手の台頭もあって3位につけた。岩清水は「(終盤は)3位を最低限の目標にしていたので達成できてよかった」と話しつつも、開幕時に目標としていた優勝に

### WE ACTION DAY (理念推進日) 実施一覧

節	実施日	チーム	活動テーマ
第1節	9月12日(日)	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	WE ACTIONフォーラム「一人ひとりが輝く社会とは」
第2節	9月19日(日)	INAC神戸レオネッサ	INACファミリー六甲アイランドクリーンアップ大作戦
第3節	9月25日(土)	三菱重工浦和レッズレディース	浦和区女子サッカースキルアップスクール
第4節	10月2日(土)	ノジマステラ神奈川相模原	サッカーでインクルーシブな社会を!
第5節	10月10日(日)	アルビレックス新潟レディース	輝ける未来をともに創ろう
第6節	10月12日(火)~17日(日)	大宮アルディージャ VENTUS	VENTUS ACTION WEEK
第7節	10月30日(土)	マイナビ仙台レディース	マイナビ仙台レディースpresents Women Empowerment ふれあいデー in 利府~地域とともに、一人ひとりが輝く社会~
第8節	11月7日(日)	サンフレッチェ広島レジーナ	ファミリーとともに一人ひとりが輝く社会を
第9節	11月13日(土)	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	BELEZA DREAM PROJECT~女性活躍の未来へ~
第10節	11月20日(土)	AC長野パルセイロ・レディース	Enjoy! ポッチャ! ~ WE ACTION DAY~
第11節	12月5日(日)	ちふれASエルフェン埼玉	子供たちの未来に夢や希望を!
第12節	3月5日(土)	アルビレックス新潟レディース	「WE」の輪を広げよう
第13節	3月13日(日)	マイナビ仙台レディース	共生社会づくりに向けた一歩を踏み出す「学び」 DAY
第14節	3月19日(土)	AC長野パルセイロ・レディース	Enjoy! ポッチャ! ~ WE ACTION DAY~
第15節	3月26日(土)	INAC神戸レオネッサ	INAC神戸住みよい街づくりプロジェクト
第16節	4月2日(土)	サンフレッチェ広島レジーナ	ファミリーとともに一人ひとりが輝く社会を
第17節	4月16日(土)	三菱重工浦和レッズレディース	レッズレディース キッズサッカー教室
第18節	4月23日(土)	ノジマステラ神奈川相模原	ダイバーシティ&インクルージョンDAY
第19節	4月29日(金)	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	「BELEZA DREAM PROJECT~女性活躍の未来へ~」 駒沢女子大学 少女サッカー教室
第20節	5月8日(日)	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	WE ACTION DAY ~一人ひとりが輝く社会を目指して~
第21節	5月11日(水)~15日(日)	大宮アルディージャ VENTUS	VENTUS ACTION WEEK
第22節	5月21日(土)	ちふれASエルフェン埼玉	子供たちの未来に夢や希望を!

※WE ACTION DAY: WEリーグの理念「女子サッカー・スポーツを通じて、夢や生き方の多様性にあふれ、一人ひとりが輝く社会の実現・発展に貢献する」を体现するため、各クラブがアクションを起こす日のこと。活動の詳細およびレポートについてはWEリーグ公式サイト、各クラブHP参照

絡めなかった点については悔しさをにじませた。第43回皇后杯の準優勝を勢いに変えたジェフユナイテッド市原・千葉レディースは、チーム史上最高位となる4位でWEリーグ初シーズンを終えた。順位が下の相手に引き分けるなど勝点を取りこぼす試合もあったが、大澤春花や千葉玲海菜が攻撃で存在感を示してチームを鼓舞した。特に千葉は3試合連続ゴールを決めるなど、第14節から8試合連続の無敗に大きく貢献した。



指揮を執って2年目の猿澤真治監督は「3位まであと勝ち点1だったのもつたいなかった。これを次のシーズンに生かしたい」と、上位進出に意気込んだ。

東京NBや神戸で多くのタイトルをもたらした松田岳夫監督を招聘したマイナビ仙台レディースは、パスサッカーに加えて速い攻撃を武器にWEリーグの上位対決を盛り上げた。しかし、リーグ後半に6敗を喫して失速。最終節のN相模原戦では、今シーズン限りでチームを離れる浜田遥が、試合終了間際に豪快な決勝点を決めてチームに初の逆転勝利を届けた。

WEリーグに向けて新たに



東京NBの藤野あおはは高校3年生ながら昨年は特別指定選手として出場。積極的なプレーで4得点を挙げた(今年1月にチーム加入決定)

チームを立ち上げたS広島Rと大宮Vも初年度のリーグ戦で奮闘した。中村楓、近賀ゆかりなど経験豊富な選手を擁するS広島Rは、第6節で浦和に、第11節で神戸に勝利するなど台風の目となったが、序盤はホーム戦で勝利が遠かった。大宮Vも乗松瑠華、仲田歩夢など実力のある選手を多くそろえ、第5節のS広島R戦で井上綾香がWEリーグ第1号となるハットトリックをマーク。リーグ終盤にはベテランの阪口夢穂がけがから復帰するも、第18節から4連敗で今シーズンを終えることとなった。

### 理念の具現化に向け、各クラブが趣向を凝らす

WEリーグ初年度は11チームでスタートしたため、その週に試合のないチームは「WE ACTION DAY(理念推進日)」として、リーグの理念に沿った行動を行った。各チームはそれぞれ地域と関わり、サッカー教室やトークショー、他スポーツとの交流などを積極的に実施した。最も印象的なWE ACTION DAYの取り組みに贈られる「2021-22



EL埼玉は12月5日のWE ACTION DAYに熊谷市の児童養護施設で交流会を実施。25人の子どもたちと楽しく体を動かし、この日のために作成したオリジナルパーカーをプレゼントした。

MOST IMPRESSIVE WE ACTION DAY」は、ちふれASエルフェン埼玉の第11節の取り組み「子どもたちの未来に夢や希望を」が受賞した。EL埼玉は行政と連携しながら児童養護施設を訪問。施設の子どもたちと遊んだり、会話を楽しんだりするなどして心を通わせた。

コロナ禍でのスタートとなったWEリーグは、監督や選手が「プレーの強度が増した」「相手の分析に時間が割けるようになった」と口にしたように、プロ化による成果が明らかになった。こうした成果が日本女子サッカー全体の活性化や日本女子サッカー全体の活性化につながる事が期待されている。

### 2021-22Yogibo WEリーグ 戦績表

順位	チーム名		I 神戸	浦和	東京NB	千葉L	マイ仙台	S広島R	AC長野	新潟L	大宮V	相模原	EL埼玉	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	INAC 神戸レオネッサ	H		0●1	1○0	2○0	1○0	3○2	1○0	1○0	5○0	1○0	1△1	50	16	2	2	35	9	26
		A		2○0	3○1	1○0	1△1	0●1	2○0	1○0	5○2	3○0	1○0							
2	三菱重工浦和レッズレディース	H	0●2		2△2	2○0	3○1	1●2	2○0	2○0	1●2	2○0	3○2	42	13	3	4	40	24	16
		A	1○0		2○1	1●2	3○2	1○0	3○2	4○2	4○1	2△2	1△1							
3	日テレ・東京ヴェルディベレーザ	H	1○3	1●2		2○3	2○1	2○0	4○0	2○0	0△0	4○3	4○1	34	10	4	6	32	18	14
		A	0●1	2△2		3○0	0●1	2○0	0△0	0△0	1○0	2○0	0●1							
4	ジェフユナイテッド市原・千葉レディース	H	0●1	2○1	0●3		2○0	1○0	0△0	1△1	1△1	2○0	1△1	34	9	7	4	26	18	8
		A	0●2	0●2	3○2		1△1	1△1	2○0	1○0	1△1	3○0	4○1							
5	マイナビ仙台レディース	H	1△1	2●3	1○0	1△1		4○0	2○0	0●1	0△0	0△0	1○0	31	9	4	7	25	16	9
		A	0●1	1○3	1●2	0●2		2○0	0●1	3○0	1○0	2○1	3○0							
6	サンフレッチェ広島レジーナ	H	1○0	0●1	0●2	1△1	0●2		1○0	1△1	3○0	0△0	4○0	25	7	4	9	24	26	-2
		A	2○3	2○1	0●2	0●1	0●4		1●2	2△2	1●4	2○0	3○0							
7	AC長野パルセイロ・レディース	H	0●2	2●3	0△0	0●2	1○0	2○1			2△2	1○0	1△1	21	5	6	9	15	24	-9
		A	0●1	0●2	0●4	0△0	0●2	0●1		3○1	3○1	0△0	0●1							
8	アルビレックス新潟レディース	H	0●1	2●4	0△0	0●1	0●3	2△2	1●3			1△1	1●2	19	4	7	9	20	30	-10
		A	0●1	0●2	0●2	1△1	1○0	1△1	2△2			1△1	4○2							
9	大宮アルディージャVENTUS	H	2○5	1●4	0●1	1△1	0●1	4○1	1●3	1△1		0△0	0△0	18	3	9	8	17	31	-14
		A	0●5	2○1	0△0	1△1	0△0	0●3	0●1	1△1		1○0	2△2							
10	ノジマステラ神奈川相模原	H	0●3	2△2	0●2	0●3	1●2	0●2	0△0	2●4	0●1		1○0	13	2	7	11	13	31	-18
		A	0●1	0●2	3●4	0●2	0△0	0△0	1△1	2○1	0△0		1△1							
11	ちふれASエルフェン埼玉	H	0●1	1△1	1○0	1●4	0●3	0●3	1○0	0●1	2△2	1△1		13	2	7	11	13	33	-20
		A	1△1	2●3	1●4	1△1	0●1	0●4	0△0	1●2	0△0	0●1								

○：勝ち(勝ち点3)、△：引き分け(勝ち点1)、●：負け(勝ち点0)、H：ホーム A：アウェイ

INTERVIEW 岡島喜久子WEリーグチェア

# 1年目のWEリーグを振り返って

2020年7月1日、WEリーグを運営する新法人、一般社団法人日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)が発足。翌年には内閣総理大臣から公益認定を受けて、公益社団法人に移行した。

設立から約2年、WEリーグを率いてきた岡島喜久子チェア(日本サッカー協会(JFA)副会長)に1年目のシーズンの総括と来季への展望を聞いた。

○オンライン取材日：2022年6月1日



リーグが目指す一つの形を見ることができたと思っています。その様子を見た他クラブの関係者もヒントや手応えを得ていましたので来シーズンにつなげられるのではないかと思います。

——観客動員においては、課題も残ったのではないかと思います。

岡島 1試合の平均観客動員数は5000人を目標にスタートしましたが、国立競技場での試合を除くと4000人以上が3試合でした。そして国立は2万人を目指した中で1万2330人だったわけですね。来シーズンは11クラブそれぞれホームスタジアムで1万人の観客動員を目指して取り組みたいと考えています。

そのためには、ホームのクラブだけでなく、アウェイのクラブもサポートし、みんなで1万人が集まる試合をもつとつくる。各クラブの取り組みの成果を共有する場もつくっていかなければなりません。

もう一つ、課題としてウインターブレイクがあります。今シーズンは皇后杯JFA第43回全日本女子サッカー選手権大会が開催されていた期間(12〜2月)はリーグを中断しましたが、このウインターブレイク後の後期は集客力が落ちてしまいました。ウインターブレイクにリーグや選手への関心を高めるような施策を考えていきます。



国立競技場で初開催された5月14日の試合は観客動員数12,330人を記録。次シーズンは各ホームスタジアムで1万人の集客を目指す

## プロ化による選手の変化 新たな施策、刺激も

——開幕に向けて選手らとWE MEETINGを重ね、WEリーガークレド(選手の行動規範)を制定しました。開幕後もWEリーグテクニカルアドバイザーの小野剛JFA技術委員会副委員長によるテクニカルセミナーが隔週で開催されています。選手の意識の変化や成長を感じられる部分はありますか。

岡島 プロになってフィジカルトレーニングをする時間が増えたことにより、全体的にスピードが上がったと思います。ただ走るスピードだけでなく、判断のスピード、パススピードなど全てにおいてですね。クラブが目指すサッカーもそれぞれ色が出てきました。前線からボールを

国立で確認した目指す形  
課題を来季につなげる

——初年度を終えて率直な思いをお聞かせください。

岡島 クラブ、選手、スタッフ、パートナー企業、ファン・サポーターの皆さんのおかげで初シーズンの全110試合を無事に終えることができました。なでしこジャパン(日本女子代表)のオランダ遠征終了後、代表選手には帰国後の隔離期間が設け

られたため1節だけ延期とした試合がありました。その他は予定通りに開催できました。大変ほっとしています。

——特に印象的だった試合や出来事などはありますか。

岡島 特に印象に残っているのは、国立競技場で行われた5月14日の試合です。WEリーグの成果が目に見える形で確認できた日でした。INAC神戸レオネッサと三菱重

工浦和レッズレディースの試合に1万2330人の観客が訪れ、中には子どもたちもたくさんいました。ホームだったI神戸の努力により、試合前にはピッチ上でのミニゲームやサッカー教室、コンコースではいろいろな催しが用意され、子どもはもちろん、親御さんも一緒に楽しんでる姿が見られました。子どもたちが走り回ったり、タイトルパートナーであるYogibo(ヨギボー)のクションではしゃいでいたり、WE

工浦和レッズレディースの試合に1万2330人の観客が訪れ、中には子どもたちもたくさんいました。ホームだったI神戸の努力により、試合前にはピッチ上でのミニゲームやサッカー教室、コンコースではいろいろな催しが用意され、子どもはもちろん、親御さんも一緒に楽しんでる姿が見られました。子どもたちが走り回ったり、タイトルパートナーであるYogibo(ヨギボー)のクションではしゃいでいたり、WE



ビジョンに掲げる「世界一的女子サッカー」の実現に向け、昨年9月27日からテクニカルセミナー「FOOTBALLを学ぼう」を隔週で実施

また、D A Z Nで全試合を配信していただき、D A Z N YouTubeチャンネルでは毎節2試合が無料配信されています。来シーズンはもっと多くの方に見てもらえたらと思っています。

WE ACTIONの一環として、I神戸のホームスタジアムであるノエビアスタジアム神戸にタイトルパートナーであるYogiboプロデュースのセンサリールームが常設されました。また、メディアキユットは清水梨紗選手(日テレ・東京ヴェル

ディベレーザ)を起用したCMを制作し、それがYouTubeで170万回以上再生されました。旭化成ホームプロダクツも岩清水梓選手(日テレ・東京ヴェルディベレーザ)を起用したウエブCMを展開し、どちらも良い反応が得られたと思います。来シーズンは新たな提案を含めて、パートナー企業各社とともに露出を増やしていきたいところです。

スペインの女子リーグはプロではありませんが、1部リーグの選手はほとんどプロ契約だそうです。当初は観客もそこまで入らず、FIFA女子ランキングもスペインはトップ10に入っていませんでした。それが急成長を遂げ、今やランキングは日本より上です。私たちにとってス



多くの子どもや地域の人々と触れ合う中で選手のプロ意識も高まっていった(写真は大宮V「VENTUS ACTION WEEK」障がい者サッカー体験会の様子)

ペインから学ぶことはとても多く、リーグを発展させる上でスペインとの交流は非常に大切です。

**女子サッカーの魅力**  
より多くの人に

次シーズンも今シーズンと同様11クラブでの実施となります。新たな施策などがあれば教えてください。

**岡島** プレシーズンカップを計画しているところです。公式試合数が少ないので増やしたい。そのほか、ウインターブレイクに交流戦をしたり、まだ構想段階ですが、他の女子スポーツと連携していろいろなスポーツを体験できる場をつくれたらなど。女子サッカー、女子スポーツを楽しんでもらって、より関心を持ってもらえる取り組みができればと考えています。

初年度を終え、あらためて岡島チェアが感じられている女子サッカーの魅力や可能性をお聞かせください。

**岡島** 一つは、クリーンであるということ。審判員に抗議をすることもなく、プレーも非常にフェアです。よね。そういう意味では、子どもたちに安心して見てもらえるサッカーだと思います。もう一つは選手とサポーターとの距離が近いこと。各地域に訪れると、人々がとても温かくて、親戚の子を応援しているような雰囲気があります。選手たちが日頃、お世話に

なっている商店街や飲食店の人たちが応援してくれているんですね。その関係性の近さや温かさは魅力だと思います。そして、ピッチ内外での選手のギャップも一つです。ピッチ上では激しいプレーも厭わない選手たちですが、SNSなどではかわいらしかったり、おもしろかったり、いろんな面が見られますのでそのギャップも面白い。今は少し変わったことをやらないと注目されない、という傾向がありますから、良い意味で社会にインパクトを与えるような仕掛けも考えていきたいと思っています。そして、ぜひ多くの人にスタジアムに来ていただき、女子サッカーの面白さを体感していただきたいと思っています。

WEリーグとしても今シーズンの収穫と課題を踏まえ、より魅力のあるリーグにしていけるようクラブと共にまい進していきます。

4月には、スペインのラ・リーガとなでしこリーグの三者間でパートナーシップ協定を結ばれました。具体的にどういった連携を予定されているのでしょうか。

ラ・リーガとはオンラインでミーティングをし、今後の取り組みを検討しているところです。今年3月には、スペインのバルセロナがUEFA女子チャンピオンズリーグの試合で9万人以上の観客を集め、女子サッカー史上最多記録を更新したことが話題になりました。WEリーグ理事の佐伯夕利子さんがピジャレアルの女子チームで監督をされているので、いろいろな情報を共有してもらっています。

スペインの女子リーグはプロではありませんが、1部リーグの選手はほとんどプロ契約だそうです。当初は観客もそこまで入らず、FIFA女子ランキングもスペインはトップ10に入っていませんでした。それが急成長を遂げ、今やランキングは日本より上です。私たちにとってス

奪いに行く姿勢、プレーの強度、ボールをクリアする際に攻撃につなげる意識も強くなり、それがプレーに表れてきました。フットボールの面では非常に大きな成長がありました。現在、日本はFIFA女子ランキングで13位。継続して競技面の向上を追求することで、もっと上位にいけると思っています。

理念の実現に向けては「WE ACTION DAY(理念推進日)」を設け、試合のない日にクラブ独自の活動をしてもらいました。プロになったことで、逆に社会とのつながりが減ってしまったのではという声が当初からありましたが、この活動によって自分たちの地域が抱えている問題と向き合い、一方で、地域の人々と触れ合う機会ができました。児童養護施設や障がいのある子どもたち、障がい者サッカーの選手らと交流を

図っているクラブもあります。選手にとつてはこれまで接する機会がなかった人々と触れ合う中で視野が広がり、プロとしての自覚が生まれ、人としての成長につながられたのではないのでしょうか。子どもたちと接する機会は増えていますから、選手には子どもたちの憧れの存在であってほしいですね。

WEリーグとしても今シーズンの収穫と課題を踏まえ、より魅力のあるリーグにしていけるようクラブと共にまい進していきます。

また、D A Z Nで全試合を配信していただき、D A Z N YouTubeチャンネルでは毎節2試合が無料配信されています。来シーズンはもっと多くの方に見てもらえたらと思っています。

WE ACTIONの一環として、I神戸のホームスタジアムであるノエビアスタジアム神戸にタイトルパートナーであるYogiboプロデュースのセンサリールームが常設されました。また、メディアキユットは清水梨紗選手(日テレ・東京ヴェル

ディベレーザ)を起用したCMを制作し、それがYouTubeで170万回以上再生されました。旭化成ホームプロダクツも岩清水梓選手(日テレ・東京ヴェルディベレーザ)を起用したウエブCMを展開し、どちらも良い反応が得られたと思います。来シーズンは新たな提案を含めて、パートナー企業各社とともに露出を増やしていきたいところです。

スペインの女子リーグはプロではありませんが、1部リーグの選手はほとんどプロ契約だそうです。当初は観客もそこまで入らず、FIFA女子ランキングもスペインはトップ10に入っていませんでした。それが急成長を遂げ、今やランキングは日本より上です。私たちにとってス



## 102回目の 天皇杯が開幕!



天皇杯JFA第102回全日本サッカー選手権大会が開幕。  
5月21日・22日に全国各地で1回戦が行われた。

過去から未来へ  
「つながらる」大会に

天皇杯JFA第102回全日本  
サッカー選手権大会が5月21日に

開幕した。今年は11月から12月に  
かけてカタールでFIFAワールド  
カップが開催されるため、決勝は例  
年より早い10月16日に日産スタジ  
アムで行われる。その決戦の舞台  
で日本一の称号をつかみ取ろうと、

初戦から熱戦が繰り広げられた。  
今大会には2342チームが参  
加した。1回戦には、予選を勝ち  
抜いた各都道府県の代表チーム  
にアマチュアシードのHonda  
FCを加えた48チームが出場し  
た。2回戦からはJ1とJ2の全  
チームが加わり、総勢88チームで  
頂点を争う。

直近2大会は新型コロナウイル  
ス感染拡大の影響で日程やレギュ  
レーションの大幅な変更を余儀な  
くされた。開幕会見もオンライン  
で行われていたが、今年はJFA  
ハウス(東京都文京区)にメディア  
を集めて行われた(会見の様子は  
YouTubeで公開中)。天皇杯  
実施委員会の中野雄二委員長は、  
「今大会のキーワードは『つなが  
る』。第102回大会を迎え、過去  
から未来につながっていきける大会  
にすること。さまざまな違いを超  
え、多くの人が天皇杯でつながら  
ることを目指す」とあいさつした。

会見に合わせて天皇杯の返還式  
も行われた。前回大会を制した浦  
和レッズの西川周作キャプテンが  
登壇し、「今年もこのカップをまた  
掲げられるように、全員で頑張っ  
ていきたい」と健闘を誓った。

### 大学勢が好スタート

中野委員長の「頂上決戦にふさ

わしい大会にしてほしい」という言  
葉通り、1回戦から白熱した試合  
が展開された。

毎回、天皇杯で旋風を巻き起こ  
している大学生チームが、今大会  
でも若い力を爆発させ、一発勝負の  
醍醐味であるジャイアントキリン  
グを演じた。

筑波大学(茨城県)は、JFL昇  
格を目指して関東リーグ1部を  
戦うブリオベッカ浦安(千葉県)  
と対戦。浦安の都並敏史監督が  
「個々がうまく、プレスをかけても  
いつものようにボールを奪えな  
い」と称えたパスワークなどで序  
盤から相手を押し込んだ。さらに  
小井土正亮監督が「ここ(ひたち  
なか市総合運動公園陸上競技場)  
で試合をするのは今年4回目く  
らいで、風が強いことやピッチの  
状態を把握できていた」と語った  
ように、筑波大にとっては、ホーム  
のアドバンテージもプラスに働い  
たようだ。

浦安も意地を見せて延長戦へ持  
ち込み、延長前半に逆転に成功す  
る。しかし、筑波大が、交代で入っ  
た和田育のゴールで同点とし、PK  
戦に突入すると、GK高山汐生が  
好セーブを披露。筑波大が1回  
戦を突破し、2回戦で柏レイソル  
(J1)と対戦する権利をつかんだ。

新潟医療福祉大学(新潟県)は、  
J3のヴァンラーレ八戸(青森県)

を撃破した。開始17分で相手のク  
リアミス逃さず先制点に結びつ  
けると、11人が一丸となって攻守に  
堅実な戦いを見せる。選手交代は  
後半アディショナルタイムの1人  
のみ。高い集中力を保ちながら懸  
念に耐えて、プロチームを退けた。

3回目の出場となる環太平洋大  
学(岡山県)は、JFLのMIOび  
わこ滋賀(滋賀県)と対戦。開始  
9分で先制したが前半のうちに追  
いつかれ、1-1で延長戦へ突入す  
る。PK戦にもつれ込むかと思わ  
れた110分、セットプレーから押  
し込んで決勝点とした。

同志社大学(京都府)も、北信越  
リーグ1部を戦う福井ユナイテッ

最後まであきらめない姿勢を見せた筑波大。  
チーム全体で戦い、接戦を勝ち切った



## 天皇杯 JFA 第102回全日本サッカー選手権大会

主催：公益財団法人日本サッカー協会／  
公益社団法人日本プロサッカーリーグ  
大会方式：88チームによるノックアウト方式  
出場チーム：J1／18チーム  
J2／22チーム  
アマチュアシード／1チーム(※)  
都道府県代表／47チーム  
※2021年JFL 準優勝チーム／Honda FC

日程：  
【1回戦】5月21日(土)、22日(日)[予備日 5月23日(月)]  
【2回戦】6月1日(水)[予備日 6月8日(水)]  
【3回戦】6月22日(水)[予備日 6月29日(水)]  
【4回戦】7月13日(水)[予備日 7月20日(水)]  
【準々決勝】9月7日(水)[予備日 9月28日(水)]  
【準決勝】10月5日(水)  
【決勝】10月16日(日)

JFLのヴェルスバ大分(大分県)も、J3のガイナレ鳥取(鳥取県)を下し、シュート数は同じ9本ながら、前後半に2点ずつをマーク

6年ぶりの出場となる福島ユナイテッドFC(福島県)は初出場のノースアジア大学(秋田県)に7-1と大勝。今シーズンからチームを率いる元日本代表の服部年宏監督は、「勝利して次の試合ができるというのが今日のチームの目標だった」と、素直な胸の内を明かした。

J2リーグ復帰を目指して、現在、J3上位を争っている松本山雅FC(長野県)は、北陸大学(石川県)に2点をリードしながらも追いつかれ、辛くも3-2で振り切った。FC岐阜(岐阜県)も中京大学(愛知県)に2度リードされる苦しい展開だったが、残り15分で2点を奪って逆転勝ちした。

前半終了間際に先制されたが、後半に入ると昨年までJリーグでプレーしていた安在和樹が直接FKを決めるなど、55分からの13分間で一気に4得点を挙げる。高原も交代出場して、2年連続の初戦突破を果たした。

## 地域リーグのチームも奮闘

奮闘したのは大学生チームだけではない。地域リーグなどを戦うチームもプロチームを相手に健闘した。元日本代表の高原直泰が背番号10を背負い、選手兼クラブCEOを務める沖縄SV(沖縄県)は、J3のFC今治(愛媛県)と対戦。前半終了間際に先制されたが、後半に入ると昨年までJリーグでプレーしていた安在和樹が直接FKを決めるなど、55分からの13分間で一気に4得点を挙げる。高原も交代出場して、2年連続の初戦突破を果たした。

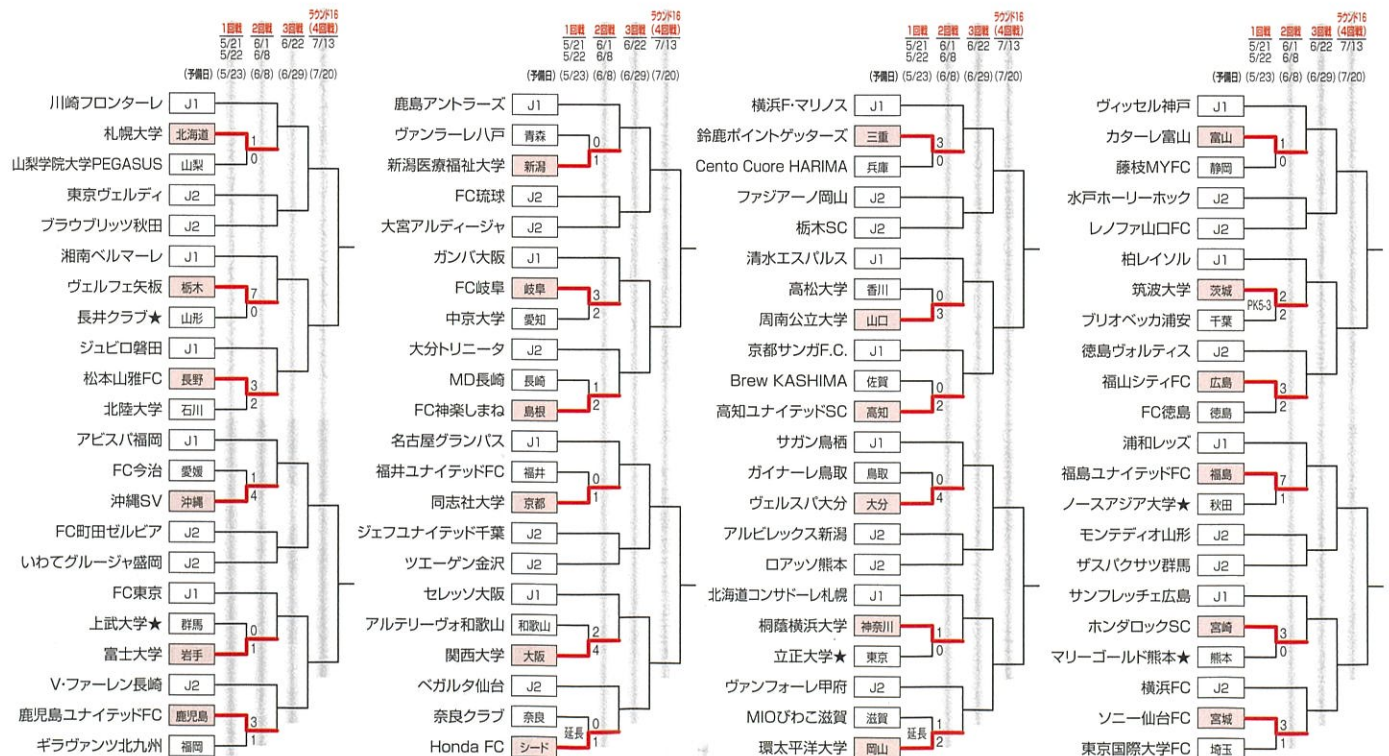
奮闘したのは大学生チームだけではない。地域リーグなどを戦うチームもプロチームを相手に健闘した。元日本代表の高原直泰が背番号10を背負い、選手兼クラブCEOを務める沖縄SV(沖縄県)は、J3のFC今治(愛媛県)と対



福島ユナイテッドFCは高橋潤哉が4ゴールを記録して大勝。シードであるJ1・浦和レッズとの2回戦へ駒を進めた



初出場の秋田県代表・ノースアジア大学は内垣祥一(中央)の右足シュートが決まり、天皇杯での初得点を挙げた



AFCフットサルアジアカップクウェート2022の出場権を懸けた東地区予選が5月17日から21日、中立地のマレーシアで開催された。

木暮賢一郎監督率いるフットサル日本代表は5月8日に成田空港を出発し、翌9日から現地でのトレーニングキャンプを実施。コンディショニングに重きを置きつつも、予選が行われる試合会場であるSeangor FCのフットサルチーム(マレーシアプレミアフットサルリーグのチャンピオン)と親善試合(5-0で勝利)を組むなど、木暮監督体制になって初の公式大会に向けて、入念に準備を進めた。

迎えた予選第1戦、フットサル香港代表と対戦した日本は、開始1分にキックインから先制点を許してしまう。しかし、登録14人中12人が初のAFC予選というチームながら、劣勢にも落ち着いて試合を運んだ。2分、クレパウジ・ヴィニシウス(ベスカドーラ町田)の得点で追いつくと、6分には金澤空(立川アスレティックFC)が逆転弾をマーク。前半に3点を加点すると、後半も攻撃の手を緩めない。ヴィニシウスがさらに2点を挙げてハットトリックを達成す



**JAPAN NATIONAL TEAM**

## フットサル日本代表 全勝で本大会に駒を進める



© 2022 AFC

るなど、11点を奪って快勝。アジアの頂点につながる公式試合で白星スタートを切った。

緊張感にあふれた初戦をものにし、程よく肩の力が抜けた状態で臨んだフットサルモンゴル代表との第2戦は、日本の攻撃陣が躍動する。4分に吉川智貴(名古屋オーシャンズ)が挙げたゴールを皮切りに、次々と相手ゴールを陥

れる。本石猛裕(バサジイ大分)がハットトリックの活躍を見せると、17歳の原田快(町田)は代表初ゴールを含む2得点を挙げるなど、15-0でモンゴルに勝利。同日に行われたチャイニーズ・タイペイ対香港の結果を受けて日本は3位以内が確定し、アジアカップの出場を決めた。

続くフットサル韓国代表との1戦は、共に2勝同士の上位対決となった。試合前に吉川が「非常に難しい試合になる」と語った通り、序盤は一進一退の攻防が続く。そんな中、日本は5分に相手のオウンゴールを誘って貴重な先制点を挙げる。これで勢いに乗ると、7分に上村充哉(立川)、8分にはオリベイラ・アルトゥール(名古屋)が加点し、前半のうちに5点のリードを奪った。日本はその後も集中力を切らすことなく、無失点を維持。攻めでは平田ネットアントニオ(名古屋)のゴールなどで4点を追加し、9-0で難敵・韓国を下した。

第4戦、日本は全勝を懸けてフットサルチャイニーズ・タイペイ戦に臨んだ。2試合続けて無失点に抑えていた日本だが、この試合は初戦同様、序盤に先制点を許す展開に。それでも大会を通して自信



© 2022 AFC

木暮監督の指示に耳を傾ける選手たち。コロナ禍で予選や準備期間の変更を余儀なくされたが、若きフットサル日本代表は好スタートを切った。

をつけたチームは、慌てることなく徐々に流れを引き寄せていく。6分、内田隼太(ブレラFC/スペイン)が強烈なシュートを決めると、16分にも再び内田がゴールを挙げ、逆転に成功。さらに後半に5点を追加した日本が7-1で勝利し、予選を4戦全勝で終えた。

木暮監督は予選を振り返って「(代表での公式戦が)初めてという選手が多い中、しっかりと力を発揮することができたのは日本のフットサルが歴史を重ねてきたからこそであり、育成の成果でもある」とコメント。9月に開幕するAFCアジアカップに向けては「8年ぶりのチャンピオンになるべく、また努力していきたい」と語った。

公益財団法人日本サッカー協会  
相談役  
**川淵三郎**

株式会社ファーストリテイリング  
代表取締役会長兼社長  
**柳井正**



JFAユニクロサッカーキッズ

○対談日：2022年5月20日

# スポーツを通じて人生を学ぶ

日本サッカー協会（JFA）は株式会社ユニクロの特別協賛の下、2003年から「JFAユニクロサッカーキッズ」を全国で実施している。JFAキッズプログラムの一環として6歳以下の未就学児を対象として行っているこのフェスティバルには、これまで延べ約30万人の子どもたちが参加。子どもたちがサッカーに触れ、その楽しさを体験する貴重な機会となっている。

スタートから20周年を迎え、ユニクロを展開する株式会社ファーストリテイリングの柳井正代表取締役会長兼社長と川淵三郎JFA相談役に話を聞いた。

**子どもたちが家族と一緒に楽しんで参加できる場**

——ユニクロが「JFAキッズプログラム」への支援を決めた背景とはどのようなものだったのでしょうか。

**柳井** スポーツに協賛したいと考えていました。ただし、他の企業と同じような大会を協賛するのではなく、違った形がいいだろう、と。そのような中、2002年にFIFAワールドカップが日本で開催され、サッカーが非常に盛り上がりつつありました。日本のサッカーが世界に羽ばたくスポーツになっていく時期だったので、わが社もサッカーに協賛したいと思っていたところ、「JFAキッズプログラム」の話をいただいた。私の次男と安永聡太郎さん（元プロサッカー選手）が小学校から一緒にサッカーをやっていた縁で、もともとサッカーには親近感を持っていました。

——川淵相談役から提案されたのでしょうか。

**川淵** 子どもたちが肉体的に成長し、運動神経が急速に発達していくのは、ゴールデンエイジといわれる9歳から12歳の間ですが、その前のプレ・ゴールデンエイジといわれる8歳以下の段階での運動経験も非

常に重要です。しかし、日本ではこの年代で運動をしていない子が多い。外遊びをする機会も減って日本の子どもの運動能力は低下しているといわれています。JFAでは、このプレ・ゴールデンエイジの子どもたちにスポーツの楽しさを教えていきたいという思いからJFAキッズプログラム（※）をスタートさせました。そこでユニクロさんに協賛をお願いしたところ、快く引き受けてくださり、2003年に福岡Yahoo! JAPANドーム（当時）で行われた第1回から協賛していただいています。

**柳井** ワールドカップ開催によってサッカーが非常に盛り上がりつつあった時期で、私たちが世界に打って出たいと思っていました。日本の将来を担う子どもたちがご両親と楽しんで参加できる。そういう事業を自社でできるということで、喜んで協賛させていただきました。

**川淵** 芝生のグラウンドを走り回れるというのは、サッカーをするしなにかかわらず、子どもたちにとっては楽しいことなのです。そして、子どもが参加することによって、子どもがご両親と一緒に参加するということなので、家族で楽しめるんですよ。

——なぜ企業がスポーツに協賛す

るのか。ユニクロがこのプログラムに協賛する意義はどこにありますか。

**柳井** 昨年の東京オリンピック・パラリンピックでスウェーデンチームのユニフォームを作ったように、われわれはスポーツウェアだけでなく、スポーツとカジュアルの中間のような服も作れます。ユニクロサッカーキッズでは子どもたち全員にTシャツをプレゼントし、それを着用してサッカーをしてもらっていますから、まずはそうしたことの証明、宣伝になります。そして、サッカーを通して子どもたちが仲間と一緒に行動することを覚え、そこでリーダーシップやフォロワーシップ、チームビルディングなどを学ぶ。社会教育の一つにもなります。われわれの宣伝になると同時に、みんなに喜んでもらえるんです。

——広告、宣伝という部分では、選手やチームを通じて企業のメッセージも伝えられています。

**柳井** スポーツの場合、特にプロスポーツでは、ヒーローである選手を応援することが一つにあります。私は、スポーツのヒーローは紳士でなければいけないと思っています。あの選手のようになりたいたいと思う選手を企業として応援したいんです。誰にとってもお手本と

なる選手をわれわれは「グローバルブランドアンバサダー」と呼んでいますが、彼らが世界で活躍することによって、われわれも一緒に世界に出ていくというイメージです。

**川淵** もちろん宣伝という部分では必要なことを伝えなければならぬと思いますが、見返りを求めていては本当の社会貢献はできません。日本ではまだ損得勘定で考えられてしまうことが多い。しかし、それではあまり良い結果を生まない。そうではないから、「JFAユニクロサッカーキッズ」は20年続いてきたんですよ。

※JFAはキッズ年代(10歳以下)へのアプローチとして、2003年にJFAキッズプロジェクトを立ち上げ、同年からキッズ巡回指導、フェスティバル、指導者(キッズリーダー)養成を三本柱としたプログラムを展開している。

**スポーツでもっと、幸せな国へ**

——Jリーグは立ち上げ当初から地域密着を進めてきました。ユニクロも各地に店舗があり、地域密着を掲げています。

**柳井** やはり地域の人に愛されなければなりません。ユニクロが全国に何店舗あろうと、自分たちの住んでいる地域の店舗に魅力がなければ駄目なんです。地域に密着し

ない限り、安定した売り上げは見込めませんし、地域にとつて魅力がない限り、そこに店舗がある理由がありません。サッカーは、クラブ組織というものを日本で初めてつくり、そこで子どもたちを育てています。そういう組織が日本のあらゆるスポーツに必要なと思います。サッカーで世界に飛び出していこうとする子どもたちを地域が応援する。その子どもたちも世界に出ると同時に、日本でも活躍する。そういう組織をもっとつくってほしいですね。クラブという発想は欧州から学んだのですか。

**川淵** そうです。プロ野球は、Jリーグができる前は限られた球団に人氣が集中していました。企業中心のやり方ではそうなくなっていきますから、Jリーグは欧州のスポーツ先進国に倣い、地域に根差してやっていくことにしました。

**柳井** そのやり方が、日本サッカーを変えたと思います。日本のスポーツは、いわゆる体育会系といわれるものが中心でしたが、私はそれが苦手でした。クラブでは年齢の違う人たちが一緒になってスポーツを楽しめる。それが素晴らしいと思っています。

**川淵** 今ではプロ野球も「地域密着」を標榜するようになってきました

た。Jリーグ立ち上げ当初は、地域密着と言ってもなかなか理解してもらえなかった。でも、それが実現できたからこそ今のJリーグの成功がある。私の究極の目標は、一つのクラブがいろいろな施設をつくって、いろんなスポーツを展開して、老若男女がそこに来てスポーツを楽しむこと。Jリーグが目指す究極の目標でもありません。

——ユニクロではスポーツウェアを販売していますし、スポーツ関連の事業にも取り組んでいます。

**柳井** スポーツは、個人でもチームでも楽しめるし、成長できます。多くを学ぶことができる。プレーするためにいろいろなことを考え、選手それぞれの特長を生かしてチームで勝つことを体で覚えられます。これは人生を学んでいるようなもので、非常に面白い。

**川淵** 人間の感情がストリートに表れますよね。ユニクロは今年の4月20日、新聞各紙に難民支援に関する広告を出されましたね。広告を読みましたが、そこには、世界中で一人も難民を出さないために、ユニクロはいろいろな衣服を提供する、と書かれていた。そして実際、世界各国で約5000万着を提供しておられる。それだけ多くの人々の尊厳を、人間として生きていく上

で大事なものをバックアップしますということ。スポーツも同じです。人間は感情の生き物ですから、ステイホームで人と会話ができなかったり、感情を表現できなかったり、気がめいってしまう。だから、スポーツやエンターテインメントは絶対に必要なんです。

——川淵相談役はこれまでスポーツ界でさまざまな改革を行ってこられたと思いますが、あらためてスポーツの力はどこにあると思われませんか。

**川淵** 言葉にすると矮小化されてしまうので難しいですね。私は、日本はスポーツ先進国だとは思っていません。欧米に比べると、見る、支えるという部分で劣っている。スポーツが生活の一部になると人生が楽しくなる。「スポーツでもっと、幸せな国へ」というJリーグ百年構想のキャッチフレーズがそれを表している。スポーツをすることで、仲間ができて交流の輪が広がる。絶対に得だと思えますよ。そういう場所をつくっていきましょうというのが、Jリーグの原点です。

——経済界からスポーツを支えてきた柳井会長は、スポーツの力をどのように感じられていますか。

**柳井** スポーツのない人生などあり

得ないと思っています。特に幼少期においては、友情や勇氣、チームワーク、自分自身の長所や短所、うまくても下手でもそこに参加したり、見たりすることで多くのことを学べます。私もゴルフが好きなので、年に100回くらいプレーします。ゴルフがなければ仕事なんかできませんよ(笑)。でも、そういう人が増えれば増えるほど幸せになるじゃないですか。

**川淵** 私もゴルフをしますが、年に100回と聞いて驚きました。それで私も昨年、年間100回プレー宣言をしたんですが、これがなかなか大変(笑)。

——今日は、楽しいお話をありがとうございました。



2003年のスタートから20年。これまで延べ30万人もの子どもたちが参加してきた(右は内田篤人「JFAユニクロサッカーキッズ」キャプテン)



# サッカーファミリー広場



**UNIQLO**  
SOCCER KIDS  
JFAユニクロサッカーキッズ

## 「JFAユニクロサッカーキッズ」 2022年度は全国16都道府県で開催

日本サッカー協会（JFA）が主催し、株式会社ユニクロが特別協賛する未就学児向けのサッカーフェスティバル「JFAユニクロサッカーキッズ」を、2022年度は全国16都道府県で開催する。昨年、JFAユニクロサッカーキッズのキャプテンに就任した元日本代表の内田篤人氏が今年度も引き続きキャプテンを務め、参加する子どもたちにサッカーの楽しさを伝える。

### 【2022年度 JFAユニクロサッカーキッズ 開催日程】

開催予定日	開催地	会場名
2022年 7月17日(日)	愛知県	バンテリンドーム ナゴヤ
2022年 8月 3日(水)	福岡県	福岡 PayPay ドーム
2022年 9月 4日(日)	北海道	札幌ドーム
2022年 9月11日(日)	岩手県	遠野運動公園陸上競技場
2022年 9月17日(土)	鳥取県	Axis バードスタジアム
2022年10月 2日(日)	長野県	松本平広域公園総合球技場 サンプロ アルウィン
2022年10月30日(日)	大阪府	パナソニック スタジアム 吹田
2022年11月 3日(木・祝)	東京都	国立競技場
2022年11月20日(日)	熊本県	えがお健康スタジアム
2022年11月27日(日)	沖縄県	タピック県総ひやごんスタジアム
2022年12月11日(日)	茨城県	茨城県立カシマサッカースタジアム
2022年12月18日(日)	山口県	山口きらら博記念公園やまぐち富士商ドーム
2022年12月25日(日)	宮崎県	ユニリーバスタジアム新富
2023年 2月 5日(日)	神奈川県	横浜スタジアム
2023年 3月 5日(日)	京都府	たけびしスタジアム京都
2023年 3月11日(土)	群馬県	アースケア敷島サッカー・ラグビー場

### ▼JFAユニクロサッカーキッズ 詳細はこちら

[https://www.jfa.jp/grass\\_roots/festival/kidsfestival-usk/](https://www.jfa.jp/grass_roots/festival/kidsfestival-usk/)



※新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、予定が変更となる可能性あり。  
※各イベント概要、参加者募集についてはJFA公式ウェブサイトをご参照。

## ビーチサッカー日本代表候補ら総勢60人でビーチクリーン活動 ～海洋ごみ削減に向けた「海ごみゼロウィーク」に賛同～

5月19日、ビーチサッカー日本代表候補とチームスタッフ、ヴィアティン三重と東京ヴェルディのビーチサッカーチームに所属する選手、JFA役職員ら総勢60人が、高円宮記念JFA夢フィールドがある千葉市美浜区の幕張の浜に集まり、清掃活動を行った。

これは、JFAの「アスパス!」の活動の一環として、日本財団と環境省が推進する「海ごみゼロウィーク」に賛同して実施したもので、JFAにとっては夢フィールドのお膝元となるこの地域への社会貢献活動でもある。海ごみゼロウィークでは青いアイテムを身につけることが推奨されていることから、選手やスタッフらは日本代表ユニフォームや青色のトレーニングウェアを着用して行った。

ビーチサッカー日本代表は今年3月に沖縄で行ったトレーニングキャンプでもビーチのごみ拾いをするなど、クリーン活動に積極的に取り組んでいる。



幕張の浜で清掃活動に励む選手たち



### サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行(0005) 渋谷支店(135)  
普通預金 口座番号 0290451 公益財団法人日本サッカー協会  
サッカーファミリー復興支援金口  
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

### 「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

利用方法：  
【電話】03-5276-8838  
【FAX】廃止  
【フォーム】[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0TrrvO-Leh64Nomkz4YOCQAYouVhhmWtVs3EGjIW\\_ZdkU5w/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSd0TrrvO-Leh64Nomkz4YOCQAYouVhhmWtVs3EGjIW_ZdkU5w/viewform?usp=sf_link)  
利用時間：平日12:00～18:00(土日祝、年末年始等除く)



## アディダス ジャパン(株) 提供

日本代表のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「CONDIVO21 トラックジャケット(チームパワーレッド/ホワイト、Mサイズ)」を1名様にプレゼント。



## JFA STORE 提供

「JFA STORE」は日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーン、目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページも用意しました。今号では「SOLR LANTERN (ソーラーランタン)」を1名様にプレゼント。



<https://official-store.jfa.jp/>

**JFA STORE**



※モノトーンの日本代表エンブレムがデザインされた小物の収納が可能なLEDライト付き防水マルチボトル

### プレゼント応募方法

#### ■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/Gcn28XYLBsAfPYFg6>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスしてご応募ください。



#### ■はがき

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3丁目10番15号) JFAハウス  
公益財団法人日本サッカー協会・広報部  
「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnewsのご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。発送は2022年7月下旬の予定ですが新型コロナウイルスの感染拡大対策の影響により、お届けに大幅な遅れが生じる場合があります。予めご了承ください。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用いたしません。また、お送りいただいた葉書は返却いたしません。

## 公益財団法人日本サッカー協会機関誌

# JFA news

発行人：須原清貴

発行所：公益財団法人日本サッカー協会

〒113-8311

東京都文京区サッカー通り(本郷3-10-15) JFAハウス

TEL.050-2018-1990(代) / FAX.03-3830-2005

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 広報部

編集：編集長 加藤秀樹

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

日本サッカー協会(JFA)は現在、主にウェブ会議システム等を用いて会議や会見、取材等を実施しています。本誌の取材につきましてもウェブ会議システムや電話、書面による取材で皆さまに変わらぬ情報を届けてまいります。

JFAはこうした取り組みが新型コロナウイルス感染拡大を抑止し、一日も早い終息に寄与するとともに、働き方改革の推進などより良い社会の実現に向けた仕組みづくりの一助になればと考えております。

次号2022年7月情報号は、2022年7月21日発売予定

[特集]

私のサッカーライフ

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

### ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

日本サッカー協会 Official Online Shop

<https://webshop.jfa.jp/fs/jfagoods/c/top>

※クレジットカード決済のみ。

上記サイトでは本誌のほかJFA関連発行物の

購入が可能です。

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、

年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記インターネットよりお申し込みください。

・チーム登録をされているご購入者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、JFA

公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムにログインして

いただき、変更をお願いします。



KIRIN

さあ、

# 免疫ケアで 健康管理!

健康な人の免疫機能の維持をサポート  
[ プラズマ乳酸菌の研究報告 ]

# IMUSE



機能性表示食品



果汁1%

【届出表示】本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis* strain Plasma) が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC (プラズマサイトイド樹状細胞) に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。

●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国の許可を受けたものではありません。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

## 免疫のひみつ スペシャルムービー

声優に花江夏樹さん、竹達彩奈さんらを起用。「免疫のひみつ」について楽しく学ぶことができます。

詳しくはこちら!



キリンホールディングス株式会社  
〈お客様相談室〉 ☎ 0120-770-502  
受付時間10:00~16:00 (土日祝日除く)

IMUSE <https://www.imuse-p.jp/>  
のんだあとはリサイクル。





定価600円(本体545円)